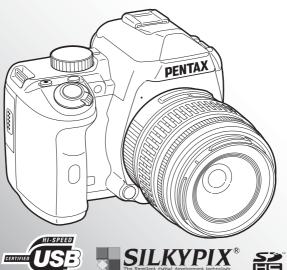
PENTAX

デジタル一眼レフカメラ

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタル一眼レフカメラ K-r をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

使用できるレンズについて

このカメラで使用できるレンズは、基本的にDA・DA L・D FA・FA Jまたは絞り **A**（オート）位置のあるレンズです。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、本書のp.56およびp.312をご覧ください。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXおよびペンタックス、smc PENTAXはHOYA株式会社の登録商標です。
K-r、PENTAX Digital Camera Utility、SDMはHOYA株式会社の商標です。
Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
SDHCロゴは、SD-3C、LLCの商標です。
この製品はAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の許可のもと、DNG技術を取り入れています。
DNGロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
SILKYPIXは、株式会社市川ソフトラボラトリーの登録商標です。
IrSimple™、IrSS™は、Infrared Data Association®の商標です。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。なお、本文中にはTM、®マークは明記していません。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。
PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

本機を使用するにあたって

- テレビ塔など強い電波や磁気を発生する施設の周囲や、強い静電気が発生する場所では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが誤作動を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特にレンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、バッテリー／電池またはACアダプターを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。
- カメラの赤外線ポートを目に向けた状態で送信を行わないでください。目に影響を与える場合があります。

- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ち続けると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

警告

- バッテリー充電器とACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外をご使用になったり、指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグを外し、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因となります。

注意

- ACコードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理に曲げたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、ACコードの接続部をショートさせたり、触ったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器で充電式リチウムイオンバッテリー D-LI109 以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や爆発、充電器の故障の原因となります。

バッテリーについて

警告

- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

注意

- このカメラでは、決められたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの爆発、発火の原因となることがあります。
- バッテリーは分解しないでください。無理に分解をすると、爆発や液漏れの原因となります。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こしたときは、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分注意してください。
- バッテリーの「+」と「−」の接点に、針金やヘアピンなどの金属類が触れないようにご注意ください。
- バッテリーをショートさせたり、火の中へ入れないでください。爆発や発火の原因となります。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 発熱、発火、破裂の恐れがありますので、バッテリー使用の際は、下記注意事項を必ずお守りください。
  1. 専用充電器以外では絶対に充電しないこと。
  2. 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしないこと。
  3. 変形や、ショートさせたり分解・改造をしないこと。

電池の取り扱いについて

警告

- 電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。

注意

- 別売の単3形電池ホルダー（D-BH109）使用時は、単3形アルカリ電池、単3形リチウム電池、単3形ニッケル水素電池のいずれか4本を使用します。これら以外の電池は使用しないでください。カメラの性能が十分に発揮できない場合や、電池の破裂、発火の原因となることがあります。
- 単3形アルカリ電池、単3形リチウム電池は充電ができません。また電池は分解しないでください。無理に充電や分解をすると、破裂や液漏れの原因となります。
- 電池の「+」と「−」の向きを間違えて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池を交換するときは、メーカー、種類、容量の異なる電池を混ぜて入れないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- 充電式のニッケル水素電池以外は充電しないでください。破裂・発火の恐れがあります。このカメラに使用できる単3形電池の種類で、ニッケル水素電池以外は充電ができません。
- 電池の液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こした時は、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに十分ご注意ください。

カメラや付属品は乳幼児の手の届かない場所に

⚠ **警告**

- カメラや付属品を、乳幼児の手の届く場所には置かないでください。
  1. 製品の落下や不意の動作により、傷害を受ける恐れがあります。
  2. ストラップを首に巻き付け、窒息する恐れがあります。
  3. バッテリー／電池や SD メモリーカードなどの小さな付属品を飲み込む恐れがあります。

     万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

取り扱い上の注意

お使いになる前に

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証についてはご容赦ください。

バッテリー・充電器について

- バッテリーをフル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。特に高温下での保管は避けてください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微小の電流が流れて過放電になり、バッテリー寿命を縮める原因となります。
- 充電は使用する当日か前日にすることをお勧めします。
- 本製品に付属しているACコードは、バッテリー充電器D-BC109専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

持ち運びとご使用の際のご注意

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 強い振動、ショック、圧力などを加えないでください。オートバイ、車、船などの振動からは、クッションなどでくるんで保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。

- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- 三脚使用時は、ねじの締め過ぎに十分ご注意ください。

お手入れについて

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- レンズ、ファインダー窓のほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させる恐れがありますので、使用しないでください。
- CMOS センサーの清掃につきましては、できるだけ弊社修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。（有料）

保管について

- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。

その他

- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.53）をご覧ください。
- SDメモリーカードに記録されたデータは、カメラやパソコン等の機能による消去やフォーマットを行っても、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。データの取り扱いや管理は、お客様の責任において行ってください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属のCD-ROMと当社ホームページから登録が可能です。p.301を参照してください。

目次

使ってみよう 67

いろいろな撮影 85

ストロボの活用 173

撮影のための設定 191

いろいろな再生 219

画像を加工する 249

その他の設定を変更する 265

パソコンと接続する　291

付録　303

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 お使いになる前に

カメラの特長や付属品、各部の名称や機能について説明しています。

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に、操作を行ってください。

3 使ってみよう

基本の撮影方法と再生方法を説明しています。

4 いろいろな撮影

撮影に関する様々な機能を説明しています。

5 ストロボの活用

内蔵ストロボや外付けストロボの使用方法を説明しています。

6 撮影のための設定

画像処理、保存形式の設定などを説明しています。

7 いろいろな再生

様々な再生のしかた、消去、プロテクトなどを説明しています。

8 画像を加工する

画像のサイズ変更やフィルター加工、RAW画像の現像方法を説明しています。

9 その他の設定を変更する

画面表示やフォルダー命名規則など、カメラの設定変更のしかたを説明しています。

10パソコンと接続する

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明しています。

11付録

困ったときの対処のしかたや別売品のご紹介、各種資料を掲載しています。

本書で使用している表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

1 お使いになる前に

お使いになる前に、同梱品とカメラ各部の名称や機能を確認してください。

K-r カメラの特長

- 23.6×15.8mm、有効画素数約1240万画素のCMOSセンサーを採用し、高精細、高ダイナミックレンジの撮影ができます。
- イメージセンサーシフト方式の手ぶれ補正機構SR（Shake Reduction）を搭載。レンズの種類を問わずに手ぶれを防いで美しく撮影できます。
- 倍率約0.85倍、視野率約96％の従来の35ミリ判カメラと違和感のないファインダーで、マニュアルによるピント合わせが簡単にできます。また、ファインダーには測距点が赤く光るスーパーインポーズ機能を搭載しています。
- 画像モニターには、3型の大型液晶を採用。約92.1万ドットの高精細・広視野角タイプ、明るさ・色調整機能付きで見やすさを向上させています。
- 専用の充電式リチウムイオンバッテリーのほかに、別売の単3形電池ホルダーD-BH109を使用すると、市販の単3形リチウム電池、単3形ニッケル水素充電池、単3形アルカリ電池が使用できます。
- 画像モニターでリアルタイムに被写体を確認しながら撮影ができる、ライブビュー機能を搭載しています。
- レンズの特性を生かした動画の撮影ができます。またビデオ出力に対応しているため、撮影した静止画・動画をテレビなどで確認できます。
- ユニバーサルデザインの考え方を随所に導入し、大きな文字とハイコントラストで見やすい大型画像モニター、わかりやすいメニューにより、さらに操作しやすくなりました。
- CMOS センサーにはゴミがつきにくい SP コーティングが施されています。さらにダストリムーバル機能で付着したゴミを落とすことができます。
- カメラ内でフィルター処理ができるデジタルフィルターを搭載。撮影時に、カラーやソフトなどのフィルターを使用して撮影したり、撮影後にフィルターで加工することができます。
- 画像の仕上がり具合をプレビューしながら調整・設定ができるカスタムイメージを搭載し、より豊かな表現力を備えています。
- 画像の記録形式は汎用性の高いJPEG形式と、高品質で撮影後の画質調整が自在なRAW形式が選べるほか、JPEG+RAWの同時記録が可能。またRAWで撮影した画像は、カメラ内部でも簡易的な現像ができます。
- デジタルカメラならではの露出コントロールの手段として、任意に設定したISO感度に応じて絞り値・シャッター速度が自動調整される感度優先モード**Sv**が搭載されています。
- 赤外線通信（IrSimple／IrSS）に対応しており、携帯電話やプリンターと画像の送受信ができます。

手ぶれ補正機構SRについて

K-r の手ぶれ補正機構SR（Shake Reduction）は、ペンタックス独自の方式でイメージセンサーを磁力により高速で移動させ、ぶれを補正する機構になっています。
構図の変更などでカメラを振ると音がしますが、故障ではありませんのでご安心ください。

RAW画像の追加保存機能について

K-r では、JPEG 形式で撮影した直前の画像がカメラ内の撮影バッファに残っている場合、再生時に ⊿Av ボタンを押してRAW形式で追加保存することができます。
なお、以下の機能を設定して撮影した場合は、それぞれ次のRAW画像が保存されます。

• クロスプロセス	クロスプロセスオフのRAW画像
• デジタルフィルター	フィルターオフのRAW画像
• HDR撮影	標準露出のRAW画像
• 多重露出	多重露出されたRAW画像

35ミリ判一眼レフカメラと K-r では、35ミリ判フィルムとCMOSセンサーのフォーマットサイズが異なるために、同じレンズを使用しても写る範囲（画角）は同じにはなりません。

35ミリ判フィルムとCMOSセンサーの大きさ

35ミリ判フィルム　　：36×24mm
K-r のCMOSセンサー　：23.6×15.8mm

K-r と35ミリ判カメラでほぼ同じ範囲（画角）を撮影するには、35ミリ判カメラのレンズの焦点距離を約1.5で割った焦点距離のレンズを使用してください。

例）35ミリ判カメラで150mmのレンズを使う場合と同じ画角にするには、
150÷1.5＝100
K-r では、100mmのレンズを使用すればいいことになります。

逆に、K-r で使用しているレンズの焦点距離を35ミリ判カメラの焦点距離に換算するには、約1.5倍してください。

例）K-r に300mmレンズを使用した場合、
300×1.5＝450
35ミリ判カメラで450mmレンズ相当を使用したのと同じになります。

主な同梱品の確認

このカメラには以下の付属品が同梱されています。
カメラをお使いになる前に、付属品に不足がないかお確かめください。

ホットシューカバー FK
（カメラ装着）

アイカップFQ
（カメラ装着）

ボディマウントカバー
（カメラ装着）

USBケーブル
I-USB7

ストラップ
O-ST53

充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI109

バッテリー充電器
D-BC109

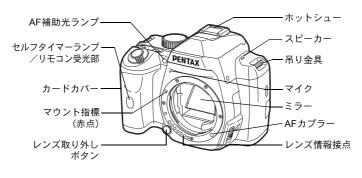
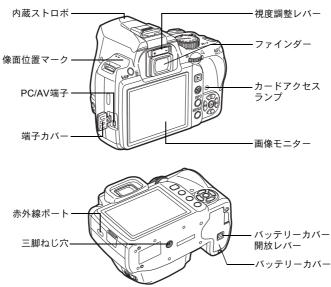
ACコード
D-CO2J

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW110

使用説明書（本書）

保証書

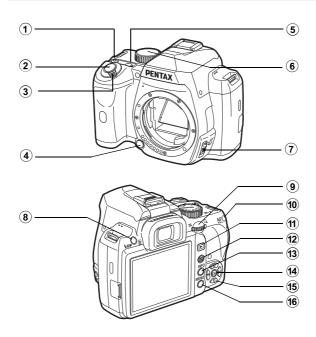
別売のアクセサリーについては、p.320を参照してください。

各部の名称と機能

※ 中央の図はアイカップFQを外した状態のイラストです。

撮影時

撮影時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。

メモ

ここでは工場出荷時の状態の機能を説明します。ボタンによっては、機能を変更することができます。

① ⦿（グリーン）ボタン
機能を割り当てて使用します。(p.197)

② シャッターボタン
画像を撮影します。(p.72)

③ 電源レバー
電源のON／OFFをします。(p.59)

④ レンズ取り外しボタン
レンズを取り外すときに押します。(p.57)

⑤ ☒Avボタン
露出補正値や絞り値を設定します。(p.104、p.110、p.117)

⑥ モードダイヤル
撮影モードを切り替えます。(p.91)

⑦ フォーカスモードレバー
オートフォーカス（p.122）とマニュアルフォーカス(p.134)を切り替えます。

⑧ ϟUP/🗑ボタン
内蔵ストロボをポップアップします。(p.75)

⑨ 電子ダイヤル
シャッター速度／絞り値／ISO感度／露出補正値を設定します。

⑩ AF/AE-Lボタン
ピントを合わせたり、露出値を記憶するように設定することができます。(p.112、p.120、p.123)

⑪ ▶ボタン
再生モードに切り替えます。(p.82)

⑫ LVボタン
ライブビューを表示します。(p.159)

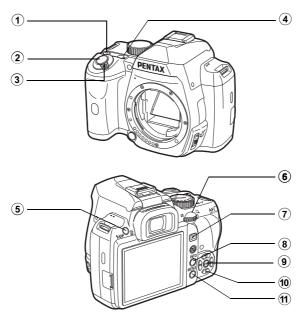
⑬ INFOボタン
ステータススクリーンを表示します。(p.25)
ステータススクリーンが表示されているときは、コントロールパネルを表示します。(p.26)

⑭ OKボタン
コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときは、選択した項目を決定します。
測距点が▦（セレクト）に設定されているときは、測距点移動の有効／無効が切り替わります。(p.129)

⑮ 十字キー（▲▼◀▶）
ドライブモード／ストロボモード／ホワイトバランス／ISO感度の設定画面を呼び出します。(p.86)
コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときは、カーソルの位置や項目を変更します。
測距点が移動できる状態のときは、測距点を移動します。

⑯ MENUボタン
「📷撮影1」メニュー（p.87）を表示します。続いて、十字キー（▶）を押すと、他のメニューに切り替わります。

再生時

再生時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。

① **◉（グリーン）ボタン**
設定値のリセットなどを行います。（p.197）

② **シャッターボタン**
半押しすると撮影モードに切り替わります。

③ **電源レバー**
電源のON／OFFをします。（p.59）

④ **Av ボタン**
直前に撮影した画像がJPEG形式で撮影バッファにその画像が残っている場合に、RAW形式の画像を追加保存します。（p.83）

⑤ **UP/ ボタン**
画像を消去します。（p.84）

⑥ **電子ダイヤル**
再生した画像を拡大表示（p.223）、またはマルチ画面表示（p.224）します。

⑦ **▶ボタン**
撮影モードに切り替えます。

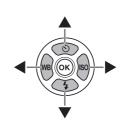
⑧ **INFOボタン**
画像モニターに撮影情報を表示します。（p.27）

⑨ **OKボタン**
メニュー画面や再生画面で選択した設定を決定します。

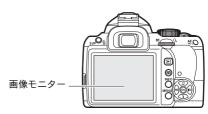
⑩ **十字キー（▲▼◀▶）**
メニュー画面や再生画面でカーソルの位置や項目を変更します。
十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットを表示します。（p.220）

⑪ **MENUボタン**
「▶再生1」メニュー（p.221）を表示します。続いて、十字キー（▶）を押すと、他のメニューに切り替わります。

キーの表記について

本書では、十字キーを次のように表記します。

撮影情報の表示

画像モニター

画像モニターには、カメラの状態によって様々な情報が表示されます。

画像モニターの明るさと色味を調整することができます。（p.277、p.278）

電源ON時／モードダイヤル操作時

電源を入れたとき、またはモードダイヤルを回したときに、画像モニターに3秒間（初期設定）ガイドが表示されます。

1 撮影モード（p.91）
2 ワールドタイム（p.270）（設定が目的地のときのみ表示）
3 現在の日時（p.64）

「詳細設定1」メニューの「ガイド表示」をオフにすると、ガイドは表示されません。（p.274）

撮影時

撮影時にはステータススクリーンが表示され、撮影機能の設定内容が表示されます。**INFO**ボタンを押すと、表示が切り替わります。

● ステータススクリーン

（説明のため全項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）

1 撮影モード（p.91）
2 AEロック（p.120）
3 インターバル撮影（p.149）／多重露出（p.153）／デジタルフィルター（p.155）／HDR撮影（p.209）／クロスプロセス（p.216）
4 カスタムイメージ（p.213）／クロスプロセス（p.216）
5 フォーカスモード（p.122）
6 測光方式（p.114）
7 バッテリー／電池残量（p.49）
8 電子ダイヤル操作ガイド
9 シャッター速度
10 絞り値
11 ISO AUTO
12 ISO感度（p.98）
13 露出補正（p.117）／露出ブラケット（p.118）
14 露出バー
15 ストロボ光量補正（p.81）
16 ホワイトバランス微調整（p.204）
17 ドライブモード（p.86）
18 ホワイトバランス（p.200）
19 測距点切替（p.129）
20 ISO感度（p.98）
21 ストロボモード（p.75）
22 記録形式（p.195）
23 JPEG記録サイズ（p.192）
24 JPEG画質（p.193）
25 Shake Reduction（p.141）
26 撮影可能枚数／⦿ボタン操作ガイド

● **コントロールパネル**

ステータススクリーンで**INFO**ボタンを押すと表示され、設定を変更することができます。

1	2
3 4 5 6 7	
8 9 10 11 12	
13 14 15 16 17	
18	19

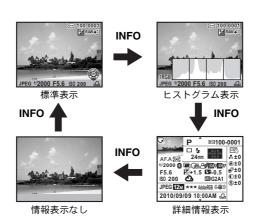
1 機能名称
2 設定
3 カスタムイメージ（p.213）
4 クロスプロセス（p.216）
5 デジタルフィルター（p.155）
6 HDR撮影（p.209）
7 Shake Reduction（p.141）
8 測光方式（p.114）
9 AFモード（p.125）
10 測距点切替（p.129）
11 ハイライト補正（p.207）
12 シャドー補正（p.208）
13 記録形式（p.195）
14 JPEG記録サイズ（p.192）
15 JPEG画質（p.193）
16 ディストーション補正（p.211）
17 倍率色収差補正（p.211）
18 現在の日時
19 撮影可能枚数

- カメラの設定状況により変更できない項目は、選択できません。
- ステータススクリーンでは、設定変更中または操作できるボタンのガイド表示が青（「🔧詳細設定1」の「ステータススクリーン」の設定が「配色1」の場合）で表示されます。
- ステータススクリーンは何も操作しないと、30秒で消灯します。**INFO**ボタンを押すと、再度表示されます。
- コントロールパネルは何も操作しないと、30秒でステータススクリーンに戻ります。
- 「📷撮影4」メニューの「モードメモリ」（p.288）で「撮影情報表示」を☑（オン）に設定し、画面を「表示なし」にしておくと、次に電源を入れたときに「表示なし」の画面から表示されます。
- ステータススクリーン／コントロールパネルの撮影可能枚数の最大表示は「9999」です。撮影可能枚数が10000枚以上の場合も「9999」と表示されます。

再生時

画像再生時に**INFO**ボタンを押すと、表示情報が切り替わります。

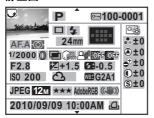
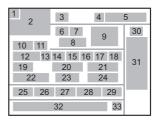
標準表示	撮影画像と記録形式、操作ガイドを表示します。
ヒストグラム表示	画像とヒストグラム（輝度／RGB）を表示します。動画のときは、表示されません。（p.30）
詳細情報表示	撮影時の詳細情報を表示します。（p.28）
情報表示なし	撮影画像のみを表示します。

標準表示　ヒストグラム表示　情報表示なし　詳細情報表示

メモ　再生時に最初に表示される情報は、前回最後に表示した情報です。「撮影4」メニューの「モードメモリ」（p.288）で「再生情報表示」を□（オフ）に設定すると、電源を入れるたびに標準表示から表示されます。

● 詳細情報表示

十字キー（▲▼）でページを切り替えます。

1ページ目

静止画

動画

2ページ目

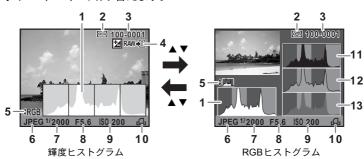
静止画／動画

1 回転情報（p.235）
2 撮影画像
3 撮影モード（p.91）
4 プロテクト（p.240）
5 フォルダー No.-ファイルNo.（p.279）
6 ドライブモード（p.86）
7 ストロボモード（p.75）
8 レンズ焦点距離
9 測距点（p.129）／AF方式（p.160）
10 フォーカスモード（p.122）
11 測光方式（p.114）
12 シャッター速度
13 デジタルフィルター（p.155）
14 HDR撮影（p.209）／多重露出（p.153）／クロスプロセス（p.216）
15 ハイライト補正（p.207）
16 シャドー補正（p.208）
17 ディストーション補正（p.211）
18 倍率色収差補正（p.211）
19 絞り値
20 露出補正（p.117）
21 ストロボ光量補正（p.81）
22 ISO感度（p.98）
23 ホワイトバランス（p.200）
24 ホワイトバランス微調整（p.204）
25 記録形式（p.195）
26 記録サイズ（p.165、p.192）
27 画質（p.165、p.193）
28 色空間（p.205）
29 Shake Reduction（p.141、p.166）
30 画像仕上（p.213）
31 カスタムイメージパラメーター（p.213）
32 撮影日時
33 DPOF設定（p.285）
34 記録時間
35 音声（p.166）
36 サウンド設定（p.165）
37 ドライブ（リモコン）
38 クロスプロセス（p.216）
39 情報改ざん警告
40 撮影者名（p.283）
41 著作権者名（p.283）

※ ライブビューで撮影した場合、9はAF方式が表示されます。
※ 7・21はストロボが発光した画像のみ表示されます。
※ 13・14・15・16・24は、設定されている画像のみ表示されます。
※ RAW画像は、26・27は表示されません。

● ヒストグラム表示

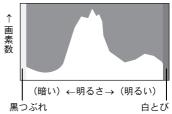
静止画の再生時に、画像の明るさの分布を表した「輝度ヒストグラム」と、色の強度の分布を表した「RGBヒストグラム」の2種類のヒストグラムが表示できます。輝度ヒストグラム／RGBヒストグラムの表示は十字キー（▲▼）で切り替えます。

輝度ヒストグラム　　RGBヒストグラム

1	ヒストグラム（輝度）	**7**	シャッター速度
2	プロテクト	**8**	絞り値
3	フォルダー No.-ファイルNo.	**9**	ISO感度
4	RAW形式追加保存可能	**10**	DPOF設定
5	RGBヒストグラム／輝度ヒストグラム切り替え	**11**	ヒストグラム（R）
		12	ヒストグラム（G）
6	記録形式	**13**	ヒストグラム（B）

※ 2はプロテクトが設定されている画像のみ表示されます。
※ 4は直前に撮影した画像がJPEG 形式で、撮影バッファにその画像が残っている場合のみ表示されます。（p.83）

「▶再生1」メニューの「白とび黒つぶれ警告」（p.222）を☑（オン）にすると、白とび黒つぶれ部分が点滅表示されます。（RGBヒストグラム表示・詳細情報表示のときを除く）

ヒストグラムの見かた

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を積み上げて示します。
撮影の前後にヒストグラムの形状や分布を見ることで、露出レベルと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。

☞露出を補正する （p.117）
☞明るさを補正する （p.207）

画像の明るさを見る

極端な明暗部がない適正な明るさの画像の場合、グラフは中間域に分布します。暗い画像ではグラフの分布は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

暗い画像

明部暗部の少ない画像

明るい画像

また、画像の中で、暗すぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明るすぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
K-r には、黒つぶれ部分を黄色く、白とび部分を赤く点滅表示させる機能があります。

☞撮影した画像を再生する （p.82）
☞再生時の表示方法を設定する （p.222）
☞クイックビューの表示を設定する （p.276）

色のバランスを見る

「RGBヒストグラム」では各色ごとの強度分布を表示します。ホワイトバランスがうまく調整されている画像は、各色のグラフ右部分が似た形になります。1色のみ左に偏っている場合などは、色がかぶっているといえます。

☞ホワイトバランスを調整する （p.200）

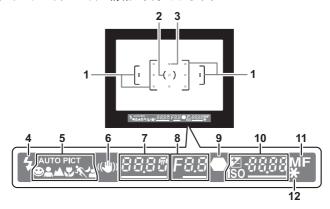
操作ガイド

画像モニターには、その状態で操作できるボタン等を示すガイドが表示されます。

（表示例）

▲	十字キー（▲）	MENU	**MENU**ボタン
▼	十字キー（▼）	INFO	**INFO**ボタン
◀	十字キー（◀）	AEL	**AF**/**AE-L**ボタン
▶	十字キー（▶）	⦿	グリーンボタン
OK	**OK**ボタン	±	±**Av**ボタン
電子ダイヤル	電子ダイヤル	🗑	**⚡UP**/🗑ボタン
SHUTTER	シャッターボタン		

ファインダー

ファインダー内には次の情報が表示されます。

1　AFフレーム（p.58）
2　スポット測光フレーム（p.115）
3　測距点（p.129）
4　ストロボマーク（p.75）
点灯：ストロボが発光可能なとき
点滅：ストロボ使用がお勧めなのに発光する設定になっていないとき

5 ピクチャーモードアイコン（p.92）
ピクチャーモードで撮影する場合に、撮影時のモードが点灯
（AUTO PICTの標準モード）／（人物）／（風景）／（マクロ）／（動体）／（夜景人物）

6 手ぶれ補正（p.141）
手ぶれ補正機能が有効なときに点灯

7 シャッター速度
撮影時、調整時のシャッター速度
電子ダイヤルでシャッター速度調整が可能なときはアンダーラインが点灯
ノイズリダクション処理中は、処理時間をカウントダウン表示（p.100）

8 絞り値
撮影時、調整時の絞り値
電子ダイヤルで絞り調整が可能なときはアンダーラインが点灯
ノイズリダクション処理中は「**nr**」と点滅表示（p.100）

9 合焦マーク（p.70）
点灯：合焦したとき（ピントが合ったとき）
点滅：非合焦のとき（ピントが合わなかったとき）

10 撮影可能枚数／露出補正値
現在の画質、記録サイズ設定であと何枚撮影できるかを表示
モードダイヤルが**M**のときは、適正露出値との差を表示（p.111）
点灯： 露出補正値を表示（p.117）
Avボタンを押している間は、電子ダイヤルで露出補正値が調整可能となり、アンダーラインが点灯
ISO点灯：ISO感度を表示
電子ダイヤルでISO感度が調整可能なときはアンダーラインが点灯

11 フォーカスモード（p.122）
MFのときに点灯

12 AEロック（p.120）
AEロック中に点灯

- シャッターボタンを半押しにすると、オートフォーカスに使われた測距点が赤く点灯（スーパーインポーズ）します。（p.129）
- 撮影可能枚数の最大表示は「9999」です。撮影可能枚数が10000枚以上の場合も「9999」と表示されます。
- 「撮影4」メニューの「AF/AE-Lボタン」が「AFキャンセル」に設定されている場合、**AF**/**AE-L**ボタンを押している間、ファインダー内に**MF**が表示されます。（p.123）

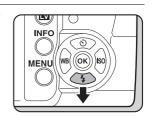
機能の設定方法

機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／メニューのいずれかで設定します。
ここでは、基本的な機能の設定方法を説明します。

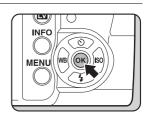
ダイレクトキーで設定する

撮影モードで十字キー（▲▼◀▶）を押すとドライブモード／ストロボモード／ホワイトバランス／ISO感度が設定できます。（p.86）
ここでは「ストロボモード」を設定する場合を例に説明します。

1 撮影モードで十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ

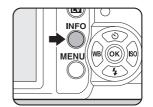
3 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

- ダイレクトキーの操作ができるときは、ステータススクリーンにダイレクトキーの操作ガイドが表示されます。測距点を ▦（セレクト）に設定して測距点を移動しているときはダイレクトキーの操作はできません。その場合は **OK** ボタンを長押ししてください。（p.130）

コントロールパネルで設定する

撮影時に表示されるステータススクリーンで設定を確認し、コントロールパネルに切り替えて設定を変更することができます。
ここでは「JPEG画質」を設定する場合を例に説明します。

1 ステータススクリーンを確認し、INFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で変更する項目を選ぶ

変更できない項目は選択できません。

3 OK ボタンを押す

選択した項目の設定画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）または電子ダイヤルで設定値を選ぶ

5 OK ボタンを押す

コントロールパネルに戻り、撮影できる状態になります。

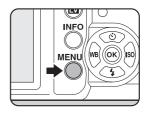
- 手順2で変更する項目が選択されている状態で、電子ダイヤルを回して設定を変更することもできます。パラメーターなどの詳細設定は、**OK** ボタンを押してから変更します。
- ライブビュー（p.159）表示中は、ステータススクリーン／コントロールパネルが表示されません。「撮影」メニューで設定してください。

メニューで設定する

「撮影」／「再生」／「詳細設定」／「Cカスタム」メニューの操作方法を説明します。
ここでは「撮影2」メニューの「長秒時NR」を設定する場合を例に説明します。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

画像モニターに「撮影1」メニューが表示されます。

再生モードでMENUボタンを押すと「再生1」メニューが表示されます。また、モードダイヤルがSCN（シーン）になっているときは、「SCNシーン」メニューが表示されます。

2 十字キー（▶）を押す

1回押すごとに「撮影2」→「撮影3」→「撮影4」→「再生1」・・・と順に切り替わります。

電子ダイヤルでメニューを切り替えることもできます。

1 2 3 4 C
カスタムイメージ
記録形式 JPEG
JPEG記録サイズ 12M
JPEG画質 ★★★
AFモード AF.A
測光方式
測距点切替 AUTO 5
MENU 終了

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

設定できる項目が表示されます。

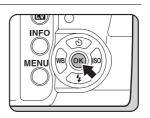
ポップアップがあるときは、ポップアップに移行します。サブメニューがあるときは、サブメニューが表示されます。

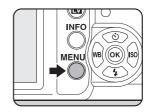
5 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

6 OKボタンを押す

設定が決定されます。

サブメニューが表示されていたときは、**MENU**ボタンを押します。

続けて他の項目が設定できます。

7 MENUボタンを押す

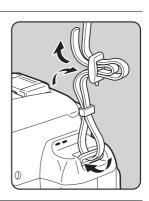
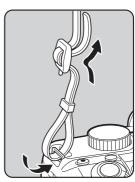
メニュー選択前の画面に戻ります。

MENUボタンを押してメニュー画面を閉じても、電源を入れたままバッテリーを取り出したりするなど誤った操作で電源を切ると、設定は保存されません。

- 次にメニューを表示したときに、最後に選択したメニューのページから表示するか、常に「撮影1」から表示するかを設定することができます。(p.275)
- 各メニューの設定内容については、以下を参照してください。
  - 「撮影」メニュー　☞p.87
  - 「再生」メニュー　☞p.221
  - 「詳細設定」メニュー　☞p.266
  - 「Cカスタム」メニュー　☞p.89

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでに必要な準備について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に、操作をしてください。

ストラップを取り付ける

1 **ストラップの先端をカメラの吊り金具に通し、留め具の内側に固定する**

2 **もう一方も同様に取り付ける**

バッテリー／電池をセットする

カメラにバッテリーまたは電池をセットします。

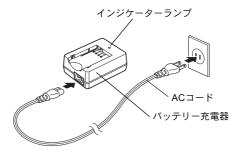
バッテリーを使用する

バッテリーは専用のD-LI109を使用します。

バッテリーを充電する

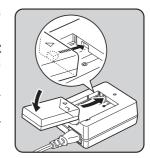
はじめて使用するときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1 バッテリー充電器にACコードを接続する

2 ACコードをコンセントに差し込む

3 専用バッテリーを ▲ マークがある面を上にしてセットする

図のようにバッテリーをバッテリー充電器に斜めに差し込んでからはめ込みます。

充電中はインジケーターランプが点灯します。

充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4 充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り外す

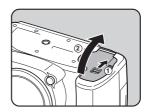
- 付属のバッテリー充電器D-BC109では、専用の充電式リチウムイオンバッテリー D-LI109以外は充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケーターランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。

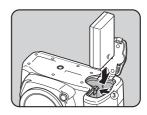
- 充電時間は、最大で約240分です（周囲の温度や充電状態によって異なります）。周囲の温度が0～40℃の範囲で充電してください。
- 正しく充電しても使用できる時間が短くなったらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーを入れる／取り出す

注意

- 電源が入っているときは、バッテリーカバーを開けたり、バッテリーを取り出したりしないでください。
- 長い間使わないときは、バッテリーを取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、バッテリーが液漏れをすることがあります。
- 長時間バッテリーを取り外して、新しくバッテリーを入れたときに日時がリセットされていたら、「日時を設定する」(p.64) の手順に従って、設定し直してください。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると、取り出せなくなる場合があります。また、バッテリーの電極は、乾いた柔らかい布でよく拭いてから入れてください。
- カメラを長時間連続で使用した場合、本体やバッテリーが熱くなっていることがありますので、ご注意ください。

1 バッテリーカバー開放レバーを矢印の方向（①）にスライドさせてバッテリーカバーを開ける（②）

2 バッテリーの ▲ マークをカメラの外側に向け、バッテリーの側面でバッテリーロックレバーを矢印③の方向に押しながら挿入する

バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックレバーを矢印③の方向に手で押します。バッテリーが少し飛び出すので、引き抜いてください。

3 バッテリーカバーを閉める

電池を使用する

単3形電池を使用する場合は、別売の単3形電池ホルダーD-BH109をご用意ください。（p.320）
電池は、単3形リチウム電池／単3形ニッケル水素充電池／単3形アルカリ電池のいずれか4本を使用します。

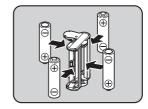
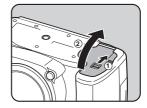
対応電池	特性
単3形リチウム電池	低温に強く、寒い地域での撮影に向いています。
単3形ニッケル水素充電池（Ni-MH）	充電して繰り返し使用できるので経済的です。 充電には、ご使用の充電池に対応した市販の充電器が必要です。
単3形アルカリ電池	使用していたバッテリー／電池が消耗してしまっても、手軽に入手できます。ただし、使用条件によっては、カメラの性能を十分に発揮させられない場合がありますので、緊急用や動作確認用として以外は、使用をお勧めしません。

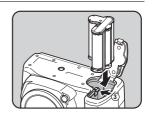
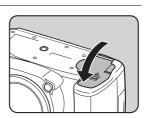
- ニッケルマンガン電池は電圧特性上、誤動作の恐れがあるため使用しないでください。
- このカメラで使用する単3形リチウム電池／単3形アルカリ電池は充電式ではありません。
- 電源が入っているときに、バッテリーカバーを開けたり、電池を取り出したりしないでください。
- 長い間使わないときは、電池を取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、電池が液漏れを起こすことがあります。
- 長時間電池を取り外して、新しく電池を入れたときに日時がリセットされていたら、「日時を設定する」(p.64)の手順に従って、設定し直してください。
- 電池は正しく入れてください。間違った向きに入れると、故障の原因になります。また、電池の電極はよく拭いてから入れてください。
- 電池は、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で交換してください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。電池容量が正しく表示されないなど誤動作の原因となります。

1 電池ホルダーに単3形電池をセットする

電池ホルダーの＋／－の表示に合わせて入れてください。

2 バッテリーカバー開放レバーを矢印の方向（①）にスライドさせてバッテリーカバーを開ける（②）

3 バッテリー室に電池ホルダーを挿入する

電池ホルダーの側面でバッテリーロックレバーを矢印③の方向に押しながら挿入し、ロックされるまで挿入します。

電池ホルダーを取り出すときは、バッテリーロックレバーを矢印③の方向に手で押します。電池ホルダーが少し飛び出すので、引き抜いてください。

4 バッテリーカバーを閉める

- 単3形電池を使用するときは、「詳細設定3」メニューの「単3形電池の種類」を設定してください。（p.282）
- 長時間ご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC109J（別売）のご使用をお勧めします。（p.50）
- 正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。

バッテリー／電池容量の確認

ステータススクリーンに表示された■で、バッテリー／電池の残量を確認することができます。

ステータススクリーン	バッテリー／電池の状態
■（緑）	バッテリー／電池が十分に残っています。
■（緑）	少し減っています。（バッテリーのみ）
■（オレンジ）	容量が少なくなりました。（電池のみ）
■（黄）	だいぶ減っています。（バッテリーのみ）
■（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源が切れます。

低温下や連続撮影を続けた場合、容量が十分に残っていても■／■／■（赤）が点灯することがあります。電源を入れ直してみて■（緑）が表示されれば、そのままお使いになれます。

撮影可能枚数と再生時間（バッテリーフル充電／新品電池交換時）

バッテリー／電池	使用温度	一般撮影	ストロボ撮影		再生時間
			使用率50％	使用率100％	
D-LI109	23℃	約560枚	約470枚	約400枚	約300分
	0℃	約420枚	約340枚	約280枚	約240分
単3形リチウム電池	23℃	約1600枚	約1000枚	約890枚	約620分
単3形ニッケル水素充電池（1900mAh）	23℃	約610枚	約400枚	約300枚	約330分
単3形アルカリ電池	23℃	約200枚	約120枚	約90枚	約270分

撮影枚数（一般撮影、ストロボ使用率50％）はCIPA規格に準じた測定条件、その他については当社の測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

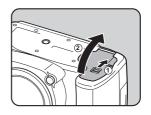
- 使用環境の温度が下がると、バッテリーや電池の性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備のバッテリー／電池を用意して、衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下したバッテリー／電池の性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 海外旅行、寒冷地で撮影する場合や大量に撮影する場合は、予備のバッテリーや電池をご用意ください。

ACアダプター（別売）を使用する

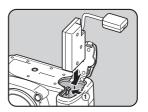
画像モニターを長時間使用するときや、パソコンやAV機器と接続するときは、ACアダプターキットK-AC109J（別売）のご使用をお勧めします。

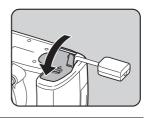
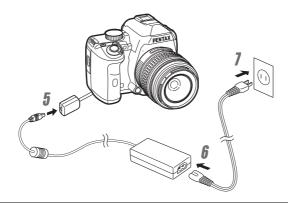
1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 バッテリーカバーを開ける

p.45の手順1を参照してください。
バッテリー／電池がセットされていた場合は、バッテリー／電池を取り出します。

3 バッテリー室にDCカプラーを挿入する

DCカプラーの側面でバッテリーロックレバーを矢印①の方向に押しながら挿入し、ロックされるまで挿入します。

DCカプラーを取り出すときは、バッテリーロックレバーを矢印①の方向に手で押します。DCカプラーが少し飛び出すので、引き抜いてください。

4 バッテリーカバーを閉める

バッテリーカバーから接続ケーブルが引き出されます。

5 DCカプラーとACアダプターのDC端子の▲印を合わせて接続する

6 ACコードをACアダプターに接続する

7 コンセントに電源プラグを差し込む

- ACアダプターを接続または外すときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- 各端子はしっかりと接続してください。カメラがSDメモリーカードにアクセス中に接続部が外れると、SDメモリーカードやデータが破損する恐れがあります。
- ACアダプターを使用しているときは、バッテリーカバーから接続ケーブルが引き出された状態になります。カメラを机などに立てて置くことができませんので注意してください。

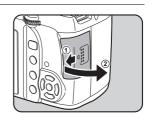
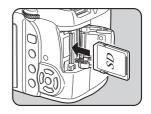
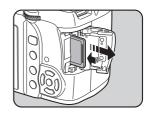
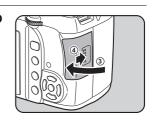
ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC109Jの使用説明書をあわせて参照してください。

SDメモリーカードを入れる／取り出す

このカメラで使用できるカードは、市販のSDメモリーカードとSDHCメモリーカードです（使い方はいずれも同じです。本書では以下SDメモリーカードと表記します）。SDメモリーカードを入れるときや取り出すときは、必ず電源をOFFにしてください。

注意
- カードアクセスランプ点灯中は、絶対にSDメモリーカードを取り出さないでください。
- 電源がONのときにカードカバーを開くと、電源がOFFになります。使用中にカバーを開けないでください。
- 未使用または他のカメラやデジタル機器で使用した SD メモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットの方法については「SDメモリーカードをフォーマットする」(p.268) を参照してください。
- 動画を撮影する場合は、高速のSDメモリーカードを使用してください。書き込みが間に合わなくなると、撮影途中で終了する場合があります。

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 カードカバーを矢印の方向にスライドさせてから開く（①→②）

3 SD メモリーカードのラベル面を画像モニター側に向け、奥まで押し込む

SDメモリーカードを取り出すときは、カードをさらに押し込みます。

4 カードカバーを閉じ（③）、矢印の方向にスライドさせる（④）

SDメモリーカード使用上の注意

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。
- カメラを使用した直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合があります。
- SDメモリーカードへのアクセス中は、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データやカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SD メモリーカードのフォーマット中は絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で失われる場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間SDメモリーカードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードのアクセス中にカードを取り出したり、バッテリー／電池を抜いたとき

- 長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用・保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用・保管は避けてください。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。
- 未使用品や他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。
  ☞SDメモリーカードをフォーマットする（p.268）
- フォーマットしたカードでも、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。廃棄にはSDメモリーカード本体を物理的に破壊する、譲渡の際は市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってSDメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
- SDメモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

画像の記録サイズと画質

記録形式が「JPEG」の場合

撮影する画像の記録サイズ（縦横の大きさ）と画質（JPEG画像記録時のデータ圧縮率）は、撮影後の画像の用途に応じて設定します。
記録サイズの数値や画質の★の数が多くなるほど、プリントしたときに鮮明な画像を得ることができます。しかし、画像の容量が増えるので、撮影できる枚数（SDメモリーカードに記録できる枚数）は少なくなります。
また、撮影した写真や印刷した写真の美しさ、鮮明さには、画質設定や露出制御などの撮影時の設定や使用するプリンターの解像度なども関係するので、記録サイズをむやみに大きくする必要はありません。例えば、はがきサイズにプリントする場合は、2M（1728×1152）程度が目安です。用途に応じて適切な記録サイズと画質を設定してください。

☞JPEG記録サイズを設定する（p.192）
☞JPEG画質を設定する（p.193）

● JPEG記録サイズ／JPEG画質と撮影可能枚数の目安

（2GBのSDメモリーカードを使用した場合）

JPEG画質 / JPEG記録サイズ	★★★ スーパーファイン	★★ ファイン	★ エコノミー
12M （4288×2848）	281枚	495枚	975枚
10M （3936×2624）	332枚	585枚	1138枚
6M （3072×2048）	543枚	945枚	1807枚
2M （1728×1152）	1617枚	2793枚	5121枚

- 撮影可能枚数は、被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

撮影可能枚数が500枚を超える場合、撮影画像は500枚毎にフォルダーが分かれて保存されます。ただし、露出ブラケットは、500枚を超えても撮影が終了するまで同じフォルダーに保存されます。

記録形式が「RAW」の場合

K-rでは、汎用性の高いJPEG形式のほかに、高品質で撮影後の画質調整が自在なRAW形式を選ぶことができます。また、RAWのファイル形式として、ペンタックス独自のファイルフォーマットのPEFと、Adobe Systems社が提唱する汎用の公開フォーマットのDNG（Digital Negative）のいずれかが選択できます。撮影可能枚数は、2GBのSDメモリーカードの場合、PEF／DNGともに98枚が目安です。

☞記録形式を設定する （p.195）

レンズを取り付ける

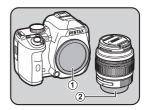
カメラ本体にレンズを取り付けます。
K-rでは、以下のレンズを使うと、カメラの撮影モードがすべて利用できます。
(a) DA・DA L・D FA・FA Jレンズ
(b) 絞り**A**（オート）位置のあるレンズを**A**位置で使用

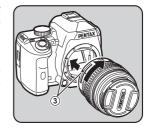
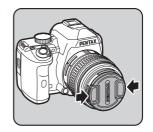
注意 不用意なレンズの動きを防ぐため、レンズを着脱するときは電源を切ってください。

メモ
- (b) のレンズを絞り **A** 位置以外で使用する場合は、機能が制限されます。「「22. 絞りリングの使用」設定時の注意」(p.314) を参照してください。
- 上記以外のレンズやアクセサリーを使用する場合は、工場出荷時の設定ではカメラが作動しません。「**C**カスタム4」メニューの「22. 絞りリングの使用」で「許可」に設定してください。(p.314)

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 ボディマウントカバー（①）とレンズカバー（②）を取り外す

レンズカバーを外したレンズは、マウント周辺を傷つけないため、カメラに取り付ける面を上にして置いてください。

3 カメラとレンズのマウント指標（赤点、③）を合わせ、「カチッ」と音がするまでレンズを右に回してレンズを取り付ける

レンズ取り付け後、レンズを左に回して確実にロックされていることを確認してください。

4 図の矢印部分を内側に押してレンズキャップを取り外す

レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタン（④）を押しながらレンズを左へ回します。

- 本製品に他社製レンズを使用されたことによる事故、故障、不具合などにつきましては保証いたしかねます。
- カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系統のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

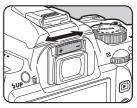
メモ

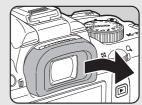
ボディマウントカバー（①）は工場出荷時の傷やほこり防止用のものです。別売アクセサリーとしてロック機構付きのボディマウントキャップKをご用意しています。

ファインダーの視度を調整する

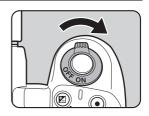
撮影者の視力に合わせて、ファインダーの視度を調整することができます。ファインダー内の表示が見づらいときは、視度調整レバーを左右に動かして、見やすい位置に調整してください。
視度は、約–2.5～+1.5m^{-1}の範囲で調整できます。

1 ファインダーをのぞきながら視度調整レバーを左右に動かす

ファインダー内のAFフレームがはっきり見える位置に調整します。
白い壁などの明るくて色ムラのない方へカメラを向けると調整しやすくなります。

AFフレーム

- 工場出荷時には、ファインダー部にアイカップFQが装着されています。アイカップFQを付けたままでも、視度調整は可能ですが、アイカップを外すと調整がしやすくなります。
- アイカップFQを外す場合は、矢印の方向に引っ張って外します。
  付けるときは、アイカップFQをファインダーアイピースの溝に確実にはめてください。
- 視度調整レバーを使っても、ご自分の視力に合わせることができない方のために、別売アクセサリーとして視度調整レンズアダプターMをご用意しています。ご利用の際は、アイカップFQを外してお使いください。（p.323）

電源を入れる

1 電源レバーを「ON」に合わせる

電源が入ります。
電源レバーを「OFF」に合わせると電源が切れます。

- カメラを使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- 一定時間操作をしないと、自動的に電源が切れます。電源をONにするには、電源を入れ直すか、次の操作をしてください。
  - シャッターボタンを半押しする
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／**INFO**ボタンのいずれかを押す
- 自動的に電源が切れるまでの時間は、初期設定では1分間です。「🔧詳細設定3」メニューの「オートパワーオフ」で変更できます。（p.281）

初期設定をする

工場出荷後カメラの電源を初めて入れると、画像モニターに「Language/言語」画面が表示されます。以下の手順に従って、画像モニターに表示される言語と現在の日付や時刻を設定してください。一度設定すれば、次回電源を入れたときには、これらの設定は必要ありません。

Language/言語

English	Dansk	Ελληνικά
Français	Svenska	Русский
Deutsch	Suomi	한국어
Español	Polski	中文繁體
Português	Čeština	中文简体
Italiano	Magyar	日本語
Nederlands	Türkçe	

MENU Cancel　OK OK

日本語で「日時設定」画面が表示されたときは、「日時を設定する」(p.64)の手順に従って日時を設定してください。

日時設定

表示スタイル ▸ 年/月/日　24h

日付　2010/01/01

時刻　00:00

設定完了

MENU 取消

言語を設定する

使用する言語を日本語に設定します。

1　十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

Language/言語

English	Dansk	Ελληνικά
Français	Svenska	Русский
Deutsch	Suomi	한국어
Español	Polski	中文繁體
Português	Čeština	中文简体
Italiano	Magyar	日本語
Nederlands	Türkçe	

MENU 取消　OK 決定

2 OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。
右図のように⌂が「東京」に設定されていたら、十字キー（▼）を2回押し、p.62の手順10に進んでください。

初期設定
Language/言語　日本語
⌂ 東京
文字サイズ　標準
設定完了
MENU 取消

3 十字キー（▼）を押す

カーソルが⌂に移動します。

4 十字キー（▶）を押す。

「⌂現在地」画面が表示されます。

5 十字キー（◀▶）で「東京」を表示する

6 十字キー（▼）を押す

カーソルが「夏時間」の□に移動します。

7 十字キー（◀▶）で□（オフ）に設定する

8 OKボタンを押す

「初期設定」画面に戻ります。

9 十字キー（▼）を押す

カーソルが「文字サイズ」に移動します。

10 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で標準／大きいを選ぶ

「大きい」を選ぶと、選択しているメニュー項目が拡大して表示されます。

11 OKボタンを押す

12 十字キー（▼）を押し、「設定完了」を選ぶ

13 OKボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。

メモ 本書では、以降のメニュー画面は「文字サイズ」を「標準」に設定して説明します。

言語設定を間違えてしまったら

「Language/言語」画面で日本語以外の言語を選んで「日時設定」画面に進んでしまった場合は、以下の手順で日本語に設定できます。
撮影モード（撮影できる状態）まで進んでしまったときは、手順2から設定をやり直してください。

1　MENUボタンを1回押して、画像モニターにガイドを表示させる

右のガイド表示画面は一例です。選択した言語によって表示は異なります。
画像モニターのガイド表示は3秒間のみ表示されます。

P　Program
Automatic Exposure
P
01/01/2010　00:00

2　MENUボタンを1回押す

上部タブに「📷1」が表示されます。
モードダイヤルがSCNのときは「SCN」が表示されます。

3　十字キー（▶）を5回押す

上部タブに「🔧1」が表示されます。
モードダイヤルがSCNのときは、十字キー（▶）を6回押します。

4　十字キー（▼）で「Language/言語」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

6　十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選んで、OKボタンを押す

日本語の「🔧詳細設定1」メニューが表示されます。
「現在地」と「日時」を設定し直す必要がある場合は、下記のページを参照して、「現在地」を東京に、「日時」を現在の日時に設定してください。
- 現在地を変更する場合：「ワールドタイムを設定する」（p.270）
- 日時を変更する場合：「日時の表示を変更する」（p.270）

- 現在地や日時を設定していない場合は、電源を入れ直したときに、再度「初期設定」画面または「日時設定」画面が表示されます。
- 「日時設定」画面に進む前であれば、「Language/言語」を選択して十字キー（▶）で言語を選び直すことができます。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを設定する

年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択できます。

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4 十字キー（▲▼）で24h（24時間表示）／12h（12時間表示）を設定する

5 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が西暦年に移動します。

8 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

同様に「月」「日」を設定します。

続いて時刻を設定します。

手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

日時設定
表示スタイル　年/月/日　24h
日付　2010/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消　OK 決定

9 十字キー（▼）を押し、「設定完了」を選ぶ

日時設定
表示スタイル　年/月/日　24h
日付　2010/09/09
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消　OK 決定

10 OKボタンを押す

ステータススクリーンが表示され、撮影できる状態になります。

メニュー操作で設定した場合は「🔧詳細設定1」メニューに戻るので、**MENU**ボタンを押してください。

注意

日時設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされ、撮影できる状態になります。日時を設定しないまま次回電源を入れた場合に、初期設定が設定されていれば、最初に「日時設定」画面が表示されます。あとから日時をメニュー操作で設定することもできます。（p.270）

- 手順10で**OK**ボタンを押したときに、秒数は0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定ができます。
- 設定した言語や日時はメニュー操作で変更することができます。（p.270、p.273）

3 使ってみよう

この章では、簡単な操作で失敗のない写真が撮影できる方法として、モードダイヤルをAUTO PICT（オートピクチャー）に設定した場合の基本操作について説明しています。

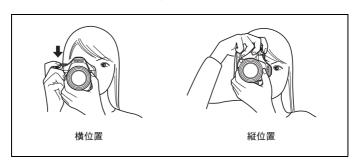
高度な機能や意図に合った撮影をするための設定については、4章以降を参照してください。

撮影の基本操作

カメラの構え方

撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- カメラを両手でしっかりと持ち、脇を閉めます。
- シャッターボタンは指の腹で静かに押します。

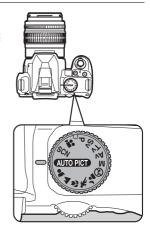
横位置　　縦位置

- 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると手ぶれを防ぐ効果があります。
- 個人差はありますが、一般的には 1/（焦点距離 ×1.5）が手持ち撮影の限界シャッター速度とされています。例えば、焦点距離が50mmでは1/75秒、100mmでは1/150秒程度です。これ以下のシャッター速度になる場合は、三脚または手ぶれ補正機能（p.141）を使用してください。
- 望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。
- 三脚を使用する場合は、手ぶれ補正機能は使用しないでください。（p.142）

カメラまかせで撮影する

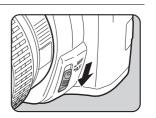
K-rには、撮影者の意図に的確に応じる様々な撮影モードやフォーカスモード、ドライブモードが備わっています。ここでは、基本的にシャッターボタンを押すだけの、最も簡単な撮影方法を説明します。

1 モードダイヤルをAUTO PICTに合わせる

被写体に最適な撮影モードをカメラが選択します。

☞撮影モードを選ぶ（p.91）

2 フォーカスモードレバーを AF に合わせる

フォーカスモードが **AF**（オートフォーカス）モードになります。

AF では、シャッターボタンを半押しにすると自動的にピントを合わせ、シャッターがきれます。（p.122）

3 ファインダーをのぞいて被写体を確認する

ズームレンズを使うと被写体の大きさを変えることができます。（p.74）

4 AF フレームの中に被写体を入れてシャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

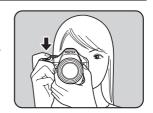
AUTO PICT（オートピクチャー）では、☻（標準）／👤（人物）／▲（風景）／🌷（マクロ）／🏃（動体）／☾👤（夜景人物）から最適な撮影モードをカメラが自動的に選択します。

ストロボ発光が必要な場合には、内蔵ストロボが自動的にポップアップします。

☞シャッターボタンの操作（p.72）
☞オートフォーカスが苦手なもの（p.73）
☞内蔵ストロボを使う（p.75）
☞ピント合わせ位置（測距点）を選択する（p.129）

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

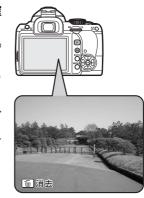
この動作を「シャッターをきる」「レリーズ」といいます。

6 画像モニターで撮影した画像を確認する

撮影直後には、画像モニターに画像が1秒間表示されます（クイックビュー）。

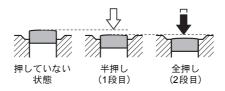
☞クイックビューの表示を設定する（p.276）

クイックビュー表示中に、電子ダイヤルで拡大表示ができます。（p.223）

クイックビュー表示中に**⚡UP**/🗑ボタンを押すと、画像を消去できます。

☞画像を消去する （p.84）

- シャッターボタン半押しによる合焦動作を、**AF**/**AE-L**ボタンで行うこともできます。（p.123）
- 撮影前にファインダーまたは画像モニターにプレビューを表示して、構図・露出・ピントを確認できます。（p.137）

シャッターボタンの操作

シャッターボタンは2段階になっています。

シャッターボタンを半押し（1段目まで押し込む）すると、ファインダー内に情報が表示され、オートフォーカスが働きます。さらにシャッターボタンを押し込む（2段目まで押し込む、全押しする）と撮影されます。

- カメラぶれを防ぐため、シャッターボタンはゆっくり押し込んでください。
- 実際にシャッターボタンを押してみて、半押しと全押しの感覚をつかんでおいてください。
- ファインダー内の表示は、シャッターボタンを半押ししている間は表示されています。指を離しても測光タイマー作動中の約10秒間（初期設定）は表示されたままになります。（p.32、p.116）

オートフォーカスが苦手なもの

オートフォーカス機構は、万能ではありません。撮影するものが以下のようなときには、ピント合わせができないことがあります。ファインダー内の合焦マーク●を利用した手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）でも同様です。

(a) AFエリアの内側が白い壁などの極端にコントラスト(明暗差)の低いものだけの場合
(b) AFエリアの内側に光を反射しにくいものがある場合
(c) 非常に速い速度で移動しているもの
(d) 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るいもの）
(e) AFエリアの内側に繰り返しの縦線や横線が存在する場合
(f) 遠近のものがAFエリアの内側に同時に存在する場合

ピントが合わないときは、フォーカスモードレバーを**MF**に合わせて、ファインダーのマット面を利用して手動でピント合わせをしてください。（p.135）

上記の条件（e）（f）のときはファインダー内に●（合焦マーク）が表示されていても、写したいものにピントが合わないことがあります。

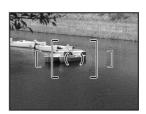
ズームレンズを使う

ズームレンズを使うと、写したいものを大きくしたり（望遠)、広い範囲で撮影したり（広角）自由に変えることができます。好みの大きさに合わせて撮影してください。

1 ズームリングを左右に回す

ズームリングを右に回すと望遠に、左に回すと広角になります。

広角

望遠

- レンズの焦点距離表示の数字を小さくすると撮影する範囲が広い広角側に、大きくすると遠いものを大きく撮影する望遠側になります。
- このカメラでは、パワーズーム機能（イメージサイズ指定、ズームクリップ、露光間ズームなど）は使用できません。

内蔵ストロボを使う

背景が撮りたいものより明るい場合や逆光撮影など、内蔵ストロボを発光させたい場合は、次の手順で使用します。
内蔵ストロボが有効なのは、被写体との距離がおおよそ0.7～5mの範囲です。0.7mより近いと、露出が正しく制御されず、ケラレ（撮影した写真の周辺部が配光不足で黒くなる現象）などが発生します。（この距離は使用するレンズや、設定ISO感度によって多少異なります。（p.178））

内蔵ストロボとレンズの適合

内蔵ストロボは、ご使用のレンズや撮影条件によってケラレが生じることがあります。事前にテスト撮影をして確認されることをお勧めします。

☞レンズと内蔵ストロボの適合 （p.179）

- 内蔵ストロボを使用する場合は、レンズフードを外して撮影してください。
- 絞り**A**（オート）位置の機能がないレンズでは、内蔵ストロボは常にフル発光になります。

内蔵ストロボの特徴や外付けストロボを使った撮影など、ストロボについての詳細は「ストロボの活用」（p.173）を参照してください。

ストロボモードを設定する

ストロボモード	機能
自動発光	周りの明るさをカメラが自動的に測定し、ストロボの発光をカメラが判断します。手ぶれしやすいシャッター速度のときや逆光時など、ストロボの発光が必要な場合は自動的にポップアップします（（風景）／（動体）／SCN（シーン）モードの（ナイトスナップ）を除く）。ポップアップしていても、発光の必要がない場合は、発光しません。
手動発光	ストロボの発光を手動で行います。ストロボをポップアップすると発光し、収納すると発光しません。
自動発光＋赤目軽減	自動発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。

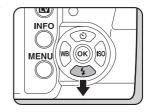
ストロボモード		機能
	手動発光＋赤目軽減	ストロボの発光を手動で行います。発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW	スローシンクロ	明るさによって、遅いシャッター速度に設定されます。例えば夕景などを背景に人物撮影をするときに利用すると、人物も背景もきれいに写すことができます。
SLOW	スローシンクロ＋赤目軽減	スローシンクロで発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW	後幕シンクロ	シャッターの後幕が閉じる直前に発光するので、乗り物など動く被写体の光跡を、後ろに流れるように写し込むことができます。（p.176）
W	ワイヤレスモード	専用外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）とシンクロコードを使わずに同調させることができます。（p.183）

撮影モードによって、選択できるストロボモードが異なります。

撮影モード	選択できるストロボモード
AUTO PICT／／／／／／SCN *1	A／／A／／W
P／Sv／Av	／／SLOW／SLOW／SLOW／W
Tv／M	／／／W

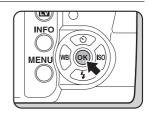
*1 SCNモードは、（サーフ&スノー）／（料理）／（ナイトスナップ）／（キッズ）／（ペット）のときに選択できます。

1 撮影モードで十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。
設定されている撮影モードで選択できるストロボモードだけが表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ

電子ダイヤルを回してストロボ光量の補正ができます。（p.81）

3 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

自動発光⚡ᴬ／⚡ᴬ◎（ストロボオートポップアップ）で使用する

1 モードダイヤルをAUTO PICT／👤／🌷／👤／SCNに合わせる

SCN（シーン）モードで夜景（夜景）／夕景（夕景）／ステージライト（ステージライト）／夜景HDR（夜景HDR）／キャンドルライト（キャンドルライト）／美術館（美術館）のどれかに設定したときは、ストロボは発光禁止になります。また、SCN（シーン）モードのナイトスナップ（ナイトスナップ）に設定したときは、内蔵ストロボはポップアップしません。

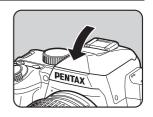
2 シャッターボタンを半押しする

必要に応じて内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。充電が終わると、ファインダー内に⚡が表示されます。（p.32）

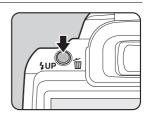
3 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

4 **図の矢印の部分を押し下げ、内蔵ストロボを収納する**

メモ

内蔵ストロボがポップアップした状態で⚡UP/🗑ボタンを押すと、自動発光と手動発光を切り替えられます。

手動発光⚡／⚡◉で使用する

1 **⚡UP/🗑ボタンを押す**

内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。ストロボ発光モードの設定にかかわらず手動発光になります。

充電が終わると、ファインダー内に⚡が表示されます。（p.32）

2 **シャッターボタンを全押しする**

ストロボが発光し、撮影されます。

3 **内蔵ストロボを押し下げ、収納する**

モードダイヤルが⑤（ストロボオフ）になっているときは、ϟUP/🗑ボタンを押しても内蔵ストロボはポップアップしません。

内蔵ストロボの赤目軽減機能

「赤目現象」とは、暗い中で人物のストロボ撮影をしたときに、目が赤く写る現象です。赤目現象は、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。周りが暗いときには瞳孔が開いているため、赤目現象が目立ちます。
赤目現象は完全に防ぐことはできませんが、軽減するには次のような対策が有効です。

- できるだけ周りを明るくして撮影する
- ズームレンズを使用している場合には、広角側にして近距離で撮影する
- 赤目軽減機能のあるストロボを使う
- 外付けストロボを使用する場合は、できるだけカメラから離す

このカメラには、内蔵ストロボの2度発光による赤目軽減機能が付いています。赤目軽減機能では、シャッターがきれる直前に小光量のストロボ発光が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくすることができます。

ピクチャーモード／SCN（シーン）モードで赤目軽減機能を使う場合は、ϟA◎／ϟ◎を選択します。それ以外の撮影モードでは、ϟ◎／SLOW◎ϟを選択します。

日中シンクロについて

昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が陰になってしまうような場合に、内蔵ストロボを使って撮影すると顔が陰にならないきれいな写真が撮れます。このようなストロボの使い方を「日中シンクロ」といいます。日中シンクロでは、ストロボを手動発光にして撮影します。

● **撮影の方法**

1 内蔵ストロボをポップアップし、ストロボモードが ϟ になっていることを確認する（p.78）
2 ストロボの充電完了を確認する
3 撮影する

ストロボなし

ストロボ使用 日中シンクロ

背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。

ストロボ光量を補正する

ストロボの光量を–2.0～+1.0の範囲で変えることができます。設定ステップが1/3 EVか1/2 EVかで、光量補正値は以下のようになります。

ステップ幅	光量補正値
1/3 EV	–2.0／–1.7／–1.3／–1.0／–0.7／–0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0
1/2 EV	–2.0／–1.5／–1.0／–0.5／0.0／+0.5／+1.0

ステップ幅は、「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」（p.118）で設定します。

1 「ストロボモード」画面で電子ダイヤルを回す

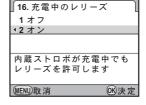
光量補正値が表示されます。

⦿ボタンを押すと、ストロボ光量補正設定は0.0にリセットされます。（「撮影4」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているときのみ有効（p.197））

- +側に補正しても、ストロボの最大発光量以上になると効果はありません。
- 被写体に近すぎる場合、絞り値が小さい場合、ISO感度を高く設定している場合などは、–側に補正をしても効果がないことがあります。
- ストロボ光量補正は、P-TTL対応の外付けストロボでも有効です。

ストロボ充電中に撮影できるようにする

内蔵ストロボが充電中でも撮影ができます。

「**C**カスタム3」メニュー（p.90）の「16. 充電中のレリーズ」で「オン」を選択します。初期設定では、内蔵ストロボの充電中は撮影できません。

再生する

撮影した画像を再生する

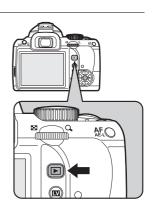
撮影した画像をカメラで再生する方法を説明します。

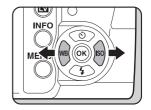
メモ パソコンを使って再生するには、付属のソフトウェア「PENTAX Digital Camera Utility 4」をご使用ください。ソフトウェアについては、「付属ソフトウェアを使用する」(p.296)を参照してください。

1 ▶ボタンを押す

再生モードになり、最後に撮影した画像(ファイルNo.が一番大きい画像)が画像モニターに表示されます。

画像再生時に**INFO**ボタンを押すと、表示中の画像に関する撮影情報などの表示が切り替わります。

表示内容の詳細は、p.27を参照してください。

2 十字キー(◀▶)を押す

◀:前の画像を表示
▶:次の画像を表示

- 再生モード機能の詳細は、「いろいろな再生」（p.219）を参照してください。
- JPEG　形式で撮影した直前の画像がカメラ内の撮影バッファに残っている場合、再生時に☒Avボタンを押してRAW形式で追加保存することができます。
  以下の機能を設定して撮影した場合は、それぞれ次のRAW画像が保存されます。
  - 多重露出　　　　多重露出されたRAW画像
  - デジタルフィルター　　フィルターオフのRAW画像
  - HDR撮影　　　　標準露出のRAW画像
  - クロスプロセス　　　クロスプロセスオフのRAW画像

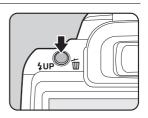
画像を消去する

画像を1つずつ消去します。

- 消去した画像は復元できません。
- プロテクトされている画像は消去できません。（p.240）

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で消去したい画像を選ぶ

2 ⚡UP/🗑ボタンを押す

消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「消去」を選ぶ

RAW+で保存されている画像は、どの記録形式の画像を消去するか選択します。

JPEG消去	JPEG画像のみを消去します。
RAW消去	RAW画像のみを消去します。
RAW+JPEG消去	両形式とも消去します。

4 OKボタンを押す

画像が消去されます。

複数の画像をまとめて消去する場合は、「複数画像を消去する」（p.236）を参照してください。

4 いろいろな撮影

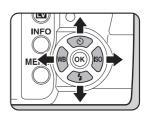
この章では、撮影の基本から応用まで、K-rでできる様々な撮影方法を説明してます。

撮影関連機能の操作

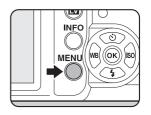
撮影に関する機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／「A撮影」メニュー／「Cカスタム」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」（p.37）を参照してください。

ダイレクトキーの設定項目

撮影モードで十字キー（▲▼◀▶）を押すと、以下の項目が設定できます。

キー	項目	機能	参照
▲	ドライブモード	連続撮影／セルフタイマー／リモコン／露出ブラケットを選択します。	p.149 p.145 p.147 p.118
▼	ストロボモード	ストロボの発光方式を設定します。	p.75
◀	ホワイトバランス	被写体の色を光源に合った適正な色に補正します。	p.200
▶	ISO感度	ISO感度を設定します。	p.98

撮影メニューの設定項目

「📷撮影1～4」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影モードで**MENU**ボタンを押すと、「📷撮影1」メニューが表示されます。

メニュー	項目	機能	参照
📷1	カスタムイメージ *1	色味やコントラストなどの画像の仕上がり具合を設定します。	p.213
	記録形式 *1	ファイルフォーマットを設定します。	p.195
	JPEG記録サイズ *1	JPEGで記録した場合の記録サイズを設定します。	p.192
	JPEG画質 *1	JPEGで記録した場合の画質を設定します。	p.193
	AFモード *1	オートフォーカスの方法を設定します。	p.125
	測光方式 *1	ファインダー内のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.114
	測距点切替 *1	ファインダー内のどの部分にピントを合わせるかを設定します。	p.129
📷2	クロスプロセス *1	色合いやコントラストを変化させるデジタル・クロスプロセスを行います。	p.216
	デジタルフィルター *1	フィルター効果をかけて撮影します。	p.155
	HDR撮影 *1	ハイダイナミックレンジ撮影を行います。	p.209
	多重露出	任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。	p.153
	インターバル撮影	指定した時刻に等間隔で自動撮影します。	p.151
	高感度NR	高感度撮影時にノイズリダクションをかけるかどうかを設定します。	p.100
	長秒時NR	低速シャッター時にノイズリダクションをかけるかどうかを設定します。	p.102

メニュー	項目	機能	参照
3	動画	動画の設定を行います。	p.165
	ライブビュー	ライブビューの表示を設定します。	p.160
	クイックビュー	クイックビューの表示を設定します。	p.276
	D-Range設定 *1	ダイナミックレンジを拡大し、白とび・黒つぶれを防ぎます。	p.207 p.208
	レンズ補正 *1	レンズの特性によって生じる歪曲収差と倍率色収差を補正します。	p.211
4	色空間	使用する色空間を設定します。	p.205
	RAWファイル形式	RAWで記録する場合のファイルフォーマットを設定します。	p.196
	グリーンボタン	⦿ボタンを押したときの機能を割り当てます。	p.197
	AF/AE-Lボタン	**AF**/**AE-L**ボタンを押したときの機能を割り当てます。	p.120 p.123
	モードメモリ	電源を切ったとき、どの項目の設定を保存しておくかを設定します。	p.288
	Shake Reduction *1	手ぶれ補正機能を設定します。	p.142
	焦点距離入力	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合に、レンズ焦点距離を設定します。	p.143

*1 コントロールパネルで設定することもできます。

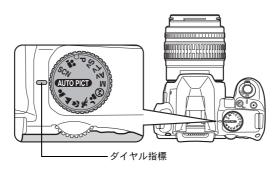
カスタムメニューの設定項目

「**C**カスタム1～4」メニューでは、一眼レフカメラの機能をフルに生かして撮影するための機能を設定します。

メニュー	項目	機能	参照
C1	1. 露出設定ステップ	露出設定の調整ステップを設定します。	p.118
	2. ISO感度ステップ	ISO感度の調整ステップを設定します。	p.99
	3. 拡張感度	ISO感度の下限と上限を拡張します。	p.99
	4. 測光作動時間	測光タイマーの作動時間を設定します。	p.116
	5. AFロック時のAE-L	フォーカスロック時に露出値も固定するかどうかを設定します。	p.133
	6. 測距点と露出の関連付	分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点を関連付けるかどうかを設定します。	p.115
	7. ブラケット撮影順	露出ブラケット撮影時の順序を設定します。	p.118
C2	8. スーパーインポーズ	選択された測距点をファインダー内に表示するかどうかを設定します。	p.130
	9. AF.Sの動作	**AF**モードが**AF.S**でシャッターボタンを全押ししたときの優先動作を設定します。	p.125
	10. AF.Cの動作	**AF**モードが**AF.C**で連続撮影するときの優先動作を設定します。	p.126
	11. AF補助投光	暗い場所でオートフォーカスするときに、AF補助光を発光するかどうか設定します。	p.127
	12. ストロボ発光時のWB	ストロボ発光時のホワイトバランスの設定を行います。	p.201
	13. 白熱灯下のAWB	ホワイトバランスが**AWB**のときに白熱灯の色味を残すか補正するかを設定します。	—
	14. リモコン時のAF	リモコン撮影するときにオートフォーカスするかどうかを設定します。	p.148

メニュー	項目	機能	参照
C3	15. B時のリモコン撮影	シャッター速度を**Bulb**に設定してリモコンを使用するときのリモコンの動作を設定します。	p.114
	16. 充電中のレリーズ	内蔵ストロボの充電中に撮影可能にするかどうかを設定します。	p.81
	17. ワイヤレス時の発光	内蔵ストロボのワイヤレス時の発光方法を設定します。	p.184
	18. 回転情報の記録	撮影時に回転情報を記録するかどうかを設定します。	p.235
	19. メニュー選択の記憶	直前に操作したメニューを記憶し、次に**MENU**ボタンを押したときも同じ画面を表示するかどうか設定します。	p.275
	20. キャッチインフォーカス	「オン」に設定すると、マニュアルフォーカスレンズを取り付けて、AFモードを**AF.A**／**AF.S**にセットしたときに、ピントが合うと自動的にシャッターがきれるキャッチインフォーカス撮影ができます。	p.136
	21. AF微調整	オートフォーカスのピント位置を調整します。	p.128
C4	22. 絞りリングの使用	レンズの絞りリングが**A**位置以外のときに撮影可能にするかどうかを設定します。	p.314
	カスタムのリセット	「**C**カスタム1～4」メニューの各項目の設定内容を初期状態に戻します。	p.311

撮影モードを選ぶ

モードダイヤルのアイコンをダイヤル指標に合わせて、撮影モードを切り替えます。

K-r には多彩な撮影モードがあります。用途に合わせて、撮影モードを選択してください。
本書では撮影モードを以下のように呼びます。

撮影モード	種類	参照
ピクチャーモード	AUTO PICT（オートピクチャー）／（人物）／（風景）／（マクロ）／（動体）／（夜景人物）／（ストロボオフ）（ライブビュー撮影時は（青空）／（夕景）追加）	p.92
SCN（シーン）モード	（夜景）／（サーフ＆スノー）／（料理）／（夕景）／（ステージライト）／（ナイトスナップ）／（夜景HDR）／（キッズ）／（ペット）／（キャンドルライト）／（美術館）	p.93
露出モード	**P**（プログラム）／**Sv**（感度優先）／**Tv**（シャッター優先）／**Av**（絞り優先）／**M**（マニュアル）	p.95
動画モード	（動画）	p.165

ピクチャーモード

AUTO PICT（オートピクチャー）モードで思うような画像が撮れない場合は、モードダイヤルで、人物／風景／マクロ／動体／夜景人物／ストロボオフを選んでください。
各モードの特徴は次の通りです。

モード	特徴
AUTO PICT　オートピクチャー	標準（標準）／人物（人物）／風景（風景）／マクロ（マクロ）／動体（動体）／夜景人物（夜景人物）から最適な撮影モードをカメラが自動的に選択します。ライブビューで撮影中は、青空（青空）／夕景（夕景）が追加されます。
人物	人物の撮影に適しています。肌色を健康的に仕上げます。
風景	ピントが合って見える範囲を前後に深くし、木々の緑や青空などの輪郭・彩度を強調して鮮やかな色の画像に仕上げます。
マクロ	近くにある花などを鮮やかに撮影できます。
動体	スポーツなど動きのある被写体に適しています。ドライブモードは連続撮影（連続撮影（Hi））に固定されます。
夜景人物	夕暮れや夜景を背景とした人物撮影に適しています。
ストロボオフ	ストロボを発光禁止にします。その他の設定はAUTO PICTの標準モードと同じです。

注意

夜景人物では、ストロボを使用しても、ストロボの光が届かない背景を写し込むためにシャッター速度が遅くなります（☞スローシンクロ（p.174））。手ぶれ補正機能を使用するか、三脚などを使用して手ぶれしないようご注意ください。

AUTO PICTで自動選択された動体は、あらかじめ設定されているドライブモードで撮影されます。

SCNモード

モードダイヤルをSCN（シーン）に合わせると、次の11種類の撮影シーンから選択して撮影できます。

モード	特徴
夜景	夜景撮影に最適です。三脚などで固定して撮影してください。
サーフ&スノー	砂浜や雪山など背景の明るい場所での写真をきれいに仕上げます。
料理	料理の撮影に適しています。彩度をやや高めにし、色鮮やかに仕上げます。
夕景	夕焼けや朝焼けの写真を美しく仕上げます。
ステージライト	暗いところで動きのある被写体を撮影するのに適しています。
ナイトスナップ	暗いところでスナップ写真を撮影するのに適しています。
夜景HDR	3回撮影してHDR合成します。手持ちで夜景を撮影するのに適しています。
キッズ	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌色を健康的に仕上げます。ドライブモードは（連続撮影（Hi））に固定されます。
ペット	動き回るペットを撮影するのに適しています。ドライブモードは（連続撮影（Hi））に固定されます。
キャンドルライト	キャンドルライトの雰囲気を生かして撮影します。
美術館	美術館などストロボを発光させたくない場所での撮影に適しています。

／／／／／では、ストロボは発光禁止となります。手ぶれ補正機能を使用するか、三脚などを使用して手ぶれしないようご注意ください。

撮影シーンを選ぶ

1 モードダイヤルをSCNに合わせる

シーンモードのステータススクリーンになります。

2 INFOボタンを押す

コントロールパネルが表示され、現在設定されている撮影シーンのアイコンが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で「シーンモード」を選択し、OKボタンを押す

シーンモードを選択する画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）または電子ダイヤルでシーンを選ぶ

5 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻り、撮影できる状態になります。

モードダイヤルをSCNに合わせてMENUボタンを押すと、「SCNシーン」メニューが表示されます。十字キー（▼）を押すと、手順4と同じ画面が表示され、シーンが選択できます。

露出モード

感度・シャッター速度・絞りを任意に変更し、撮影者の意図に合った画像を撮影したいときに使用します。

モード	特徴	参照
P　プログラム	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	p.103
Sv　感度優先	任意に設定したISO感度に合わせてシャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。	
Tv　シャッター優先	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使用します。動きの速い被写体を止まっているように、あるいは躍動感を出して撮影できます。	
Av　絞り優先	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使用します。被写体の背景をぼかしたり、くっきりさせたりできます。	
M　マニュアル	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った画作りをしたいときに使用します。	

露出を設定する

絞りとシャッター速度の効果について

撮りたいもの（被写体）の適正露出は、シャッター速度と絞り値の組み合わせで決まります。被写体の適正露出を決めるシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選択することで、画像の撮影効果を変えることができます。

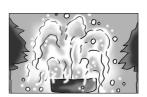
シャッター速度の効果

シャッター速度を操作することで、作品の中の時間表現を操ることができます。目に見えない一瞬を捉えたり、時間の流れを一枚の画像に写し込むなど、シャッター速度の設定によって、様々な表現ができます。
Tv（シャッター優先）モードを利用します。

● シャッター速度を遅くする

シャッターが開いている時間が長くなるため、被写体が動いていれば、ブレとして画像に記録されます。
川や滝、波などの動きを意図的に遅いシャッター速度で撮影することで、動感のある画像になります。

● シャッター速度を速くする

動きのあるものでも動きを止めて撮影することができます。
また、シャッターをきるときにカメラぶれを起きにくくする効果があります。

絞りの効果

絞りを操作することで、ピントの合っている奥行き（被写界深度）を変化させることができます。作品の一点に注目させたり、奥行き感を与えるなど、作品のイメージを大きく変えることができます。
Av（絞り優先）モードを利用します。

● 絞りを開く（絞り値を小さくする）

ピントを合わせたものに比べて、その前後のもののボケが大きくなります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景のボケを大きくし、花だけを浮き上がらせる効果があります。

● 絞りを絞る（絞り値を大きくする）

ピントが合って見える範囲が前後に広がります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景までピントが合っているように見えます。

絞りと被写界深度

絞りを操作することによって、被写界深度は次のように変化します。また、レンズや被写体との距離によっても被写界深度が変わります。

絞り	絞りを開く （絞り値を小さく）	←→	絞りを絞る （絞り値を大きく）
被写界深度	浅い	←→	深い
ピントが合って見える範囲	狭い	←→	広い
レンズの焦点距離	長くする（望遠）	←→	短くする（広角）
被写体までの距離	近い	←→	遠い

- レンズによる違いはありますが、K-r に35ミリ判カメラ用のレンズを使用した場合は、35ミリ判カメラに使用したときと比べて約1絞り程度、被写界深度が浅く（ピントが合って見える範囲が狭く）なります。
- 広角レンズほど、また被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。（ズームレンズなど、機構上、被写界深度の目盛が付いていないレンズもあります。）

ISO感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、ISO感度を設定します。
ISO感度は、「AUTO（自動調整）」か、ISO 200～12800相当の間で設定できます。初期設定は「AUTO」です。

1 撮影モードで十字キー（▶）を押す

「ISO感度」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でAUTO設定／固定値を選択する

3 十字キー（◀▶）でISO感度を変更する

「AUTO設定」の場合は、最高感度を変更します。

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 撮影モードがSCN（シーン）モードの（ステージライト）／（ナイトスナップ）／（夜景HDR）と（動画）に設定されているときは、ISO感度はAUTO固定になり、変更できません。
- 撮影モードが**Sv**（感度優先）／**M**（マニュアル）のときは、「AUTO設定」は表示されません。
- 「**C**カスタム1」メニュー（p.89）の「3. 拡張感度」を「オン」に設定すると、ISO感度の範囲をISO 100～25600まで拡げることができます。ただし、この状態でハイライト補正（p.207）をオンに設定すると、最低感度はISO 200になります。
- ISO感度を高感度に設定するほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。「撮影2」メニューの「高感度NR」でノイズを軽減できます。（p.100）
- ISO感度設定のステップを1 EVに固定するか、露出設定ステップ（p.118）に合わせるかを「**C**カスタム1」メニュー（p.89）の「2. ISO感度ステップ」で設定できます。

ダイナミックレンジを拡大する

ダイナミックレンジとは、CMOSセンサーの画素が明部から暗部でどのくらい階調表現できるかを表した比率のことで、大きいほど明るい部分から暗い部分まできれいに表現できます。
ダイナミックレンジを拡大すると、表現できる階調の幅が広がり、白とびが起こりにくくなります。
ダイナミックレンジを拡大する場合は、「撮影3」メニューの「D-Range設定」で設定します。（p.207）

ノイズを減らす（ノイズリダクション）

デジタルカメラは、次のようなときに、画像にノイズ（画像のざらつきやムラ）が目立つようになります。

- 長時間露光のとき
- ISO感度を高く設定しているとき
- CMOSセンサーが高温になっているとき

ノイズリダクションを設定すると、ノイズを低減することができます。ただし、画像保存に時間がかかります。

高感度NR

ISO高感度時にノイズリダクション処理をします。

1 「撮影2」メニューの「高感度NR」を選び、十字キー（▶）を押す

「高感度NR」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でオート／オフ／弱／中／強／カスタムを選ぶ

オート	ISO感度の設定に応じて最適なノイズリダクションを行います。（初期設定）
オフ	ノイズリダクションを行いません。
弱／中／強	ISO感度の設定に関係なく、一定のノイズリダクションを行います。
カスタム	ISO感度別にノイズリダクション処理を設定できます。

3 OKボタンを押す

オート／オフ／弱／中／強を選んだ場合は、手順7に進みます。

4 十字キー（▲▼）で「設定」を選び、十字キー（▶）を押す

ISO感度別に設定する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でISO感度を選び、十字キー（◀▶）で強度を選択する

電子ダイヤルで「高感度NR 2」画面に切り替えます。

⦿ボタンを押すと、設定をリセットします。

表示されるISO感度は、「**C**カスタム1」メニュー（p.89）の「1. 露出設定ステップ」「2. ISO感度ステップ」の設定によって異なります。

高感度NR 1 2

ISO	ISO NR
ISO 100	OFF
ISO 200	OFF
ISO 400	OFF
ISO 800	
ISO 1600	
ISO 3200	
ISO 6400	

MENU ↩ ⦾リセット

6 MENUボタンを押す

手順2の画面に戻ります。

7 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

長秒時NR

長時間露光したときのノイズリダクション処理を設定します。

1 「◘撮影2」メニューの「長秒時NR」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）でオート／オン／オフを選び、OKボタンを押す

オート	シャッター速度・ISO感度・カメラ内部温度等を判断して、自動的にノイズリダクションを行います。（初期設定）
オン	露光時間が1秒を超えた場合にノイズリダクションを行います。
オフ	ノイズリダクションを行いません。

3 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 長秒時NRをオンに設定して撮影した場合、処理が終了するまで時間がかかることがあります。その間、次の撮影はできません。
- ノイズリダクション処理中は、ステータススクリーンとファインダー内の絞り値表示部に「**nr**」と点滅表示され、シャッター速度表示部には処理時間がカウントダウン表示されます。

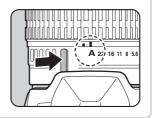
露出モードを切り替える

このカメラには、5つの露出モードが用意されています。露出モードはモードダイヤルで切り替えます。（p.91）
各露出モードで設定できる項目は以下の通りです。

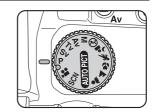
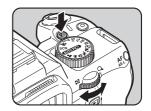
露出モード	内容	露出補正	シャッター速度変更	絞り値変更	ISO感度変更	参照
P プログラム	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	○	△*1	△*1	○	p.104
Sv 感度優先	任意に設定したISO感度に合わせて、シャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。	○	×	×	AUTO以外	p.106
Tv シャッター優先	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使用します。	○	○	×	○	p.107
Av 絞り優先	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度を調整したいときに使用します。	○	×	○	○	p.108
M マニュアル	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った画作りをしたいときに使用します。	×	○	○	AUTO以外	p.110

*1「撮影4」メニューの「グリーンボタン」で、電子ダイヤルでシャッター速度と絞りが変更できるように設定できます。（p.105）

絞りリング付のレンズを使用する場合

絞りリングの付いたレンズをご使用の場合は、レンズのオートロックボタンを押しながら絞りを**A**（オート）位置に合わせてください。

P（プログラム）モードを利用する

プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。
電子ダイヤルを使用して、適正露出のままシャッター速度と絞り値を変更することもできます。（p.105）

1 モードダイヤルをPに合わせる

2 露出を補正する場合は、⊠Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回す

ステータススクリーンとファインダー内に露出補正値が表示されます。

露出補正値

- 露出補正値は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。(p.118)
- ISO感度を固定値で設定する(p.98)と、設定したシャッター速度と絞り値で適正露出が得られない場合があります。

P時の電子ダイヤル

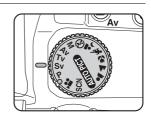
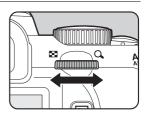
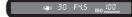
P モードで電子ダイヤルを回したときの動作を、「撮影4」メニューの「グリーンボタン」で設定します。(グリーンボタンの設定が「グリーンボタン」に設定されているときのみ有効(p.197))
電子ダイヤルを回したあとに◉ボタンを押すと、通常の **P** モードに戻ります。

グリーンボタン
◉グリーンボタン
M時の動作
P時の電子ダイヤル
P SHIFT
Tv
Av
OFF
適正露出となる絞り値とシャッター速度の組合せをシフトさせます
MENU 取消　OK 決定

P SHIFT	シャッター速度と絞り値の組み合わせが適正露出になるようシフトさせます(プログラムシフト)。(初期設定)
Tv	シャッター速度を設定します。
Av	絞り値を設定します。
OFF	**P** モードでの電子ダイヤル操作を無効にします。

Sv（感度優先）モードを利用する

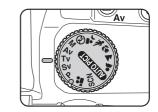
ISO感度を任意に設定して、被写体の明るさに応じた撮影ができます。設定したISO感度に合わせて、シャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。

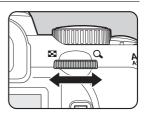
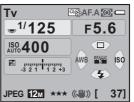
1 モードダイヤルをSvに合わせる

2 電子ダイヤルを回して ISO 感度を調整する

ステータススクリーンとファインダー内に設定した値が表示されます。

- ISO感度は、ISO 200～12800相当の間で設定できます。「AUTO」には設定できません。
- 露出を補正するときは、Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。（p.117）
- ISO感度は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.118）

Tv（シャッター優先）モードを利用する

シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。シャッター速度を速くして動きの速い被写体を止まっているように撮影したり、シャッター速度を遅くして躍動感を出したりできます。
なお、絞り値は使用するシャッター速度に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。

☞絞りとシャッター速度の効果について （p.96）

1 モードダイヤルをTvに合わせる

2 電子ダイヤルを回してシャッター速度を調整する

シャッター速度の設定可能範囲は1/6000～30秒です。

ステータススクリーンとファインダー内に設定した値が表示されます。

- 露出を補正するときは、Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。（p.117）
- シャッター速度は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.118）
- ISO感度を固定値で設定する（p.98）と、設定したシャッター速度で適正露出が得られない場合があります。

露出警告

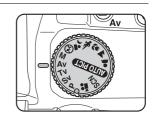
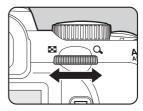
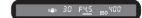
撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、ステータススクリーンとファインダー内の絞り値表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば適正露出で撮影できます。

明るすぎるときは、市販の減光（ND）フィルターをお使いください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

Av（絞り優先）モードを利用する

絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。絞り値を大きくすると被写界深度が深くなり、ピントを合わせた被写体の前後まで鮮明に撮影することができます。また、絞り値を小さくすると被写界深度が浅くなり、ピントを合わせた被写体の前後をぼかすことができます。
なお、シャッター速度は使用する絞り値に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。

☞絞りとシャッター速度の効果について （p.96）

1 モードダイヤルを Av に合わせる

2 電子ダイヤルを回して絞り値を調整する

ステータススクリーンとファインダー内に設定した値が表示されます。

- 露出を補正するときは、Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。（p.117）
- 絞り値は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.118）
- ISO感度を固定値で設定する（p.98）と、設定した絞り値で適正露出が得られない場合があります。

露出警告

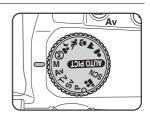
撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、ステータススクリーンとファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。明るすぎるときは絞り値を小絞り側（数字の大きい方）に、暗すぎるときは絞り値を開放側（数字の小さい方）にして点滅が止まれば適正露出で撮影できます。

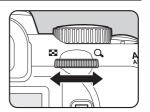
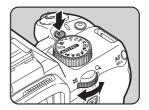
明るすぎるときは、市販の減光（ND）フィルターをお使いください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

M（マニュアル）モードを利用する

シャッター速度と絞り値の両方を任意の値に設定し、それを組み合わせて思いどおりの画作りをするのに適しています。常に同じシャッター速度と絞り値の組み合わせで撮影したいときや、意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）にしたいときに使います。

☞絞りとシャッター速度の効果について（p.96）

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 電子ダイヤルを回してシャッター速度を調整する

シャッター速度の設定可能範囲は1/6000～30秒です。

3 ⊠Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回して絞り値を調整する

ステータススクリーンとファインダー内に設定した値が表示されます。

ステータススクリーンの表示では、シャッター速度・絞り値のうち、調整中の方に電子ダイヤルのマークが表示されます。

ファインダー内の表示では、シャッター速度・絞り値のうち、調整中の方のアンダーラインが点灯します。

シャッター速度または絞り値の調整中は、適正露出との差が数値（EV値）で表示されます。0.0になったところが適正露出です。

適正露出との差

適正露出との差が±3.0以上になると、ファインダー内の露出補正値の表示が点滅します。

- ISO感度が「AUTO」の設定でモードダイヤルを**M**にした場合、ISO感度は最後に設定した固定値に設定されます。
- シャッター速度・絞り値は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.118）
- 絞り値の設定は、**Av**ボタンを1回押して指を離してから電子ダイヤルを回して変更することもできます。この場合、もう一度**Av**ボタンを押すか、測光タイマー（p.116）がオフになると、絞り値が確定します。

AEロックを利用する

「📷撮影4」メニューの「AF/AE-Lボタン」を「AEロック」に設定している場合、**M** モードで **AF**/**AE-L** ボタンを押して露出を記憶（p.120）させた状態でシャッター速度／露出値を変更すると、露出値を保持したままシャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。

例）シャッター速度が1/125秒で、絞りがF5.6の状態を **AF**/**AE-L** ボタンで記憶した場合、電子ダイヤルでシャッター速度を1/30秒に変えると絞り値は自動的にF11へ変わります。

M時の動作

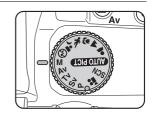
M モードのときの◉ボタンの機能を、「📷撮影4」メニューの「グリーンボタン」で設定します。（グリーンボタンの設定が「グリーンボタン」に設定されているときのみ有効（p.197））

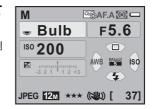
グリーンボタン
◉グリーンボタン
M時の動作
P時の電子ダイヤル
P LINE
TvSHIFT
AvSHIFT
OFF
絞り値とシャッター速度をプログラムライン上の適正露出にします
MENU 取消
OK 決定

P LINE	絞り値とシャッター速度をプログラムライン上の適正露出にします。（初期設定）
Tv SHIFT	絞り値を固定のままシャッター速度をシフトし、適正露出にします。
Av SHIFT	シャッター速度を固定のまま絞り値をシフトし、適正露出にします。
OFF	**M** モードでの◉ボタン操作を無効にします。

バルブ撮影を利用する

花火や夜景などの撮影で、長時間シャッターを開いておく必要のあるときに利用します。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 電子ダイヤルを左（▣）に回してシャッター速度をBulbにする

Bulb は、シャッター速度の最も遅い側（30秒の次）にあります。

3 シャッターボタンを押す

シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

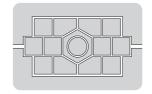
注意
バルブ撮影では、以下の機能は使用できません。
- 露出補正
- 露出ブラケット
- 連続撮影
- インターバル撮影
- HDR撮影

- 絞り値を調整するときは、 Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。
- 絞り値は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.118）
- バルブ撮影では、「Shake Reduction」は自動的にオフになります。
- バルブ撮影をするときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用してください。
- リモコンのシャッターボタンの動作については、「**C** カスタム 3」メニュー（p.90）の「15. B時のリモコン撮影」で設定します。
- シャッター速度を遅くしたときに発生するノイズ（画像のざらつきやムラ）を減らす処理をすることができます。「撮影2」メニューの「長秒時NR」で設定します。（p.102）
- ISO感度が「AUTO」の設定でシャッター速度を**Bulb**にした場合、ISO感度は最後に設定した固定値に設定されます。
- バルブ撮影時のISO感度の上限はISO 1600です。
- バルブ撮影の露光時間に制限はありません。ただし、シャッターを開いている間もバッテリーは消費しますので、長時間露光の際には、ACアダプターキットK-AC109J（別売）のご使用をお勧めします。（p.50）

測光方式を選択する

ファインダーのどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。次の3つの測光方式が用意されています。

● 分割測光（初期設定）

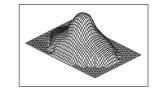
ファインダーを16分割して明るさが測定されます。逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるのかが自動的に判断され、補正されます。

DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・A以外のレンズ、または絞りリングが**A**位置でないときには、分割測光は選択できません。

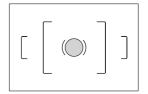
分割測光時に測距点と露出を関連付ける

「**C**カスタム1」メニュー（p.89）の「6. 測距点と露出の関連付」で、分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点（ピントを合わせた位置）を関連付けることができます。

1	オフ	露出値は、測距点の位置と関係なく設定されます。（初期設定）
2	オン	露出値は、測距点の位置に応じて調整されます。

● **中央重点測光**

ファインダー中央部分に重点を置いて測光します。露出を決めるときにカメラまかせではなく、経験的に補正をして決めるときなどに利用します。図のように高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高くなります。逆光の場合でも自動補正は行われません。

● **スポット測光**

ファインダー中央の限られた狭い範囲の明るさだけを測光します。撮影したいものが非常に小さく、適正な露出を得るのが難しいときは、AEロック機能（p.120）と組み合わせて利用すると便利です。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「測光方式」を選択し、OKボタンを押す

「測光方式」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で測光方式を選択する

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メモ　メニューから設定するときは、「撮影1」メニューで設定します。

測光時間を設定する

「Cカスタム1」メニュー（p.89）の「4. 測光作動時間」で、測光タイマーの作動時間を10秒（初期設定）／3秒／30秒から設定できます。

露出を補正する

意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）で撮影することができます。
設定ステップは、「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で、1/3 EVステップまたは1/2 EVステップを選びます。–3～+3（EV）の範囲で露出を補正できます。

1 Av ボタンを押しながら電子ダイヤルを回す

Avボタン

露出が補正されます。

補正中はステータススクリーンとファインダー内にが表示されます。

補正値

- モードダイヤルを**M**（マニュアル）に設定しているときは、露出補正はできません。
- 電源を切ったり、他の撮影モードにしても露出補正は解除されません。
- 「撮影4」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているとき(p.197)にボタンを押すと、補正値は0.0にリセットされます。
- 露出補正の設定は、**Av**ボタンを1 回押して指を離してから電子ダイヤルを回して変更することもできます。この場合、もう一度**Av**ボタンを押すか、測光タイマー（p.116）がオフになると、露出補正値が確定します。

露出設定ステップを変更する

「**C** カスタム1」メニュー（p.89）の「1. 露出設定ステップ」で、露出設定のステップを1/3 EVか1/2 EVに設定できます。

1. 露出設定ステップ
1 **1/3 EV**ステップ
2 **1/2 EV**ステップ
露出設定ステップを
1/3 EVにします
MENU 取消　OK 決定

ステップ幅	露出設定値
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0／±2.3／±2.7／±3.0
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0／±2.5／±3.0

露出を自動的に変化させて撮影する（露出ブラケット）

シャッターボタンを押したときに、露出が異なる画像を連続して3枚撮影できます。初期設定では、1枚目は補正なし、2枚目はアンダー露出（マイナス補正）、3枚目はオーバー露出（プラス補正）の順に画像を撮影します。

標準露出

アンダー露出

オーバー露出

撮影される順番は「**C** カスタム1」メニュー（p.89）の「7. ブラケット撮影順」で設定します。

1	0 – +	標準 → アンダー → オーバー（初期設定）
2	– 0 +	アンダー → 標準 → オーバー
3	+ 0 –	オーバー → 標準 → アンダー
4	0 + –	標準 → オーバー → アンダー

- 以下のときは、露出ブラケット撮影はできません。
  - 撮影モードが（動体）またはSCN（シーン）モードの（キッズ）／（ペット）／（夜景HDR）に設定されているとき
  - シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
- 露出ブラケットと多重露出を併用することはできません。後から設定した機能が有効になります。

1 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選ぶ

3 電子ダイヤルを回してブラケット幅を設定する

最初に撮影される値が点滅表示されます。

「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」（p.118）で設定したステップ幅によって、下記のブラケット幅が設定できます。

ステップ幅	ブラケット幅
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0／±2.3／±2.7／±3.0
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0／±2.5／±3.0

ボタン・ダイヤル等の操作

Avボタン ＋電子ダイヤル	オーバー方向、またはアンダー方向のみの露出ブラケット撮影を行う場合に、露出を補正します。露出補正値を「0」（中間値）として撮影します。
◉ボタン	補正値を±0にリセットします。（「撮影4」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているときのみ有効（p.197））

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク ● が点灯し、ステータススクリーンとファインダー内に露出補正値が表示されます。

6 シャッターボタンを全押しする

3枚撮影されるまでシャッターボタンを押し続けます。

「**C** カスタム1」メニュー（p.89）の「7. ブラケット撮影順」で設定した順番に補正して、3枚の画像が連続撮影されます。

- AF モードが **AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- 撮影途中でシャッターボタンから指を離しても、測光タイマー（p.116）の2倍（初期設定：約20秒）は設定値が保持され、次の補正値で撮影することができます。この場合、各コマごとにピント合わせが行われます。測光タイマーの2倍を過ぎると、1枚目からの撮影状態に戻ります。
- 内蔵ストロボ、または外付けストロボ（P-TTLオートの場合のみ）と露出ブラケット撮影を併用することで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。ただし、外付けストロボでは、カメラのシャッターボタンを押したまま3コマ連続して撮影すると、充電完了前に2コマ目、3コマ目が撮影されてしまうことがありますので、必ず1コマごとに充電完了を確認してから撮影してください。

撮影前の露出を記憶させる（AEロック）

AEロックは、撮影前の露出を記憶させる機能です。撮りたいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときや、逆光撮影のときなどにお使いください。

1 「◘撮影4」メニューの「AF/AE-Lボタン」を選び、十字キー（▶）を押す

「AF/AE-Lボタン」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で「AEロック」を選ぶ

AF/AE-Lボタン
AF1 AF作動1
AF2 AF作動2
AF AFキャンセル
AE-L AEロック
ボタンを押した時点の
露出を記憶します
MENU 取消　OK 決定

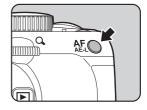
3 OKボタンを押す

4 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

5 露出を設定し、AF/AE-Lボタンを押す

その時点の露出（明るさ）をカメラが記憶します。

AEロック中は、ステータススクリーンとファインダー内に✱が表示されます。

- **AF**/**AE-L** ボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押ししている間は露出が記憶され続けます。**AF**/**AE-L** ボタンから指を離しても、測光タイマー（p.116）の2倍の時間は露出が記憶されています。
- **AF**/**AE-L** ボタンを押すと、電子音が鳴ります。電子音が鳴らないように設定することもできます。（p.269）
- シャッター速度が **Bulb** に設定されているときは、AE ロックは利用できません。
- 次の操作を行うと、AEロックは解除されます。
  - 再度 **AF**/**AE-L** ボタンを押す
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／**INFO**ボタンのいずれかを押す
  - モードダイヤルを回す
  - レンズを交換する
  - 絞り **A**（オート）位置のあるレンズを、絞り **A** 位置以外にする
- 焦点距離によって開放F値が変わるズームレンズでは、AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。ただし露光量は変わりませんので、AEロックした時点の明るさで画像は撮影されます。
- フォーカスロック時に露出を固定することもできます。「**C** カスタム 1」メニューの「5. AFロック時のAE-L」で設定します。（p.133）

ピントを合わせる

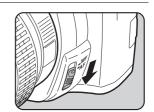
ピント合わせの方法には、以下の2通りがあります。

AF オートフォーカス	シャッターボタンを半押しすると自動的にピントを合わせます。
MF マニュアルフォーカス	マニュアルでピントを調整します。

オートフォーカスを利用する

オートフォーカスには、シャッターボタンを半押しにしてピントが合うとその位置に固定する**AF.S**（シングルモード）と、半押しにしている間、被写体に合わせて常にピントを調整する**AF.C**（コンティニュアスモード）、**AF.S**と**AF.C**を自動で切り替える**AF.A**（オート）があります。初期設定は、**AF.A**です。

☞ AFモードを設定する （p.125）

1 **フォーカスモードレバーをAFに合わせる**

2 ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります（点滅しているときは、ピントは合っていません）。

☞ オートフォーカスが苦手なもの（p.73）

合焦マーク

AF/AE-Lボタンを使ってピントを合わせる

AF/**AE-L** ボタンを押したときにピント合わせをするように設定できます。シャッターボタンの半押しによるオートフォーカス操作がわずらわしい場合などにご利用ください。

1 「撮影4」メニューの「AF/AE-Lボタン」を選び、十字キー（▶）を押す

「AF/AE-Lボタン」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でAF作動1／AF作動2を選択する

AF/AE-Lボタン
AF1 AF作動1
AF2 AF作動2
AF AFキャンセル
AE-L AEロック
ボタンを押すと
AFが作動します
MENU 取消　OK 決定

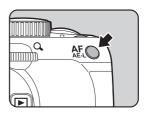
AF作動1	**AF/AE-L** ボタンとシャッターボタンのどちらでもオートフォーカスができます。（初期設定）
AF作動2	シャッターボタン半押しを無効にし、**AF/AE-L** ボタンを押したときだけオートフォーカスをします。
AFキャンセル	**AF/AE-L** ボタンを押している間は、ファインダー内に **MF** が表示され、シャッターボタンを押してもオートフォーカスしません（**AF/AE-L** ボタンを離すと、通常のオートフォーカス撮影に戻ります）。
AEロック	**AF/AE-L** ボタンを押すと、露出を記憶します。(p.120)

3 OK ボタンを押す

4 MENU ボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

5 ファインダーをのぞきながらAF/AE-L ボタンを押す

ピント合わせが行われます。

AFモードを設定する

オートフォーカスの方法を以下の3つから選択できます。

<table>
<tr><td>AF.A
オート</td><td>被写体の状況に応じてAF.S／AF.Cを自動で切り替えます。（初期設定）
• AUTO PICT（オートピクチャー）では、AF.A固定になります。
• モードダイヤルをP／Sv／Tv／Av／Mに合わせてライブビューで撮影しているときは、AF.Aを選択していてもAF.S固定になります。</td></tr>
<tr><td>AF.S
シングルモード</td><td>シャッターボタンを半押しにしてピントが合うと、その位置にピントを固定（フォーカスロック）します。別のものにピントを合わせるときは、いったんシャッターボタンから指を離します。
• ピクチャーモードの（人物）／（風景）／（マクロ）／（夜景人物）／（ストロボオフ）とSCN（シーン）モードの（夜景）／（サーフ＆スノー）／（料理）／（夕景）／（夜景HDR）／（キャンドルライト）／（美術館）では、AF.Sに固定されます。
• 必要に応じてAF補助光が発光します。（p.127）
• 「Cカスタム2」メニュー（p.89）の「9. AF.Sの動作」で、シャッターボタンを全押ししたときの優先動作を設定します。
<table>
<tr><td>1</td><td>フォーカス優先</td><td>ピントが合うまでシャッターがきれません。（初期設定）
被写体に近づきすぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスの苦手なもの（p.73）の場合は、マニュアルでピントを調整してください。（p.134）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>レリーズ優先</td><td>ピントが合っていなくても撮影できます。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>AF.C
コンティニュアスモード</td>
<td>シャッターボタンを半押しにしている間、被写体に合わせて常にピントを調整します。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯し、電子音が鳴ります。ピントが合っていなくてもシャッターボタンを押し込めば、いつでもシャッターがきれます。
• モードダイヤルを P ／Sv ／Tv ／Av ／M に合わせたときに設定できます。
• ピクチャーモードの（動体）と SCN（シーン）モードの（ステージライト）／（ナイトスナップ）／（キッズ）／（ペット）では、AF.C に固定されます。
• シャッターボタンの半押しや AF/AE-L ボタンでピント合わせを行っているときにカメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測を行います。
•「C カスタム2」メニュー（p.89）の「10. AF.Cの動作」で、連続撮影時の優先動作を設定します。
<table>
<tr><td>1</td><td>フォーカス優先</td><td>被写体の追従を優先して連続撮影します。（初期設定）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>コマ速優先</td><td>撮影速度を優先して連続撮影します。</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

1 フォーカスモードレバーを AF に合わせる

2 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO** ボタンを押します。

3 十字キー（▲▼◀▶）で「AF モード」を選択し、OK ボタンを押す

「AFモード」画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）でAFモードを選択する

5 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「📷撮影1」メニュー（p.87）で設定します。
- 撮影モードがピクチャーモード／SCN（シーン）モードでは、AFモードを変更できません。
- DAレンズのクイックシフト•フォーカス•システムを利用する場合は、必ず**AF.S**に設定してください。

「**C**カスタム2」メニュー（p.89）の「11. AF補助投光」で**AF.S**時の補助光の発光について設定します。

1	オン	被写体が暗い場合に、シャッターボタンを半押しするとAF補助光が発光し、ピントを合わせやすくします。（初期設定）
2	オフ	AF補助光を発光しません。

AF微調整

オートフォーカスでのピント位置を微調整できます。

注意
- **AF微調整は、必要な場合のみ行ってください。また、調整をすることで適切なピントで撮影できなくなることがありますので、十分注意の上、ご利用ください。**
- テスト撮影の際、手ぶれすると正確なピント位置を確認しづらくなります。必ず三脚を使用してテスト撮影を行ってください。

1 「Cカスタム3」メニューの「21. AF微調整」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「オン」を選び、十字キー（▶）を押す

「21. AF微調整」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で調整する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▶）	前ピン方向に調整します。
十字キー（◀）	後ピン方向に調整します。
⦿ボタン	調整値を±0にリセットします。

4 OKボタンを押す

調整値が登録されます。

5 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

6 テスト撮影する

デジタルプレビュー（p.140）やライブビュー（p.159）の拡大表示を使用するとピント確認が容易にできます。

手順2で「オフ」を選ぶと、調整値は無効になります（設定値はリセットされません）。

ピント合わせ位置（測距点）を選択する

ファインダーのどの位置にピントを合わせるかを設定できます。
選択された測距点は、ファインダー内で赤く点灯します（スーパーインポーズ）。

AUTO 5 オート5点	被写体が中央になくても、5点の測距点から自動的にファインダー内の最適な位置にピントを合わせます。（初期設定）
AUTO 11 オート11点	被写体が中央になくても、11点の測距点から自動的にファインダー内の最適な位置にピントを合わせます。
セレクト	AFフレーム内の11点の測距点から任意のエリアにピントを合わせます。
スポット	ファインダー内の中央にピントを合わせます。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「測距点切替」を選択し、OKボタンを押す

「測距点切替」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で測距点を選択する

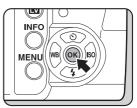
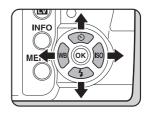
4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

- メニューから設定するときは、「撮影1」メニュー（p.87）で設定します
- 「Cカスタム2」メニューの「8. スーパーインポーズ」で「オフ」を選択すると、ファインダー内に測距点が表示されません。
- DA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外では、設定にかかわらず■に固定されます。

AFフレーム内の任意の位置にピントを合わせる

1 測距点を ▦ に設定し、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

2 十字キー（▲▼◀▶）で測距点を移動する

ステータススクリーンには設定した測距点が表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

OK ボタン	測距点を中央に設定します。
OK ボタン長押し	測距点の移動を無効にし、十字キー（▲▼◀▶）をダイレクトキー操作に切り替えます。ダイレクトキー操作が有効のときに **OK** ボタンを押すと、測距点が移動できるようになります。有効／無効の切り替え時には電子音が鳴ります。

ファインダー内の測距点表示が赤く点灯（スーパーインポーズ）し、どの位置に設定したかが確認できます。

移動した測距点は、電源を切ったり、AUTO 5／AUTO 11／▪ に変更しても記憶されています。

ピントを固定する（フォーカスロック）

オートフォーカスでピントを調整するときに、ピントを合わせたいものがAFエリアの範囲外にあるときは、被写体にピントを合わせることができません。そのような場合は、**AF.S**（シングルモード）にして、いったんAFエリアの範囲内で被写体にピントを合わせて固定（フォーカスロック）し、画像の構図を変えて撮影します。

1 AFモードをAF.Sに設定する

p.125を参照してください。

2 撮りたい画像の構図をファインダーで確認する

例）人物にピントが合わずに背景にピントが合ってしまう。

3 ピントを合わせたい被写体をファインダーの中心にして、シャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります（点滅しているときは、ピントは合っていません）。

4 フォーカスロックする

シャッターボタンを半押しにしたままにすると、そのままフォーカスロックされます。

5 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい画像の構図に戻す

- 合焦マーク●が点灯している間は、フォーカスロックされます。
- フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。
- 合焦時に電子音が鳴らないように設定できます。（p.269）
- AFモードが**AF.C**（コンティニュアスモード）のときと、撮影モードがピクチャーモードの（動体）および**SCN**（シーン）モードの（ステージライト）／（キッズ）／（ペット）／（ナイトスナップ）に設定されているときは、フォーカスロックできません。これらの場合は、シャッターをきるまでカメラがピントを追い続けます（コンティニュアスオートフォーカス）。

フォーカスロック時に露出値も固定する

「**C**カスタム1」メニュー（p.89）の「5. AFロック時のAE-L」を使ってフォーカスロック時に露出値を固定できます。初期設定では、フォーカスロック時に露出値は固定されません。

5. AFロック時のAE-L
1 オフ
2 オン
フォーカスロックと同時にAEロックを行います
MENU 取消　OK 決定

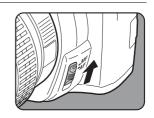
1	オフ	フォーカスロック時に露出値を固定しません。（初期設定）
2	オン	フォーカスロック時に露出値を固定します。

マニュアルでピントを調整する（マニュアルフォーカス）

マニュアルでピントを調整するには、ファインダー内の合焦マークを利用する方法と、ファインダーのマット面を利用する方法があります。

合焦マークを利用する

マニュアルフォーカスでもピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク●が点灯します。
合焦マーク●を利用して、手動でピントを調整します。

1 フォーカスモードレバーをMFに合わせる

2 ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しにし、レンズの距離リングを回す

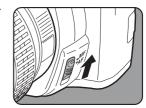
ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

合焦マーク

- 被写体がオートフォーカスの苦手なもの（p.73）に該当し、合焦マークが点灯しないときは、ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカスをしてください。
- 合焦時に電子音が鳴らないように設定できます。（p.269）

マット面を利用する

ファインダーのマット面を利用して、手動でピントを調整します。

1　フォーカスモードレバーをMFに合わせる

2　ファインダーをのぞきながらファインダー内の像が最もはっきり見えるように、レンズの距離リングを回す

キャッチインフォーカス撮影

「**C** カスタム3」メニュー（p.90）の「20. キャッチインフォーカス」を「オン」に設定すると、下記の条件にあてはまるレンズを取り付けて、AFモードを **AF.A**／**AF.S** に設定したときに、ピントが合うと自動的にシャッターがきれるキャッチインフォーカス撮影ができます。

- マニュアルフォーカスレンズ
- レンズ側で **AF**／**MF** の切り替えが可能なDA・FAレンズ（撮影前にレンズ側も **MF** に切り替えておきます）

● **撮影方法**

1 カメラにレンズを取り付ける
2 フォーカスモードレバーを **AF** に合わせる
3 AFモードを **AF.A**／**AF.S** に設定する
4 写したいものが通りそうな位置に、ピントを合わせる
5 シャッターボタンを押しきった状態にする
写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

撮影前に構図／露出／ピントを確認する（プレビュー）

プレビュー機能を利用すると、被写界深度・構図・露出・ピントなどを撮影前に確認することができます。
プレビューには、以下の2つがあります。

プレビュー方式	確認方法
光学プレビュー	被写界深度をファインダーで確認します。
デジタルプレビュー	構図・露出・ピントなどを画像モニターで確認します。

画像モニターにリアルタイムで画像を表示し、表示中に設定を変更したり、拡大表示ができる「ライブビュー」で確認することもできます。p.159を参照してください。

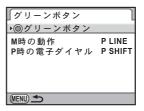
グリーンボタンにプレビュー機能を割り当てる

まず、⦿ボタンにプレビューの機能を割り当てます。

1 「撮影 4」メニューの「グリーンボタン」を選択し、十字キー（▶）を押す

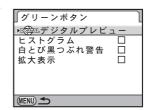
「グリーンボタン」画面が表示されます。

1 2 3 4
色空間 sRGB
RAWファイル形式 PEF
グリーンボタン ◎
AF/AE-Lボタン AF1
モードメモリ
Shake Reduction
焦点距離入力 35mm
MENU 終了

2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で光学プレビュー／デジタルプレビューを選択し、OKボタンを押す

「光学プレビュー」を選択した場合は、手順6に進みます。

グリーンボタン
グリーンボタン
カスタムイメージ
光学プレビュー
デジタルプレビュー
デジタルフィルター
クロスプロセス
ワンタッチRAW+
MENU 取消　OK 決定

4 十字キー（▲▼）でヒストグラム／白とび黒つぶれ警告／拡大表示を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

6 MENUボタンを2回押す

⦿ボタンにプレビューの機能が割り当てられ、撮影できる状態になります。

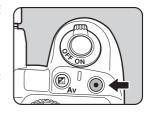
メモ　インターバル撮影／多重露出／ライブビュー撮影時は、設定に関わらず光学プレビューになります。

光学プレビューを表示する

1 **撮りたいものをAFフレームの中に入れてシャッターボタンを半押しする**

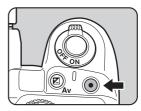
2 **ファインダーをのぞきながら ⦿ ボタンを押す**

⦿ボタンを押している間、ファインダー内で被写界深度を確認できます。

この間、ファインダー内の撮影情報の表示は消え、シャッターはきれません。

3 **⦿ボタンから指を離す**

光学プレビューが終了し、撮影できる状態になります。

デジタルプレビューを表示する

1 撮りたいものにピントを合わせ、ファインダーで構図を決めて⦿ボタンを押す

画像モニターにプレビュー中を示すアイコン（ ）が表示され、構図・露出・ピントを確認できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	プレビュー画像を拡大表示します。（p.223）
INFOボタン	プレビュー画像を保存します。「新規保存」を選択し、**OK**ボタンを押します。

2 シャッターボタンを半押しする

デジタルプレビューが終了し、カメラが合焦動作に入ります。

デジタルプレビューの表示時間は最長60秒です。

手ぶれを防いで撮影する

手ぶれ補正機能を使って撮影する

手ぶれ補正機能（Shake Reduction）とは、シャッターボタンを押す瞬間に起こりやすい手ぶれを補正しながら撮影できる機能です。手ぶれしやすいシーンでの撮影に効果的です。手ぶれ補正機能をオンにした場合、シャッター速度で約4段階程度の効果があります。
手ぶれ補正機能は、次のようなシーンでの撮影に適しています。

- 室内、夕方、曇り、日陰など薄暗い環境で撮影するとき
- 望遠で撮影するとき

手ぶれした写真

手ぶれ補正された写真

注意

- 手ぶれ補正機能は、被写体が動くことによるぶれには効果がありません。動いている被写体を撮影するときには、シャッター速度を速くして撮影してください。
- 近距離での撮影では、手ぶれ補正しきれないことがありますので、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用することをお勧めします。
- 流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件では、手ぶれ補正の効果が十分に現れないことがあります。その場合は、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用して撮影することをお勧めします。

手ぶれ補正機能を設定する

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「Shake Reduction」を選択し、OKボタンを押す

「Shake Reduction」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で（手ぶれ補正オン）／（手ぶれ補正オフ）を切り替える

（手ぶれ補正オン）	手ぶれ補正を行う（初期設定）
（手ぶれ補正オフ）	手ぶれ補正を行わない

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

5 シャッターボタンを半押しする

ファインダー内に（手ぶれ補正）が表示され、手ぶれ補正機能が有効になります。

- 三脚を使用する場合は、必ずShake Reductionをオフにしてください。
- 次の条件では、Shake Reductionは自動的にオフになります。
  - セルフタイマー撮影
  - リモコン撮影
  - シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
  - HDR撮影で「自動位置調整」がオフに設定されているとき
  - ストロボをワイヤレスモードで使用するとき
- 撮影モードがSCN（シーン）モードの（夜景HDR）に設定されているときは、Shake Reductionは自動的にオンになります。

- メニューから設定するときは、「撮影4」メニュー（p.88）で設定します。
- カメラの電源を入れた直後やオートパワーオフからの復帰直後（それぞれ約2秒間）は、手ぶれ補正機能が安定していません。手ぶれ補正の効果を十分に得るには、手ぶれ補正機能の安定を待って、ゆっくりシャッターボタンを押して撮影してください。シャッターボタンを半押しして、ファインダー内にが点灯すれば撮影可能です。
- K-r に装着できる当社製レンズであれば、種類を問わず、手ぶれ補正機能が使用できます。ただし、絞り**A**（オート）位置のあるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、**A**位置のないレンズを装着した場合、「**C**カスタム4」メニューの「22. 絞りリングの使用」で「許可」を設定しない限り、カメラは作動しませんので、あらかじめ設定してください。なお、その場合は機能制限がありますので、「「22. 絞りリングの使用」設定時の注意」（p.314）もあわせて参照してください。

焦点距離が自動検出されない場合

手ぶれ補正機能は、レンズの焦点距離などの情報を取得して動作します。ご使用のレンズがDA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズの場合は、手ぶれ補正機能を使用するときにレンズ焦点距離などの情報が自動的に取得されます。
レンズ焦点距離などの情報が取得できないレンズ（p.312）を使用している場合は、Shake Reductionの設定が（オン）の状態でカメラの電源を入れると、「焦点距離入力」画面が表示されます。
「焦点距離入力」画面で、レンズ焦点距離を設定します。

注意

- レンズ焦点距離などの情報が取得できるレンズを使用している場合は、「焦点距離入力」画面は表示されません。
- 絞り**A**位置がないレンズの場合および絞りを**A**位置から外して使用する場合は、「**C**カスタム4」メニューの「22. 絞りリングの使用」を「許可」に設定してください。（p.314）
- 手ぶれ補正の効果は、焦点距離の情報だけでなく撮影距離にも影響されます。近距離での撮影には十分な効果が得られない場合があります。

1 十字キー（◀▶）または電子ダイヤルでレンズ焦点距離を設定する

レンズ焦点距離は次の34種類から選択できます。（初期設定：35mm）

8	10	12	15	18	20	24	28	30	35
40	45	50	55	65	70	75	85	100	120
135	150	180	200	250	300	350	400	450	500
550	600	700	800						

- ご使用のレンズの焦点距離が上記にない場合は、最も近い値（例：17mmの場合は「18」、105mmの場合は「100」）を設定してください。
- ズームレンズを使用している場合も同様に、ズーム撮影時の実際の焦点距離を設定してください。

2 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

レンズ焦点距離の設定を変更する場合は、「撮影4」メニュー（p.88）の「焦点距離入力」で設定します。

セルフタイマーで撮影する

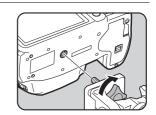
セルフタイマー撮影には、次の2種類があります。

セルフタイマー（12秒）	約12秒後にシャッターがきれます。撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
セルフタイマー（2秒）	シャッターボタンを押すとすぐにミラーがアップし、約2秒後にシャッターがきれます（ミラーアップ機能）。シャッターボタンを押すことで生じるカメラぶれを避けて撮影するときに使います。 露出値はミラーアップ直前の値でAEロックされます。

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でを選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／を選ぶ

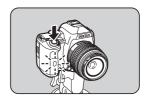
5 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

7 シャッターボタンを全押しする

⏲の場合、カメラ正面のセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを全押ししてから、約12秒後にシャッターがきれます。

⏲2sの場合は、約2秒後にシャッターがきれます。

- 撮影モードがピクチャーモードの（動体）、SCN（シーン）モードの（キッズ）／（ペット）に設定されているときは、セルフタイマー撮影はできません。
- セルフタイマー撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、⏲／⏲2s以外のモードに切り替えてください。なお「撮影4」メニューの「モードメモリ」（p.288）で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。
- ⏲／⏲2sに設定すると、「Shake Reduction」は自動的にオフになります。
- セルフタイマーの電子音が鳴らないように設定できます。（p.269）
- セルフタイマー撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能（p.120）を利用してください。モードダイヤルをM（マニュアル）に設定している場合はファインダーから入る光は影響しません。

リモコン（別売）を使って撮影する

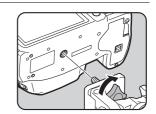
別売のリモコン（p.323）を使うと、カメラから離れた所から撮影することができます。
リモコン撮影には、次の2種類があります。

即レリーズ	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
3秒後レリーズ	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターがきれます。

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で を選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で ／ を選ぶ

セルフタイマーランプが点滅し、リモコン待機状態になります。

5 OKボタンを押す

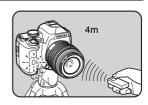
撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

7 リモコンをカメラ正面のリモコン受光部に向け、リモコンのシャッターボタンを押す

リモコン撮影できる距離はカメラ正面から約4mです。

撮影が終了すると、セルフタイマーランプが2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。

- 撮影モードがピクチャーモードの（動体）、SCN（シーン）モードの（キッズ）／（ペット）に設定されているときは、リモコン撮影はできません。
- 初期設定では、リモコンの操作でピント合わせはできません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてから、リモコン操作をしてください。「C カスタム2」メニュー（p.89）の「14. リモコン時のAF」で、リモコンでピント合わせができるように設定することもできます。（ライブビュー中は、リモコンでAF動作はできません。）
- 防水リモートコントロールO-RC1を使用した場合は、ボタンでAF動作ができます。Fnボタンは機能しません。
- リモコン撮影時は、ストロボモードを（自動発光）に設定しても、自動でポップアップしません。内蔵ストロボを使用したいときはあらかじめ⚡UP/ボタンを押してポップアップしてください。（p.78）
- リモコン撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、／以外のモードに切り替えてください。なお「撮影4」メニューの「モードメモリ」（p.288）で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。
- ／に設定すると、「Shake Reduction」は自動的にオフになります。
- リモコン撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能（p.120）を利用してください。モードダイヤルをM（マニュアル）に設定している場合はファインダーから入る光は影響しません。
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- リモートコントロールFは、約30,000回リモコン送信することができます。電池の交換（有料）については当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にお問い合わせください。

連続して撮影する

連続撮影

連続撮影では、シャッターボタンを全押ししている間、連続的にシャッターがきれます。
連続撮影には、次の2種類があります。

連続撮影（Hi）	12M・★★★のJPEG画像の場合、約6コマ/秒で、25コマまで連続撮影します。撮影バッファがいっぱいになると、撮影間隔が長くなります。
連続撮影（Lo）	12M・★★★のJPEG画像の場合、約2コマ/秒で、SDメモリーカードの容量いっぱいまで連続して撮影します。

メモ　記録形式がRAW形式の場合、連続撮影（Hi）は最大12コマ、連続撮影（Lo）は最大36コマまで連続撮影できます。

1 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で連続撮影を選ぶ

3 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で連続撮影（Hi）／連続撮影（Lo）を選ぶ

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

6 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。シャッターボタンから指を離すと、連続撮影は終了します。

- 撮影モードがピクチャーモードの（動体）、SCN（シーン）モードの（キッズ）／（ペット）に設定されているときは、に固定されます。
- AFモードが**AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、最初の合焦位置にピントが固定され、等間隔に撮影されます。
- AFモードが**AF.C**（コンティニュアスモード）に設定されている場合は、連続撮影中も常にピント合わせが行われます。
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。ただし、「**C**カスタム3」メニューの「16. 充電中のレリーズ」で、充電中でもシャッターがきれるように設定することもできます。（p.81）
- 連続撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、／以外のモードに切り替えてください。なお「撮影4」メニューの「モードメモリ」（p.288）で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。
- ディストーション補正／倍率色収差補正（p.211）をオンに設定すると、撮影速度が遅くなる場合があります。

インターバル撮影

インターバル撮影では、指定した時刻に等間隔で自動撮影ができます。

- 以下のときは、インターバル撮影は選択できません。
  - 撮影モードが（動画）、またはSCN（シーン）モードの（夜景HDR）に設定されているとき
  - シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
  - デジタルフィルター／HDR撮影が設定されているとき
- インターバル撮影を設定すると、多重露出は設定できません。

1 「撮影2」メニューの「インターバル撮影」を選び、十字キー（▶）を押す

「インターバル撮影」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影間隔」を選ぶ

2枚以上撮影する場合の待機時間を設定します。

十字キー（◀▶）で時／分／秒を選び、十字キー（▲▼）で時間を設定します。

設定できる時間は24時間00分00秒までです。

インターバル撮影
撮影開始
撮影間隔　00:00'00"
撮影枚数　002枚
開始トリガー　即時
撮影開始時刻
MENU 取消　OK 決定

3 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を選ぶ

撮影する枚数を設定します。

十字キー（◀▶）を押し、十字キー（▲▼）で枚数を設定します。

設定できる枚数は1～999枚です。

4 十字キー（▲▼）で「開始トリガー」を選ぶ

1枚目を撮影する時間を設定します。

十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で即時／時刻指定を切り替えます。

即時	すぐに撮影が開始されます。撮影枚数は2枚～になります。
時刻指定	指定した時刻に撮影が開始されます。十字キー（▼）を押して「撮影開始時刻」を選び、十字キー（◀▶）で時／分を選んで十字キー（▲▼）で開始時刻を設定します。

5 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、合焦マーク●が点灯します。

インターバル撮影	
待機中	
残り撮影枚数	100枚
撮影間隔	00:00'00"
MENU 終了	

7 シャッターボタンを全押しする

「開始トリガー」が「即時」の場合は、1枚目が撮影されます。「時刻指定」の場合は、設定した時刻に撮影が開始されます。
2枚以上撮影する場合は、手順2で設定した撮影間隔で撮影されます。
設定した枚数を撮影した後、通常の撮影モードに戻ります。

- インターバル撮影中にカメラの操作はできません。中止する場合は、背面にあるボタンのいずれかまたはシャッターボタンを押し、**MENU** ボタンを押すと終了確認画面が表示されるので、十字キー（▲▼）で「終了」を選び、**OK** ボタンを押します。また、電源レバーをOFFにしたり、モードダイヤルを回してもインターバル撮影は終了します。
- ドライブモードの設定に関わらず、□（1コマ撮影）になります。
- フォーカスモードが **AF.S**（シングルモード）でピントが合わないとき、「撮影間隔」が短くて直前の画像処理が終了していないときなどは、撮影されない場合があります。
- 撮影されるごとに、クイックビューが画像モニターに表示されますが、拡大表示／削除はできません。
- 「撮影枚数」を1枚に設定した場合は、「撮影間隔」の設定は無効となります。
- メモリーカードの空き容量がなくなると、インターバル撮影は終了します。
- オートパワーオフ（p.281）により一度電源が切れた場合でも、撮影時刻が近づくと自動的に電源が入ります。
- 長時間インターバル撮影をするときは、ACアダプターキットK-AC109J（別売）のご使用をお勧めします。（p.50）

多重露出

任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。

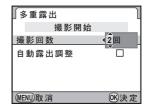
- 以下のときは、多重露出は選択できません。
  - 撮影モードが（動画）、またはSCN（シーン）モードの（夜景HDR）に設定されているとき
  - デジタルフィルター／HDR撮影／クロスプロセスのいずれかが設定されているとき
- 多重露出を設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 露出ブラケット／インターバル撮影との併用（後から設定した機能が有効）
  - ディストーション補正／倍率色収差補正

1 「撮影2」メニューで「多重露出」を選び、十字キー（▶）を押す

「多重露出」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影回数」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で撮影回数を選ぶ

2～9回が選択できます。

4 OKボタンを押す

5 十字キー（▲▼）で「自動露出調整」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑（オン）にすると撮影回数に応じて自動的に露出補正を行います。

6 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

7 撮影する

シャッターボタンを1回押すごとに合成された画面がクイックビューに表示されます。クイックビュー表示中に⚡UP/🗑ボタンを押すと、それまでに撮影した画像を破棄して、1回目から撮影をやり直すことができます。

設定した回数の撮影が終了すると画像が保存され、「多重露出」画面に戻ります。

- 撮影の途中で次のいずれかの操作を行うと、それまで撮影した画像が保存されて多重露出が終了します。
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／十字キー（▲▼◀）／**INFO**ボタンのいずれかを押す
  - モードダイヤルを回す
  - 露出ブラケットを設定する
- ライブビューで多重露出撮影をした場合は、撮影済みの合成画像が半透過されて表示されます。

デジタルフィルターを使って撮影する

フィルターをかけて撮影することができます。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像を撮影します。	シェーディング強度：+1～+3
		ぼかし：+1～+3
		トーンブレイク：赤／緑／青／黄
レトロ	古い写真のような画像を撮影します。	調色：-3～+3
		縁取り：なし／細／中／太
ハイコントラスト	コントラストを強くして撮影します。	+1～+5
色抽出	特定の2色だけを抽出し、他の部分を白黒で撮影します。	抽出色 1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：-2～+2
		抽出色 2：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー／OFF
		抽出色2の感度：-2～+2
ソフト *1	全体をぼかしたようなやわらかい画像を撮影します。	ソフトフォーカス：+1～+3
		シャドーぼかし：OFF／ON
トゥインクル *1	夜景や水面の光の輝きなど、ハイライト部に光条を表現し、キラキラした雰囲気を強調します。	形状：クロス／星／雪の結晶／ハート／音符
		個数：少／中／多
		大きさ：小／中／大
		角度：0／30／45／60°
フィッシュアイ *1	魚眼レンズで撮影したような画像を撮影します。	弱／中／強

フィルター名	効果	パラメーター
カスタム [*1]	好みのフィルターを作成して保存することができます。	ハイコントラスト：OFF／+1～+5
		ソフトフォーカス：OFF／+1～+3
		トーンブレイク：OFF／赤／緑／青／黄
		シェーディングタイプ：6種類
		シェーディング強度：-3～+3
		ディストーションタイプ：3種類
		ディストーション強度：OFF／弱／中／強
		ネガポジ反転：OFF／ON
カラー [*2]	選択したカラーフィルターをかけて撮影します。18種類（6色×3段階）の調整ができます。	カラー：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：淡／中／濃

*1 撮影モードが（動画）のときは選択できません。
*2 撮影モードが（動画）のときのみ選択できます。

- 以下のときは、デジタルフィルターは選択できません。
  - 撮影モードがSCN（シーン）モードの（夜景HDR）に設定されているとき
  - 記録形式がRAW／RAW+に設定されているとき（JPEG固定）
- デジタルフィルターを設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影／インターバル撮影／多重露出
  - HDR撮影との併用（後から設定した機能が有効）

フィルターによっては、画像の保存に時間がかかることがあります。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「デジタルフィルター」を選択し、OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。

電源を入れてから、直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

3 十字キー（◀▶）でフィルターを選択する

4 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）でパラメーターの値を調整する

ボタン・ダイヤル等の操作

Avボタン	設定を適用した背景画像をデジタルプレビューで確認します。（撮影モードが（動画）のときは無効）
INFOボタン	背景画像を保存します。「新規保存」を選択し、**OK**ボタンを押します。

5 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「撮影2」メニュー（p.87）で設定します。
- 撮影モードが（動画）のときは、「撮影3」メニューの「動画」で設定します。（p.165）
- デジタルフィルター撮影を終了するときは、手順3で「フィルターオフ」を選択します。
- JPEG／RAW画像は、撮影後にデジタルフィルターで加工することもできます。（p.253）

ライブビューを利用して撮影する

画像モニターにリアルタイムで画像を表示して撮影できます。

- 低輝度または高輝度の撮影条件の場合、ライブビュー画像と撮影結果が異なる場合があります。
- ライブビュー中に撮影光源が変化すると、画面がちらつくことがあります。
- ライブビュー中にカメラの向きを変えるなどの急激な変化があると、適切な明るさで表示されない場合があります。表示が安定するのを待ってから撮影してください。
- 暗い場所ではライブビュー画像にノイズが生じる場合があります。
- ライブビューの表示時間は最長5分です。5分経過してライブビューが解除されたときは、LVボタンを押すとライブビューが再開します。
- 長時間ライブビューで撮影を行うとカメラ内部の温度が上がり、画質が低下することがあります。撮影しないときは、ライブビューをこまめに停止するようにしてください。画質低下を軽減するため、長時間露光や動画撮影時は撮影の間隔をあけ、カメラ内の温度が上昇しないようにしてください。
- カメラ内部の温度が高いと🌡（温度警告）が画像モニターに表示され、ライブビューが表示できない場合があります。
- 直射日光下などカメラ本体が熱くなる環境でライブビューを行うと、🌡（温度警告）が画像モニターに表示されることがあります。カメラ内部の温度が上昇しているので、ライブビューを中断してください。
- 🌡（温度警告）が表示されたままライブビューを継続すると、5分経過していなくてもライブビューが終了することがあります。ライブビューが終了しても、ファインダーでの撮影は可能です。
- ISO感度を高くすると、ノイズや色ムラが生じる場合があります。

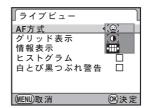
- ライブビュー中は、ファインダー内は表示されません。
- 画像モニターを見ながらの手持ち撮影は、カメラぶれの原因となります。三脚の使用をお勧めします。
- SDメモリーカードへのデータ記録中は、ライブビューは表示できません。

ライブビュー撮影の設定をする

ライブビュー中の表示とオートフォーカス方式を設定します。

1 「◘ 撮影 3」メニューの「ライブビュー」を選び、十字キー（▶）を押す

「ライブビュー」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でオートフォーカスの方式を選択する

顔検出AF	検出した顔に優先的にオートフォーカスを行いながら、コントラストAFを行います。検出したメインの顔には黄色（他の顔には白）の枠が表示され、メインの顔に対してオートフォーカスと自動露出が行われます。（初期設定） フォーカスモードが**MF**になっているときは、顔検出は行われません。（AUTO PICT（オートピクチャー）時を除く）
コントラストAF	ライブビューを継続しながら撮像素子から得られる情報をもとにオートフォーカスを行います。
位相差AF	ライブビューを中断し、AFセンサーがオートフォーカスを行います。 ライブビュー中にシャッターボタンを半押しすると、ライブビュー画像の表示がいったん消えてオートフォーカスが行われます。ピントが合うと再びライブビュー画像が表示されます。

3 OKボタンを押す

4 十字キー（▲▼）で「グリッド表示」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（▲▼）でグリッド表示の種類を選択してOKボタンを押す

オフ（初期設定）／▦（16分割）／▦（黄金分割）／▦（スケール）が選択できます。

6 十字キー（▲▼）で情報表示／ヒストグラム／白とび黒つぶれ警告を選ぶ

7 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

8 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ

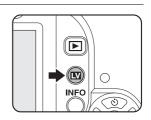
AF方式の[☺]／[◐]は、▦に比べてピントが合うまでに時間がかかります。また、次のような条件のときは、ピントが合いにくくなります。

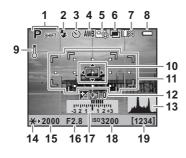
- コントラストがない被写体
- 横縞など縦方向のコントラストがないもの
- 噴水など明るさや形、色などが常に変化するもの
- 距離が変化しているもの
- 小さな被写体
- 遠近が混在している被写体
- 特殊フィルターを装着しているとき
- 被写体が画面の端にあるとき

静止画を撮影する

1 撮影モードを設定する

モードダイヤルを🎥以外のいずれかに合わせます。

2 LVボタンを押す

ミラーアップされ、画像モニターにリアルタイムで映像が表示されます。もう一度LVボタンを押と、ライブビューが終了します。

ライブビューの表示
（説明のため全項目を表示しています。）

1	撮影モード	7	多重露出撮影回数／クロスプロセス
2	ストロボモード	8	バッテリー残量
3	ドライブモード	9	温度警告
4	ホワイトバランス	10	コントラストAF枠
5	カスタムイメージ	11	位相差AFのAFフレーム／測距点
6	多重露出／インターバル撮影／デジタルフィルター／HDR撮影	12	露出補正

13 ヒストグラム	**18** ISO感度
14 AEロック	**19** 撮影可能枚数
15 シャッター速度	**20** メイン顔検出枠（顔検出AF）
16 絞り値	**21** 顔検出枠（顔検出AF）
17 露出バー	

※ 11のAFフレームは、ライブビュー中は白で表示され、ピントが合うと緑色の四角枠になります。ピントが合わなかったときは、赤色になります。フォーカスモードが**MF**になっているときは表示されません。
※ 15・16・18が変更できるときは、その数値の前に▶が表示されます。
※ 20・21は、AF方式を に設定していて、顔を検出した場合に表示されます。（最大16個）

ボタン・ダイヤル等の操作

OKボタン	測距点が （セレクト）に設定されていてAF方式が／ のときに、十字キー（▲▼◀▶）でのダイレクトキー操作を無効にし、測距点が移動できるようにします。
十字キー（▲▼◀▶）	測距点の移動が有効なときに測距点を移動します。 **OK**ボタンを押すと、測距点は中央に戻ります。
OKボタン長押し	測距点の移動を無効にし、十字キー（▲▼◀▶）をダイレクトキー操作に切り替えます。
INFOボタン	2／4／6倍（フォーカスモードが**MF**になっているときは、2／4／6／8／10倍）に拡大表示します。十字キー（▲▼◀▶）で表示範囲が移動し、⦿ボタンを押すと表示が中央に戻ります。（「撮影4」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているときのみ有効（p.197））

3 画像モニターに被写体を入れ、シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

フォーカスモードが**MF**になっているときは、レンズの距離リングを回してピントを合わせます。

4 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- AFモードが**AF.C**でAF方式が[顔検出]／[追尾]の場合、オートフォーカス開始時は画面中央でピントを合わせ、合焦すると自動追尾を行います。
- 拡大表示して撮影しても、通常のサイズで記録されます。
- 「撮影4」メニューの「グリーンボタン」を光学プレビュー／デジタルプレビューに設定しているときに⦿ボタンを押すと、ファインダーで被写界深度が確認できます。（p.137）

ライブビュー中は、ステータススクリーンとコントロールパネルは表示できません。設定を変更するときは、**MENU**ボタンを押して各メニューから設定してください。

動画を撮影する

動画もライブビューで撮影できます。

動画の設定を変更する

動画のフレームレート（1秒間に撮影する画像数）は25fps（フレーム/秒）、音声はモノラル、ファイル形式はAVIです。

1 **「撮影3」メニューの「動画」を選び、十字キー（▶）を押す**

「動画」画面が表示されます。

2 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で記録サイズを選択してOKボタンを押す**

記録サイズ	画素数	アスペクト比
HD（初期設定）	1280×720	16：9
VGA	640×480	4：3

3 **十字キー（▲▼）で「画質」を選び、十字キー（▶）を押す**

4 **十字キー（▲▼）で画質を選択してOKボタンを押す**

★★★（スーパーファイン、初期設定）／★★（ファイン）／★（エコノミー）から選択します。

記録サイズ／画質を変更すると、その設定で撮影できる時間が画面右上に表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「音声」を選び、十字キー（▶）を押す

6 十字キー（▲▼）で🔊／🔇を切り替えてOKボタンを押す

🔊	音声を録音する（初期設定）
🔇	音声を録音しない

7 必要に応じてクロスプロセス／デジタルフィルターを設定する

設定の詳細については、クロスプロセスはp.216、デジタルフィルターはp.155を参照してください。

8 十字キー（▲▼）で「絞り設定」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（▲▼）で固定／オートを選択してOKボタンを押す

固定	撮影開始前に設定した任意の絞り値で撮影する（初期設定）
オート	自動で絞りを制御する（撮影開始後は絞り固定）

10 十字キー（▲▼）で「Shake Reduction」を選び、十字キー（▶）を押す

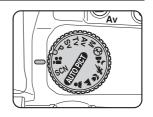
11 十字キー（▲▼）で((✋))／((✋))を選択してOKボタンを押す

((✋))	手ぶれ補正を行う
((✋))	手ぶれ補正を行わない（初期設定）

12 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

動画を撮影する

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

動画撮影用のライブビューが表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	「絞り設定」が「固定」に設定されているときに、絞り値を変更します。（初期設定）
⦿ボタン	「📷撮影4」メニューの「グリーンボタン」が「グリーンボタン」に設定されているときは、絞り値をリセットします。 「グリーンボタン」がカスタムイメージ／デジタルフィルター／クロスプロセスに設定されているときは、設定画面を表示します。（p.197）
☒Avボタン＋電子ダイヤル	露出を補正します。（±2EVまで）
OKボタン	測距点が▦（セレクト）に設定されていてAF方式が〔◐〕／▦のときに、十字キー（▲▼◀▶）でのダイレクトキー操作を無効にし、測距点が移動できるようにします。
十字キー（▲▼◀▶）	測距点の移動が有効なときに測距点を移動します。 OKボタンを押すと、測距点は中央に戻ります。

OK ボタン長押し	測距点の移動を無効にし、十字キー（▲▼◀▶）をダイレクトキー操作に切り替えます。
INFO ボタン	2／4／6倍（フォーカスモードが **MF** になっているときは、2／4／6／8／10倍）に拡大表示します。十字キー（▲▼◀▶）で表示範囲が移動します。

2 画像モニターに被写体を入れ、シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

フォーカスモードが **MF** になっているときは、レンズの距離リングを回してピントを合わせます。

3 シャッターボタンを全押しする

動画の撮影が開始されます。

4 もう一度シャッターボタンを押す

撮影が終了します。

- 動画の音声が 🔊（オン）になっている場合、カメラの動作音なども録音されます。動画を撮影するときは三脚などで固定し、撮影中はカメラを操作しないようにしてください。
- 動画撮影時は、AF モードの設定にかかわらず、ピントが合っていなくてもシャッターボタンを全押しすると撮影が開始されます。
- 動画撮影中は、オートフォーカスは動作しません。
- ストロボは使用できません。
- デジタルフィルターなどの画像処理を設定して撮影した場合、部分的にコマが抜けて記録されることがあります。
- 動画撮影中にカメラ内部が高温になったときは、回路保護のため強制終了する場合があります。

- 動画は最大4GB、または最長25分まで連続して撮影できます。SDメモリーカードがいっぱいになると撮影を中断し、保存されます。
- 🎥 モードでの画面表示は「📷 撮影 3」メニューの「ライブビュー」の設定（p.160）に従います。ただしヒストグラム／白とび黒つぶれ警告は、撮影中は表示されません。
- 長時間撮影するときは、ACアダプターキットK-AC109J（別売）のご使用をお勧めします。（p.50）
- 別売のリモコンで撮影することもできます。（p.147）
- 動画撮影中も露出補正ができます。
- ISO感度はAUTO固定です。

撮影した動画を再生する

撮影した動画は、画像と同様に再生モードで再生できます。

1 ▶ボタンを押す

再生モードになります。

2 十字キー（◀▶）で再生する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が画像モニターに表示されます。

3 十字キー（▲）を押す

動画が再生されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲）	一時停止／再開
電子ダイヤル	音量調節（6段階）
十字キー（▶）	（一時停止中）コマ送り
十字キー（▶）長押し	押している間、早送り再生
十字キー（◀）	逆方向に再生 （一時停止中）コマ戻し
十字キー（◀）長押し	押している間、早戻し再生
十字キー（▼）	停止 （停止中）再生モードパレットを表示（p.220）
INFOボタン	表示中の画像をJPEG形式で保存

再生が終わると停止し、1コマ目の画像が表示されます。

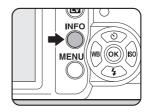
別売のAVケーブルI-AVC7を利用すると、テレビなどのAV機器で動画を再生することができます。（p.242）

動画から静止画を切り出す

動画の1コマを切り出し、JPEG形式の静止画として保存することができます。

1 **p.169 の手順 3 の画面で十字キー（▲）を押して一時停止し、静止画で保存する1コマを表示する**

2 **INFOボタンを押す**

保存の確認画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「新規保存」を選んでOKボタンを押す**

動画から切り出された画像が新規保存されます。

動画を編集する

動画を分割したり、不要な部分を消去することができます。

1 ▶ボタンを押す

再生モードになります。

2 十字キー（◀▶）で再生する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が画像モニターに表示されます。

3 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で ✂（動画編集）を選び、OK ボタンを押す

動画を編集する画面が表示されます。

5 分割する箇所を指定する

4箇所まで指定できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲）	再生／一時停止
十字キー（▶）	（一時停止中）1秒進む （再生中）次の分割位置へ移動
十字キー（◀）	（一時停止中）1秒戻る （再生中）前の分割位置へ移動
電子ダイヤル	音量調節（6段階）
⦿ボタン	分割位置指定／解除

6 消去する場合は⚡UP/🗑ボタンを押す

消去する箇所を選択する画面が表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（◀▶）	選択枠を移動
OK ボタン	消去箇所を選択／解除
MENU ボタン	消去箇所選択画面を終了

7 OK ボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

8 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選択し、OK ボタンを押す

指定した箇所が分割／消去された画像が新規保存され、その動画が表示されます。

メモ

分割位置は、動画の時系列に沿って先頭から順に指定します。分割位置を解除するときは、逆方向（後ろから前）に順に指定します。分割指定している途中に分割位置を追加したり、途中の分割指定を解除することはできません。

5 ストロボの活用

K-r の内蔵ストロボの詳細、および外付けストロボを使用した撮影方法をご紹介します。

露出モードによるストロボ撮影の特徴

Tv（シャッター優先）モードでストロボを使う

- 動きのあるものを撮影するときに、ブレの効果を変えてストロボ撮影ができます。
- 1/180秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影ができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化します。
- DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・Aレンズ以外のレンズを使用した場合、シャッター速度は1/180秒固定になります。

Av（絞り優先）モードでストロボを使う

- ピントが合って見える範囲（被写界深度）を変えて撮影したいときや、より遠くのものを写したいときなどに、絞り値を自由に変えてストロボ撮影ができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化します。
- シャッター速度は 1/180 秒から低速側はカメラぶれをしにくいシャッター速度（p.68）まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用のレンズの焦点距離によって変化します。
- DA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用した場合、シャッター速度は1/180秒固定になります。

スローシンクロを利用する

夕景などを背景にして人物撮影をするときは、ピクチャーモードの（夜景人物）や、**Tv**（シャッター優先）モードを使ってスローシンクロを行うと、人物も背景もきれいに撮影できます。

- スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、「Shake Reduction」を使用するか、「Shake Reduction」をオフにしてカメラを三脚などに固定してください。また、撮影される側が動いても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。
- スローシンクロは、外付けストロボでも同様に行うことができます。

Tvモードを使用する場合

1 モードダイヤルをTvに合わせる

2 電子ダイヤルでシャッター速度を設定する

シャッター速度を設定したときに絞り値が点滅していると、背景が適正露出になりません。絞り値が点滅しないようにシャッター速度を調整してください。

3 ϟUP/🗑ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップします。

4 撮影する

P／Sv／Avモードを使用する場合

1 モードダイヤルをP／Sv／Avに合わせる

2 ϟUP/🗑ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップします。

3 十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

4 SLOWϟ／SLOW◎ϟを選択し、OKボタンを押す

背景も適正露出になるようにシャッター速度が遅く設定されます。

5 撮影する

Mモードを使用する場合

1 **モードダイヤルをMに合わせる**

2 **適正露出になるように、シャッター速度と絞り値を設定する**

シャッター速度は1/180秒以下に設定します。

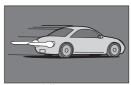
3 **⚡UP/🗑ボタンを押す**

内蔵ストロボがポップアップします。
M（マニュアル）モードでは、撮影前のどの時点で内蔵ストロボを上げても構いません。

4 **撮影する**

後幕シンクロを利用する

後幕シンクロではシャッター幕が閉じる直前にストロボが発光します。動いている被写体などを低速で撮影する場合、ストロボの発光タイミングの違いにより、スローシンクロとは違う効果の写真になります。
例えば、後幕シンクロで走っている車を撮影すると、シャッターが開いている間にライトの光跡などが露光され、ストロボ発光によって最後に車の姿を露光します。そのため、光跡が流れるような写真を撮影できます。

スローシンクロ
（先幕シンクロ）

後幕シンクロ

1 モードダイヤルをP／Sv／Tv／Av／Mに合わせる

2 十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

3 SLOW⏩⚡／⏩⚡を選択し、OKボタンを押す

4 ⚡UP/🗑ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップします。

5 撮影する

メモ　後幕シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、「Shake Reduction」を使用するか、「Shake Reduction」をオフにしてカメラを三脚などに固定してください。

内蔵ストロボ撮影時の距離と絞り

ストロボを使って撮影する場合、ストロボのガイドナンバーとカメラの絞り値、撮影距離の間には、一定の条件が必要です。
計算してみて光量が不足する場合、撮影条件を見直してください。

ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー	ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー
ISO 100 *1	約12	ISO 3200	約64
ISO 200	約16	ISO 6400	約96
ISO 400	約24	ISO 12800 *1	約128
ISO 800	約32	ISO 25600 *1	約192
ISO 1600	約48		

*1「**C** カスタム1」メニューの「3. 拡張感度」がオン時

使用絞りから撮影距離を算出する方法

絞り値が決まった場合、ストロボをどの距離まで使用できるかは、次の式で計算できます。

遠距離側の目安　距離L1＝ガイドナンバー÷絞り値
近距離側の目安　距離L2＝遠距離側目安÷5 *
* 「5」という数値は、このカメラの内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。

例）ISO感度がISO 200の場合、絞り値F4.0で使用すると、
L1＝16÷4.0＝約4（m）
L2＝4÷5＝約0.8（m）
すなわち、約0.8～4mの範囲でストロボが使用できます。
ただし、このカメラの内蔵ストロボは、0.7m以下の距離では使用できません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレ、露出オーバーの原因となります。

撮影距離から使用絞りを算出する方法

撮影距離が決まっている場合は、次の式で絞り値を算出します。

絞り値F＝ガイドナンバー÷撮影距離

例）ISO感度がISO 200の場合、撮影距離5mで計算すると、
F＝16÷5＝3.2
上記のように計算で出た数字が「3.2」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方で近い値、この例では「2.8」に設定します。

レンズと内蔵ストロボの適合

K-r と組み合わせるレンズによっては、レンズフードなしで取り付けても、ケラレが発生するために内蔵ストロボが使用できなかったり、使用できても制限がある場合があります。
下記の一覧表にないDA・DA L・D FA・FA J・FAレンズは、問題なく使用できます。
　※一覧表はいずれもフードなしの評価です。

ケラレが発生するので使用不可

レンズ名
DA FISH-EYE 10-17mm F3.5-4.5ED (IF)
DA12-24mm F4ED AL
DA14mm F2.8ED (IF)
FA★300mm F2.8ED (IF)
FA★600mm F4ED (IF)
FA★250-600mm F5.6ED (IF)

条件付きで使用可能

レンズ名	制限
F FISH-EYE 17-28mm F3.5-4.5	焦点距離20mm未満ではケラレが発生することがあります。
DA16-45mm F4ED AL	焦点距離が28mm未満のとき、および焦点距離が28mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生することがあります。
DA★16-50mm F2.8ED AL (IF) SDM	焦点距離が20mm以下の場合と、35mmで撮影距離が1.5m未満ではケラレが発生します。
DA17-70mm F4AL (IF) SDM	焦点距離が24mm未満のとき、および焦点距離が24mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生します。
DA18-250mm F3.5-6.3ED AL (IF)	焦点距離が35mm未満ではケラレが発生します。
FA★28-70mm F2.8AL	焦点距離が28mmで撮影距離が1m未満では、ケラレが発生することがあります。
FA SOFT 28mm F2.8	内蔵ストロボは常にフル発光になります。
FA SOFT 85mm F2.8	内蔵ストロボは常にフル発光になります。

外付けストロボ（別売）を使って撮影する

別売の外付けストロボAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCを使用すると、P-TTLオートストロボ撮影が可能なほか、ストロボの機能に応じて様々なストロボ撮影ができます。下表を参考にしてご使用ください。

（○：使用可　△：条件付使用可　×：使用不可）

ストロボ / カメラの機能	内蔵ストロボ	AF540FGZ AF360FGZ	AF200FG AF160FC
赤目軽減機能が使用できる	○	○	○
ストロボ自動発光ができる	○	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる	○	○	○
P／**Tv**モードで絞り値が自動セットされる	○	○	○
P-TTLオートストロボ撮影ができる	○*1	○*1	○*1
スローシンクロ撮影ができる	○	○	○
ストロボ光量補正ができる	○	○	○
外付けストロボのAF補助光が使用できる	×	○	×
後幕シンクロ撮影ができる*2	○	○	×
光量比制御モードで撮影ができる	△*3	○	△*4
スレーブ機能が働く	×	○	×
ハイスピードシンクロで撮影ができる	×	○	×
ワイヤレスで撮影ができる	△*4	○*5	×

*1 DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・Aレンズを使用した場合のみ可能。
*2 シャッター速度は、1/90秒以下に限定。
*3 AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせたとき、内蔵ストロボ1/3、外付けストロボ2/3の光量配分で可能。
*4 AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせた場合のみ可能。
*5 AF540FGZ／AF360FGZが複数台、または1台と内蔵ストロボと組み合わせることが必要。

極性が逆（ホットシューの中心の接点がマイナス）のストロボは使用できません。カメラやストロボが壊れる恐れがあります。

AF360FGZの表示パネルについて

AF360FGZの場合、ストロボ単体ではFORMATサイズを「DIGITAL」に設定する機能はありませんが、デジタル一眼レフカメラと組み合わせることで、画角差から生じる35ミリ判カメラとK-rとの焦点距離の差を自動で換算し、表示します。（DA・DA L・D FA・FAJ・FA・Fレンズ使用時）。
換算表示はK-rの測光タイマーがオンの間のみ行われ、FORMATサイズ表示は消灯となります（測光タイマーがオフになると、35ミリ判表示に戻ります）。

使用レンズの焦点距離	85mm／77mm	50mm	35mm	28mm／24mm	20mm	18mm
測光タイマーオフ	85mm	70mm	50mm	35mm	28mm	24mm※
測光タイマーオン	58mm	48mm	34mm	24mm	19mm	16mm※

※ワイドパネル使用

P-TTLオートで使う

AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCと組み合わせた場合、「P-TTLオート」で撮影できます。本発光前に小光量を発光して、被写体の状態（距離・輝度・輝度差・逆光など）をカメラ側の16分割測光センサーで確認し、その情報をもとに本発光の光量を調整しますので、通常のTTLオートよりさらに正確な露出でストロボ撮影ができます。

1 **カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける**

2 **カメラと外付けストロボの電源を入れる**

3 **外付けストロボの発光モードをP-TTLオートに設定する**

4 **外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する**

- P-TTLオート撮影は、AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCと組み合わせた場合のみ可能です。
- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ が点灯します。
- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの使用説明書を参照してください。
- ストロボモードが ϟA ／ ϟ👁A の場合は、撮りたいものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。
- 外付けストロボを取り付けた状態で、**ϟUP**/🗑 ボタンを押さないでください。内蔵ストロボが外付けストロボに接触します。内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用する場合は、ワイヤレスモードを使用するか延長コードを利用して接続してください。（p.187）

ハイスピードシンクロモードで使う

AF540FGZ／AF360FGZを使用すると、1/180秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影することができます。

1 **カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）を取り付ける**

2 **カメラのモードダイヤルをTv／Mに合わせる**

3 **カメラと外付けストロボの電源を入れる**

4 **外付けストロボのシンクロモードをHS ϟ（ハイスピードシンクロ）に設定する**

5 **外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する**

- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ が点灯します。
- シャッター速度が 1/180 秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。
- シャッター速度が**Bulb**に設定されている場合は、ハイスピードシンクロはできません。

ワイヤレスモードで使う

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）同士の組み合わせ、または内蔵ストロボとの組み合わせで、ストロボ同士をコードで接続しないでP-TTL撮影することができます。

- 外付けストロボの電源スイッチはWIRELESSに合わせてください。
- ハイスピードシンクロモードをワイヤレスで使用するには、AF540FGZ ／AF360FGZが2台以上必要です。内蔵ストロボとの組み合わせでは利用できません。
- カメラから離す側の外付けストロボのワイヤレスモードは、SLAVE に設定してください。

外付けストロボのチャンネルをカメラに登録する

まず外付けストロボのチャンネルをカメラに登録します。

1 外付けストロボのチャンネルを設定する

2 カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける

3 カメラと外付けストロボの電源を入れ、シャッターボタンを半押しする

外付けストロボと同じチャンネルが内蔵ストロボに設定されます。

- W⚡モードを設定すると、ファインダー内に内蔵ストロボの現在のチャンネルが10秒間表示されます。
- 使用するすべてのストロボは、必ず同じチャンネルに合わせてください。外付けストロボのチャンネルの設定方法は、AF540FGZ／AF360FGZの使用説明書を参照してください。

内蔵ストロボをワイヤレスモードにする

外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合は、カメラのストロボモードをワイヤレスモードに設定します。

1 十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

2 W⚡を選択し、OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ：ドライブモードが（リモコン3秒後レリーズ）の場合、またはレンズの絞りが **A** 位置以外の場合は、W⚡は選択できません。

内蔵ストロボの発光方式を変更する

内蔵ストロボのワイヤレス時の発光方式を変更することができます。
「**C** カスタム3」メニュー（p.90）の「17. ワイヤレス時の発光」で設定します。

1	オン	内蔵ストロボをマスター発光させます。（初期設定）
2	オフ	内蔵ストロボをコントローラー発光させます。

内蔵ストロボでHS⚡（ハイスピードシンクロ）は利用できません。

ワイヤレス撮影のしかた

● 内蔵ストロボと外付けストロボの組み合わせで撮影する場合

1 **カメラとチャンネルを合わせた外付けストロボを、発光させたい位置に固定する**

2 **カメラのストロボモードを W⚡ に設定し、⚡UP/🗑 ボタンを押す**

3 **両方のストロボが充電完了していることを確認し、撮影する**

● 外付けストロボ同士の組み合わせで撮影する場合

1 **カメラに取り付けた側のストロボのワイヤレスモードを、MASTER／CONTROLに設定する**

MASTER （マスター）	カメラ側のストロボ、離して使う側のストロボの両方を本発光させる場合に設定します。
CONTROL （コントロール）	カメラ側のストロボはコントロール発光のみで、本発光はさせない場合に設定します。

2 **カメラから離して使う側のストロボのワイヤレスモードをSLAVEに、チャンネルをカメラ側のストロボと同じチャンネルに設定し、発光させたい位置に固定する**

3 **両方のストロボが充電完了していることを確認し、撮影する**

- ワイヤレスモードでは、「Shake Reduction」は自動的にオフになります。
- AF540FGZ／AF360FGZを複数台使用して、ワイヤレスモードでハイスピードシンクロ撮影を行う場合、カメラに取り付けた方のストロボをハイスピードシンクロモードに設定してください。

ワイヤレスストロボ制御について（P-TTL撮影）

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）を使用してワイヤレスで撮影するときには、ストロボが発光されるまでにストロボ間で以下のような情報伝達が行われています。

シャッターボタンを全押しする
↓

1 カメラ側のストロボが小光量のコントロール発光（カメラ側の発光モードを伝達）
2 カメラから離した方のストロボが小光量のコントロール発光（被写体の状態を確認）
3 カメラ側のストロボが小光量のコントロール発光（発光量をカメラから離した方のストロボに伝達）
※ HS ϟ（ハイスピードシンクロ）が設定されている場合は、発光時間を伝達するためにこの後カメラ側のストロボがもう一度小発光します。
4 カメラから離した方のストロボが本発光

カメラ側の外付けストロボのワイヤレスモードがMASTER、または内蔵ストロボの「17. ワイヤレス時の発光」（p.184）が「オン」の場合は、すべてのストロボが同時に本発光します。

赤目軽減機能について

内蔵ストロボ同様、外付けストロボでも赤目軽減機能が使用できます。ストロボの種類によって使用できない場合や使用条件がありますので、p.180の一覧表を参照してください。

- 外付けストロボのみを使用しているときも、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が働きます。（p.79）
- 内蔵ストロボの赤目軽減機能と外付けストロボのスレーブ機能やワイヤレス機能を組み合わせると、1度目の小発光で外付けストロボが発光してしまいます。スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。

後幕シンクロについて

内蔵ストロボと外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）を組み合わせて同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

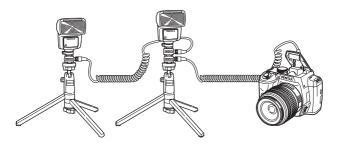
外付けストロボを延長コードで接続する

AF200FGのように、ワイヤレスモードを持たないストロボと内蔵ストロボを同時に使う場合は、図のようにカメラのホットシュー部分にホットシューアダプターFG（別売）を、外付けストロボの下にオフカメラシューアダプターF（別売）を付け、延長コードF5P（別売）で接続します。オフカメラシューアダプターFの下には三脚取り付け用のねじがありますので、三脚に固定することができます。
なお、内蔵ストロボと組み合わせて使用できるのは、P-TTLオート対応ストロボのみです。

内蔵ストロボと組み合わせて使用する場合

延長コードを使用したストロボの多灯撮影

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG）を複数台組み合わせるか、外付けストロボ複数台と内蔵ストロボを組み合わせて使用できます。AF540FGZをつなぐ場合は、ストロボ本体の延長コード接続用端子が使用できます。AF360FGZ／AF200FGをつなぐ場合は下の図のように、外付けストロボとホットシューアダプターF（別売）にオフカメラシューアダプターF（別売）を付け、もう一方の外付けストロボに付けたオフカメラシューアダプターFと、延長コードF5P（別売）で接続します。
接続方法については、外付けストロボの使用説明書も参照してください。

2台以上の外付けストロボを組み合わせて使用する場合

- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGのご使用をお勧めします。

AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGを複数台、またはAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

光量比制御シンクロ撮影

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG）を複数台組み合わせるか、外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせることで、複数のストロボの光量の違いを利用した増灯撮影（光量比制御シンクロ撮影）ができます。

- AF200FGを使用する場合は、AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせる必要があります。
- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGのご使用をお勧めします。

1 外付けストロボをカメラから離して接続する

p.187を参照してください。

2 外付けストロボのシンクロモードを光量比制御モードに設定する

3 カメラのモードダイヤルをP／Sv／Tv／Av／Mに合わせる

4 外付けストロボと内蔵ストロボの充電完了を確認し、撮影する

- 光量の比率は、外付けストロボ同士の場合、光量比制御に設定しているストロボが「2」に対して、それ以外のストロボが「1」、外付けストロボと内蔵ストロボの場合は、外付けストロボが「2」に対して内蔵ストロボが「1」になります。
- 外付けストロボを複数台、または外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

6 撮影のための設定

この章では、撮影した画像の保存形式などの設定方法を説明しています。

画像の保存形式を設定する

JPEG記録サイズを設定する

JPEG画像の記録サイズを 12M ／ 10M ／ 6M ／ 2M から選択できます。画素数が多くなるほど、画像が大きくなり容量も増えます。また、画像の容量は、設定している「JPEG画質」によっても異なります。初期設定は、12M です。

記録サイズ	画素数	用紙サイズ
12M	4288×2848	半切／A2サイズ
10M	3936×2624	4切／A3サイズ
6M	3072×2048	6切／A4サイズ
2M	1728×1152	2L／A5サイズ

上記の用紙サイズは、記録サイズごとに印刷に適したサイズのおおよその目安です。撮影した写真や印刷した写真の美しさ、鮮明さは、画質設定や露出制御などの撮影時設定、または使用するプリンターの解像度によっても異なります。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「JPEG記録サイズ」を選択し、OKボタンを押す

「JPEG記録サイズ」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で記録サイズを選択する

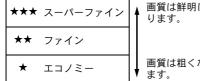
記録サイズを変更すると、その記録サイズで撮影できる枚数が画面右上に表示されます。

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メニューから設定するときは、「📷撮影1」メニュー（p.87）で設定します。

JPEG画質を設定する

JPEG画像の画質（圧縮比）を設定します。画像の容量は、設定している「JPEG記録サイズ」によっても異なります。初期設定は、★★★（スーパーファイン）です。

★★★	スーパーファイン	↑ 画質は鮮明になりますが、画像の容量が大きくなります。
★★	ファイン	
★	エコノミー	↓ 画質は粗くなりますが、画像の容量が小さくなります。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「JPEG画質」を選択し、OKボタンを押す

「JPEG画質」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でJPEG画質を選択する

画質を変更すると、その画質で撮影できる枚数が画面右上に表示されます。

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メモ　メニューから設定するときは、「撮影1」メニュー（p.87）で設定します。

記録形式を設定する

画像のファイルフォーマットを設定します。

JPEG	JPEG形式で記録します。（初期設定） 画像の記録サイズは「JPEG記録サイズ」、画質は「JPEG画質」の設定によって変わります。
RAW	RAW形式は、CMOSセンサーの出力を加工せずに記録するデータ形式です。 ホワイトバランス／カスタムイメージ／色空間の設定は画像に反映されませんが、情報として記録されます。RAW展開（p.259）やパソコンに転送し、付属ソフトウェアの「PENTAX Digital Camera Utility 4」を使用して展開処理を行う場合には、これらの設定を使ってJPEGの画像データを作成します。
RAW+	RAW形式とJPEG形式の両方で記録されます。 ⦿ボタンに「ワンタッチRAW＋」を割り当てているときは、⦿ボタンを押すと、一時的に両形式で記録することができます。（p.198）

デジタルフィルター／HDR撮影／クロスプロセスが設定されていると、記録形式はJPEGから変更できません。変更するときは、これらの機能をオフに設定してください。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「記録形式」を選択し、OKボタンを押す

「記録形式」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で記録形式を選択する

記録形式を変更すると、その記録形式で撮影できる枚数が画面右上に表示されます。

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「撮影1」メニュー（p.87）で設定します。
- 撮影モードがSCN（シーン）モードの（ステージライト）／（ナイトスナップ）／（夜景HDR）に設定されているときは、JPEG固定です。

RAWファイルの形式を設定する

RAW形式で記録する場合は、「撮影4」メニュー（p.88）の「RAWファイル形式」でPEF／DNGを選択します。

PEF	ペンタックス独自のRAWファイルフォーマット（初期設定）
DNG	Adobe Systems社が提唱する汎用の公開RAWファイルフォーマット

グリーンボタンの機能を設定する

◉ボタンに機能を割り当てて、撮影時にボタンを押すだけでその機能を利用することができます。
次の機能が割り当てられます。

グリーンボタン	調整中の値をリセットします。（初期設定）
カスタムイメージ	カスタムイメージを設定します。（p.213）
光学プレビュー	光学プレビューを表示します。（p.139）
デジタルプレビュー	デジタルプレビューを表示します。（p.140）
デジタルフィルター	デジタルフィルターを設定します。（p.155）
クロスプロセス	クロスプロセスを設定します。（p.216）
ワンタッチRAW＋	「記録形式」の設定にかかわらず、JPEG形式とRAW形式を同時に記録します。撮影ごとに解除するかどうかと、ボタンを押したときの記録形式を選択します。（p.198）

1 「◘撮影4」メニューの「グリーンボタン」を選択し、十字キー（▶）を押す

「グリーンボタン」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押す

グリーンボタン
▶◎グリーンボタン
M時の動作　P LINE
P時の電子ダイヤル　P SHIFT
MENU ⮌

3 十字キー（▲▼）で⦿ボタンを押したときに実行する機能を選択し、OKボタンを押す

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ワンタッチRAW＋を設定する

⦿ボタンの機能が「ワンタッチRAW＋」に設定されているときの機能を設定します。

1 「グリーンボタンの機能を設定する」の手順3で「ワンタッチRAW＋」を選ぶ

2 十字キー（▲▼）で「撮影毎に解除」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	1回撮影するたびに「記録形式」の設定に戻ります。（初期設定）
□	次の場合に設定が解除されます。 ・再度⦿ボタンを押す ・▶ボタン／MENUボタンのどちらかを押す ・電源レバーをOFFにする ・モードダイヤルを回す

4 十字キー（▲▼）で設定したい記録形式を選ぶ

左側が「記録形式」の設定、右側が⦿ボタンを押したときの記録形式になります。

5 十字キー（▶）を押し、⦿ボタンを押したときの記録形式を十字キー（▲▼）で選ぶ

6 OKボタンを押す

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ホワイトバランスを調整する

ホワイトバランスとは、白いものが白く写るように撮影時の光の状態に応じて画像の色合いを調整する機能です。ホワイトバランス **AWB**（オート）で撮影した色合いに納得がいかないときや、意図的に効果を出したいときなどに、ホワイトバランスを設定してください。

項目	設定	色温度 *1
AWB オート	調整をカメラにまかせます。（初期設定）	約4000～8000K
☼ 太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。	約5200K
日陰	日陰で撮影するときに設定します。青みを抑えます。	約8000K
曇天	曇りの日に撮影するときに設定します。	約6000K
蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯の種類が選択できます。 **D** 昼光色蛍光灯 **N** 昼白色蛍光灯 **W** 白色蛍光灯 **L** 電球色蛍光灯	 約6500K 約5000K 約4200K 約3000K
白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。赤みを抑えます。	約2850K
WB ストロボ	内蔵ストロボを使用して撮影するときに設定します。	約5400K
CTE *2	光源の特徴を誇張し、色味を残します。	—
マニュアル	撮影時の光の状態で白いものが白く写るように、手動でホワイトバランスを調整します。	—

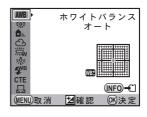
*1 色温度（K）は目安です。正確な色を示すものではありません。
*2 CTE ＝ Color Temperature Enhancement

撮影モードがピクチャーモード／SCN（シーン）モードのときとクロスプロセスが設定されているときは、**AWB**固定です。

1 モードダイヤルをP／Sv／Tv／Av／Mに合わせる

2 撮影モードで十字キー（◀）を押す

「ホワイトバランス」画面が表示されます。
電源を入れてから、直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

3 十字キー（▲▼）でホワイトバランスを選択する

ボタン・ダイヤル等の操作

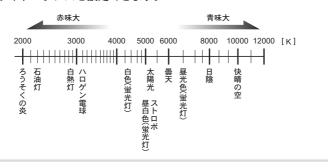
Avボタン	設定を適用した背景画像をデジタルプレビューで確認します。
INFOボタン	背景画像を保存します。「新規保存」を選択し、**OK**ボタンを押します。

4 OKボタンを押す

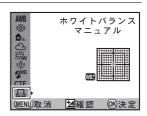
撮影できる状態になります。

ストロボを発光すると光源が変化するため、ストロボを発光したときのホワイトバランスを設定できます。「**C**カスタム2」メニュー（p.89）の「12. ストロボ発光時のWB」で、**AWB**／変更しない／ストロボから選択します。

色温度について

光の色は、温度が高くなるにつれて青味を帯びた光色に、温度が低くなるにつれて赤味を帯びた光色に変化します。このような光の色の変化を絶対温度（K：ケルビン）で表したものを「色温度」といいます。このカメラでは、様々な光の下で自然な色で撮影できるようホワイトバランスを設定できます。

マニュアルでホワイトバランスを調整する

撮影時の光源に合わせて任意の場所のホワイトバランスを測定します。マニュアルホワイトバランスを使うと、あらかじめカメラに用意されたホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いをカメラに記憶させて、撮影状況に最適なホワイトバランスで撮影できます。

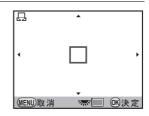
1 **p.201 の手順 3 の画面で 🖵 を選び、十字キー（▶）を押す**

2 ホワイトバランスを測定する照明の下で、ファインダーいっぱいに白い紙等を入れるか、白くしたい場所を被写体に選ぶ

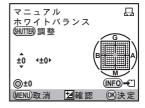
3 シャッターボタンを全押しする

シャッターがきれないときは、フォーカスモードレバーを**MF**にしてください。

測定範囲を選択する画面が表示されます。

4 電子ダイヤルで、測定範囲を画面全体／スポットから選ぶ

5 スポットを選んだ場合は、十字キー（▲▼◀▶）で測定枠を測定したい位置に移動する

6 OKボタンを押す

測定が完了すると微調整画面が表示されます。必要に応じて微調整をしてください。（p.204）

7 OKボタンを押す

「ホワイトバランス」画面に戻ります。

8 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

- ホワイトバランスを調整するためにシャッターボタンを押しても、画像は記録されません。
- 測定がうまくいかなかったときは、「正しく処理できませんでした」と表示されます。表示中にOKボタンを押すと、再測定できます。
- 極端な露出オーバーや露出アンダーの状態では、ホワイトバランス調整ができない場合があります。その場合は、適正露出に調整した上で、ホワイトバランス調整を行ってください。
- モードダイヤルが（動画）になっているときは、ホワイトバランスを測定できません。他の撮影モードで調整してから撮影してください。

ホワイトバランスを微調整する

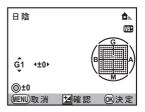
設定したホワイトバランスを細かく微調整できます。

1 p.201の手順3で、任意の設定をする

2 十字キー（▶）を押す

微調整画面が表示されます。

3 ホワイトバランスの微調整をする

G-M／B-Aの座標軸から、各7段階（225通り）の調整が可能です。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	G-M（グリーン－マゼンタ）間の色味を調整します。
十字キー（◀▶）	B-A（ブルー－アンバー）間の色味を調整します。
⦿ボタン	調整値をリセットします。（撮影4」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているときのみ有効（p.197））

4 OKボタンを押す

「ホワイトバランス」画面に戻ります。

5 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

⊡を選択しているときは、シャッターボタンを全押ししてホワイトバランスを測定することができます（動画撮影時を除く）。

色空間を設定する

使用する色空間を設定できます。

sRGB	sRGB色空間に設定します。（初期設定）
AdobeRGB	AdobeRGB色空間に設定します。

「📷 撮影4」メニュー（p.88）の「色空間」で設定します。

色空間の設定によって、ファイル名の付け方が次のように変わります。
　sRGBのとき　　　：IMGPxxxx.JPG
　AdobeRGBのとき：_IGPxxxx.JPG
「xxxx」はファイルNo.です。4桁の連番で表されます。（p.280）

色空間とは

デジタルカメラやモニター、プリンターなどの画像入出力機器は、それぞれ色を再現できる範囲が異なります。この色再現可能範囲を「色空間」といいます。
異なる色空間を持つ機器同士の色再現を合わせるために、いくつかの基準となる色空間が提案されていますが、このカメラではsRGB色空間とAdobeRGB色空間に対応しています。
sRGB色空間はパソコンを中心とした機器で広く使われています。
AdobeRGB色空間はsRGB色空間よりも広い色再現範囲を持っており、主に商業印刷などの業務用途で使われています。
なお、AdobeRGB色空間で作られた画像をsRGB対応の機器でそのまま出力すると、sRGB色空間で作られた画像を出力したときに比べて色が薄く見えます。

画像を補正して撮影する

カメラやレンズの特性を自動的に補正して撮影することができます。

明るさを補正する

明るさを補正し、白とび・黒つぶれを防ぎます。

ハイライト補正

ダイナミックレンジを拡大し、表現できる階調の幅を広げて白とびを防ぎます。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「ハイライト補正」を選択し、OKボタンを押す

「ハイライト補正」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオフ／オンを切り替える

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- ハイライト補正をオンに設定すると、最低感度はISO 400になります。「**C** カスタム1」メニュー（p.89）の「3. 拡張感度」を「オン」に設定した場合は、最低感度はISO 200になります。
- 撮影モードが SCN（シーン）モードの（ステージライト）／（ナイトスナップ）に設定されているときは、ハイライト補正はオン固定になります。

シャドー補正

ダイナミックレンジを拡大し、表現できる階調の幅を広げて黒つぶれを防ぎます。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「シャドー補正」を選択し、OKボタンを押す

「シャドー補正」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオフ／弱／中／強を選択する

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

ハイライト補正／シャドー補正をメニューから設定するときは、「撮影3」メニュー（p.88）の「D-Range設定」で設定します。

HDR撮影

ハイダイナミックレンジ撮影を行います。自動的に標準／-3EVアンダー／+3EVオーバーの画像を撮影して合成します。

注意
- 以下のときは、HDR撮影は選択できません。
  - 記録形式がRAW／RAW+に設定されているとき（JPEG固定）
  - シャッター速度が**Bulb**に設定されているとき
- HDR撮影を設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影／露出ブラケット／インターバル撮影／多重露出
  - ストロボモードの⑤（発光禁止）以外
  - デジタルフィルター／クロスプロセスとの併用（後から設定した機能が有効）
- HDR撮影では画像を合成するため、保存に時間がかかります。

1 ステータススクリーンで**INFO**ボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「HDR撮影」を選択し、**OK**ボタンを押す

「HDR撮影」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオフ／オート／標準／誇張1／誇張2／誇張3を選択する

4 **OK**ボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- HDR撮影の画像保存中に**MENU**ボタンを押すと、合成処理を中止し、標準画像が保存されます。
- 撮影モードが**SCN**（シーン）モードの（夜景HDR）に設定されているときは「オート」、「自動位置調整」は☑（オン）固定になります。
- メニューから設定するときは、「撮影2」メニュー（p.87）の「HDR撮影」で設定します。
  その場合は、「自動位置調整」が設定できます。

□	手ぶれ補正をしません。Shake Reductionの設定は変更できません。（初期設定）
☑	Shake Reductionの設定に従って、手ぶれ補正をオン／オフにします。

- 「Shake Reduction」と「自動位置調整」が両方ともオンの場合、次の点に注意してください。
  - 3コマの撮影中に構図がずれないように、しっかりと構えて撮影してください。コマ間の構図のずれが大きいと、自動位置調整ができない場合があります。
  - 手ぶれや被写体ぶれの影響を受けやすいため、シャッタースピードを速めに、ISO感度を高めに設定してください。
  - ISO感度がAUTOに設定されている場合、通常より感度が上がりやすくなります。
  - 焦点距離が100mmを超えるレンズでは、自動位置調整ができない場合があります。
  - 被写体全体が格子模様や単調な面の場合は、自動位置調整ができない場合があります。

レンズ特性を補正する

レンズの特性によって生じる歪曲収差と倍率色収差を軽減します。

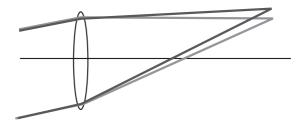
● **歪曲収差（ディストーション）**

画像の両端が縮まり、中央部分が膨らんだように写ったり（樽型歪曲）、逆に中央部分が縮まったように写る（糸巻型歪曲）現象をいいます。歪曲収差はズームレンズや小口径のレンズに発生しやすい現象で、壁や水平線が曲がったように写ります。

糸巻型歪曲

樽型歪曲

● **倍率色収差**

画像を写す際に色（光の波長）によって画像の倍率が異なり、画像がずれてしまう現象をいいます。焦点距離が短くなると、色収差が起こりやすくなります。

- DA・DA L・D FAレンズと一部のFAレンズを使用したときのみ、補正できます。（p.312）対応レンズ以外を装着している場合は、ディストーション補正／倍率色収差補正は選択できません。
- DA 10-17mm FISH-EYE を使用時は、ディストーション補正は無効となります。
- 接写リングやリアコンバーターなどレンズとカメラの間に装着するアクセサリーを使用すると、レンズ補正機能は無効になります。
- レンズ補正機能をオンにすると、連続撮影の撮影速度が遅くなる場合があります。
- 撮影条件等により、レンズ補正の効果がほとんど感じられない場合があります。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）でディストーション補正／倍率色収差補正を選択し、OKボタンを押す

「ディストーション補正」／「倍率色収差補正」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオフ／オンを切り替える

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- 対応レンズを装着し、記録形式がRAW／RAW+の場合は、RAWファイルのパラメーターとして補正情報が記録され、RAW展開時にオン／オフが選択できます。（p.262）
- ディストーション補正／倍率色収差補正をメニューで設定するときは、「📷 撮影3」メニュー（p.88）の「レンズ補正」で設定します。

画像の仕上がりイメージを設定する

カスタムイメージを設定する

撮影モードが**P**（プログラム）／**Sv**（感度優先）／**Tv**（シャッター優先）／**Av**（絞り優先）／**M**（マニュアル）に設定されているときに、画像の仕上がりイメージ（画像仕上）を設定して撮影することができます。「画像仕上」は、鮮やか（初期設定）／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／ほのか／銀残し／リバーサルフィルム／モノトーンの9種類から選択し、それぞれ以下のパラメーターが調整できます。

パラメーター	設定	設定値
彩度	色の鮮やかさを設定します。 •「リバーサルフィルム」「モノトーン」不可	–4～+4
色相	色合いを設定します。 •「銀残し」「リバーサルフィルム」「モノトーン」不可	–4～+4
キー	画像の明るさを調整します。 •「リバーサルフィルム」不可	–4～+4
コントラスト	画像の明暗差を設定します。 •「リバーサルフィルム」不可	–4～+4
シャープネス	画像の輪郭の強調度合いを設定します。輪郭の線をさらに細かく描写できるファインシャープネスに変更することもできます。（撮影モードの🎥（動画）では無効）	–4～+4
フィルター効果	モノクロ用の色フィルターを使用したような擬似的な効果が得られます。フィルターの色を設定します。 •「モノトーン」のみ	なし／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／赤外調
調色	「銀残し」の場合は、各色調を設定します。 「モノトーン」の場合は、冷黒調（－方向）から温黒調（＋方向）の度合いを設定します。 •「銀残し」「モノトーン」のみ	銀残し：オフ／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／パープル／ブルー／シアン モノトーン：–4～+4

クロスプロセスが設定されているときは、画像仕上は「鮮やか」固定となり、パラメーターは変更できません。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「カスタムイメージ」を選択し、OKボタンを押す

カスタムイメージを設定する画面が表示されます。

電源を入れてから、直前に撮影した画像がある場合は、背景に表示されます。

3 十字キー（◀▶）で画像仕上を選択する

4 十字キー（▲▼）で変更したいパラメーターを選択する

5 十字キー（◀▶）で設定を変更する

設定に応じて背景画像も変化します。

彩度／色相は、レーダーチャートで視覚的に確認できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	シャープネスをファインシャープネスに切り替えます。ファインシャープネスにすると、輪郭線などがより繊細に表現できます。
⦿ボタン	設定値をリセットします。（「撮影4」メニューの「グリーンボタン」を「グリーンボタン」に設定しているときのみ有効（p.197））
Av ボタン	設定を適用した背景画像をデジタルプレビューで確認します。
INFO ボタン	背景画像を保存します。「新規保存」を選択し、**OK** ボタンを押します。（ライブビュー中は使用できません。）

OK ボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メニューから設定するときは、「撮影1」メニュー（p.87）で設定します。

クロスプロセス処理を設定する

「クロスプロセス」とは、フィルム現像の際に正しい現像処理を行わずに、色合いやコントラストを故意に変化させる現像方法をいいます。このカメラではカメラ内で処理を行うデジタル・クロスプロセスができます。

- 以下のときは、クロスプロセスは選択できません。
  - 撮影モードがSCN（シーン）モードの（夜景HDR）に設定されているとき
  - 記録形式がRAW／RAW+に設定されているとき（JPEG固定）
- クロスプロセスを設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 多重露出
  - HDR撮影との併用（後から設定した機能が有効）
  - ホワイトバランス／カスタムイメージの設定変更

メモ　動画にクロスプロセスを設定するときは、モードダイヤルを（動画）に合わせた状態で設定します。

1 ステータススクリーンでINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。
撮影モードが（動画）のときは、「撮影3」メニューの「動画」で設定します。（p.165）

2 十字キー（▲▼◀▶）で「クロスプロセス」を選択し、OKボタンを押す

「クロスプロセス」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）でオフ／プリセット1～3／シャッフル／お気に入り1～3を選択する

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メニューから設定するときは、「📷撮影2」メニュー（p.87）で設定します。

撮影済画像のクロスプロセス設定を登録する

クロスプロセス処理は、撮影するたびに処理結果が異なります。気に入ったクロスプロセス画像が撮影できたときは、その設定を登録しておくことができます。静止画・動画合わせて3つまで登録できます。

動画のクロスプロセス設定を登録するときは、モードダイヤルを🎥（動画）に合わせた状態で「📷撮影3」メニューの「動画」から設定します。

1 「📷撮影2」メニューの「クロスプロセス」を選択し、十字キー（▶）を押す

「クロスプロセス」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「設定登録」を選択し、十字キー（▶）を押す

最新の画像から順にクロスプロセス画像を検索します（検索中は砂時計のアイコンが表示されます）。クロスプロセス画像が見つかると、登録の画面が表示されます。

クロスプロセス画像がない場合は、「クロスプロセス撮影画像がありません」と表示されます。

3 電子ダイヤルでクロスプロセス画像を選択する

4 十字キー（▲▼）でお気に入り1～3を選択し、OKボタンを押す

指定した画像の設定がお気に入り1～3に登録されます。

5 登録を終了する場合は、MENUボタンを2回押す

7 いろいろな再生

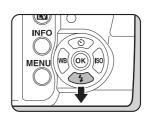
再生モードでの様々な再生方法をご紹介します。

再生関連機能の操作

再生に関する機能は、再生モードパレット／「▶再生」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」(p.37)を参照してください。

再生モードパレットの設定項目

再生モードで十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットが表示されます。
動画再生の停止中も、再生モードパレットを表示することができます。

項目	機能	参照
画像回転 *1	画像を回転します。	p.235
デジタルフィルター *1	画像の色調を変えたり、ソフトやスリムに加工します。明るさの調整もできます。	p.253
リサイズ *1 *2	画像の記録サイズと画質を変更し、新規保存します。	p.250
トリミング *1	画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。	p.251
プロテクト	画像を誤って消去しないように保護します。	p.240

項目	機能	参照
スライドショウ	画像を連続して再生します。	p.233
インデックス	複数の画像を1枚に貼り付けて、新たな画像を作成します。	p.229
RAW展開 *1	RAW画像をJPEGに変換します。	p.259
動画編集 *3	動画の分割や抽出を行います。	p.171
DPOF *1 *2	プリント予約をします。	p.285
画像比較 *1	画像を2枚並べて表示します。	p.228
赤外線通信	赤外線通信で画像の送受信を行います。	p.244
フォトチャレンジャー	K-r 同士で画像を使って対戦ゲームをします。	p.246

*1 動画を表示しているときは実行できません。
*2 RAW画像を表示しているときは実行できません。
*3 動画を表示しているときのみ実行できます。

再生メニューの設定項目

「▶再生」メニューでは、以下の設定を行います。
再生モードで **MENU** ボタンを押すと、「▶再生1」メニューが表示されます。

メニュー	項目	機能	参照
▶1	スライドショウ	画像を連続して再生します。スライドショウの表示の設定を行います。	p.232
	クイック拡大	拡大表示するときの最初の拡大率を設定します。	p.222
	白とび黒つぶれ警告	再生時に白とび黒つぶれ警告を表示するかどうかを設定します。	
	画像の自動回転	縦位置で撮影した画像を再生時に回転して表示するかどうかを設定します。	
	赤外線通信	赤外線通信の設定と送受信を行います。	p.244
	全画像消去	保存されているすべての画像を消去します。	p.239

再生時の表示方法を設定する

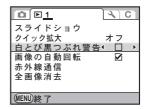
再生モードで拡大表示するときの最初の拡大率と、白とび黒つぶれ警告の表示、縦位置画像の自動回転について設定します。

1 「▶ 再生 1」メニューの「クイック拡大」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で倍率を選択してOKボタンを押す

オフ（初期設定）／×2／×4／×8／×16から選択します。

▶1
スライドショウ
クイック拡大　オフ
白とび黒つぶれ警告　X2
画像の自動回転　X4
赤外線通信　X8
全画像消去　X16
MENU 取消　OK 決定

3 十字キー（▲▼）で「白とび黒つぶれ警告」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

4 十字キー（▲▼）で「画像の自動回転」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	「C カスタム3」メニュー（p.90）の「18. 回転情報の記録」が「オン」の設定で撮影した場合、回転表示情報に従って再生時に回転して表示されます。（初期設定）
□	再生時に回転して表示されません。

5 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

画像を拡大表示する

再生した画像を約16倍まで拡大して表示できます。

1 再生モードで十字キー（◀▶）を押し、画像を選ぶ

2 電子ダイヤルを右（🔍）に回す

1クリック回すごとに画面が拡大（1.2～16倍）されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動します。
電子ダイヤル右（🔍）	画像表示を拡大します。（最大16倍まで）
電子ダイヤル左（▦）	画像表示を縮小します。（最小1.2倍*まで）
OKボタン	1倍表示に戻ります。
INFOボタン	情報表示あり／なしを切り替えます。

* 1クリック目の倍率（拡大倍率の最小値）は、初期設定では1.2倍です。「▶再生1」メニューの「クイック拡大」で変更できます。（p.222）

- クイックビュー（p.71）／デジタルプレビュー（p.140）／ライブビュー（p.163）中も、同じ操作で画像を拡大表示できます。
- 縦画像は、最初の全体表示が横画像に比べて0.675倍なので、拡大1クリック目は等倍で表示されます。

複数の画像を表示する

マルチ画面表示をする

撮影した画像を、画像モニターに複数枚（4／9／16／36／81画像）ずつ表示します。初期設定は9画像表示です。

1 再生モードで電子ダイヤルを左（▦）に回す

マルチ画面表示になります。
画像が小さなコマで一度に9画像ずつ表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動します。
INFOボタン	「マルチ画面設定」画面が表示され、十字キー（◀▶）で分割数が選択できます。 （RAW画像の一括展開（p.260）時は、分割数の選択はできません。）
⚡UP/🗑ボタン	画像を選択してまとめて消去します。（p.236）

2 OKボタンを押す

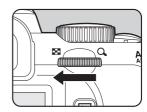
選択した画像が全画面表示されます。

81分割表示の場合は、サムネイル上に🎥や?などのアイコンは表示されません。

フォルダーごとに表示する

画像が保存されているフォルダーごとに表示します。

1 マルチ画面表示で電子ダイヤルをさらに左（⊞）に回す

フォルダー表示になります。

2 表示したいフォルダーを選ぶ

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動します。
ϟUP/🗑ボタン	選択したフォルダーごと画像を消去します。（p.238）

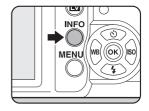
3 OKボタンを押す

選択したフォルダー内の画像がマルチ画面表示されます。

撮影日ごとに表示する（カレンダー表示）

撮影した日付ごとに画像を表示します。

1 マルチ画面表示で INFO ボタンを押す

「マルチ画面設定」画面が表示されます。

2 もう一度INFOボタンを押す

カレンダー表示になります。
画像が保存されている撮影日だけが表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	撮影日を選択します。
十字キー（◀▶）	選択した撮影日の画像を選択します。
電子ダイヤル右（Q）	選択中の画像を全画像表示します。左（▦）に回すとカレンダー表示に戻ります。
INFOボタン	マルチ画面表示に戻ります。
ϟUP/🗑ボタン	選択した画像を消去します。

3 OKボタンを押す

選択した画像が全画面表示されます。

画像を比較する

2枚の画像を並べて表示します。

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で□🔍（画像比較）を選び、OKボタンを押す

直前に再生した画像が左右に並んで表示されます。

3 画像を選択し、左右の画像を比較する

ボタン・ダイヤル等の操作

OK ボタン	押すごとに画像の選択枠が右→両方→左に変わります。
十字キー（▲▼◀▶）	拡大表示位置を移動します。画像の選択枠が両方のときは、2枚同時に操作できます。
⦿ボタン	拡大表示位置を中央に戻します。
電子ダイヤル	画像の選択枠が左／右の場合に、前後の画像を表示します。選択枠が両方のときは、2枚の画像を同じ倍率で拡大／縮小します。
INFO ボタン	情報表示あり／なしを切り替えます。
⚡UP/🗑ボタン	画像の選択枠が左／右の場合に、選択している画像を消去します。

4 MENUボタンを押す

通常の再生モードに戻ります。

複数画像を貼り付ける（インデックス）

複数の画像を1画面に貼り付けてインデックスプリントのように表示します。表示された画像は、新規保存することができます。貼り付ける画像を選択したり、ランダムに貼り付けることもできます。

1　再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で（インデックス）を選び、OKボタンを押す

「インデックス」画面が表示されます。

3　十字キー（▶）を押す

4　十字キー（▲▼）で配置の種類を選択し、OKボタンを押す

（サムネイル）／（スクエア）／（ランダム1）／（ランダム2）／（ランダム3）／（バブル）が選択できます。

はファイルNo.の小さい順、それ以外はランダムに画像が配置されます。

5　十字キー（▲▼）で「枚数」を選び、十字キー（▶）を押す

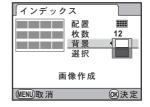
6　十字キー（▲▼）で貼り付ける枚数を選択し、OKボタンを押す

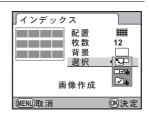
12／24／36枚から選択します。

保存されている画像の数が選択した枚数より少ない場合、「配置」がのときは空欄、それ以外のときは画像が重複して表示されます。

7　十字キー（▲▼）で「背景」を選び、十字キー（▶）を押す

8 十字キー（▲▼）で背景色を選択し、OKボタンを押す

白または黒を選択します。

9 十字キー（▲▼）で「選択」を選び、十字キー（▶）を押す

10 十字キー（▲▼）で画像の選択方法を選択し、OKボタンを押す

	全画像	保存されているすべての画像から自動的に選択します。
	手動	貼り付ける画像を1つずつ選択します。続けて「画像選択」を選び、貼り付ける画像を指定します。
	フォルダー	指定したフォルダーから自動的に選択します。続けて「フォルダー選択」を選び、フォルダーを指定します。

11 十字キー（▲▼）で「画像作成」を選び、OKボタンを押す

インデックス画像が作成され、確認の画面が表示されます。

12 十字キー（▲▼）で保存／再シャッフルを選び、OKボタンを押す

保存	インデックス画像を6M・★★★のファイルとして保存します。
再シャッフル	貼り付ける画像を選び直して、新たなインデックス画像を表示します。「配置」で「サムネイル」を選択した場合は、表示されません。

保存が完了すると再生モードに戻り、インデックス画像が再生されます。

インデックスの画像作成は、処理に時間がかかることがあります。

連続して再生する

SDメモリーカードに保存された全画像を、スライドショウで連続して再生します。

スライドショウの表示方法を設定する

スライドショウでの画像の表示のしかたを設定します。

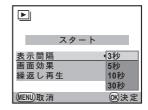
1 **「▶再生1」メニューの「スライドショウ」を選び、十字キー（▶）を押す**

スライドショウの設定画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で設定する項目を選ぶ**

次の項目が設定できます。

項目	内容	設定値
表示間隔	画像を切り替える間隔を選択します。	3（初期設定）／5／10／30秒
画面効果	画面を切り替えるときの効果を設定します。	オフ（初期設定）／フェード／ワイプ／ストライプ
繰返し再生	最後の画像を再生したあとに、また最初から再生を繰り返すかどうか設定します。	□（初期設定）／☑

3 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で設定を選択してOKボタンを押す**

スライドショウを開始する

1 **p.232の手順2の画面で「スタート」を選び、OKボタンを押すまたは再生モードパレットで（スライドショウ）を選択し、OKボタンを押す**

スタート画面が表示され、スライドショウが始まります。

ボタン・ダイヤル等の操作

OKボタン	一時停止します。もう一度押すと再開します。
十字キー（◀）	前の画像を表示します。
十字キー（▶）	次の画像を表示します。
十字キー（▼）	停止します。

2 スライドショウを終了する

スライドショウの実行／一時停止中に、次のいずれかの操作をすると終了します。

- 十字キー（▼）を押す *1
- ▶ボタンを押す *1
- **MENU**ボタンを押す *1
- シャッターボタンを半押し、または全押しする *2
- モードダイヤルを回す *2
- **AF**/**AE-L** ボタンを押す *2

*1 スライドショウ終了後、通常の再生モードになります。
*2 スライドショウ終了後、撮影モードになります。

動画は1コマ目の画像だけが表示され、表示間隔の設定時間が過ぎると次の画像が再生されます。スライドショウ中に動画を再生するときは、1コマ目が表示されているときに**OK** ボタンを押します。動画の再生が終わると、スライドショウの続きに戻ります。

画像を回転する

表示されている画像を左回りに90°ずつ回転し、再保存ができます。再保存した画像には回転表示情報が付加され、再生時に縦に表示されます。

- 「**C**カスタム3」メニュー（p.90）の「18. 回転情報の記録」が「オフ」の状態で撮影すると、画像に回転情報が付加されません。
- 「▶ 再生1」メニューの「画像の自動回転」（p.222）が☑（オン）になっていると、回転情報が付加された画像は再生時に回転して表示されます。

注意

次のときは、回転情報を変更できません。
- プロテクトされた画像
- 回転情報が付加されていない画像
- 「▶ 再生1」メニューの「画像の自動回転」（p.222）が□（オフ）になっているとき

1 再生モードで回転したい画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で ◇（画像回転）を選び、OK ボタンを押す

選択した画像を90°ずつ回転させた画像が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で回転方向を選択し、OK ボタンを押す

画像の回転表示情報が保存されます。

複数画像を消去する

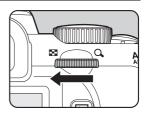
選択して消去する

マルチ画面表示で複数の画像を選択し、一括して削除します。

消去した画像は復元できません。

- プロテクトされている画像は消去できません。
- 一度に選択できるのは、100枚までです。

1 **再生モードで電子ダイヤルを左（⊞）に回す**

マルチ画面表示になります。

2 **⚡UP/🗑ボタンを押す**

削除画像を選択する画面になります。
マルチ画面設定（p.224）が81分割になっているときは、一時的に36分割になります。

3 削除する画像を選択する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動します。
OK ボタン	☑ を付け、画像を選択します。もう一度押すと□に戻ります。プロテクトされた画像（O⊸）は選択できません。
電子ダイヤル	選択枠が表示された画像を全画面表示します。全画面表示された状態で十字キー（◀▶）押すと、前後の画像が表示されます。

4 ϟUP/🗑 ボタンを押す

消去の確認画面が表示されます。

5 十字キー（▲）を押し、「選択消去」を選ぶ

6 OK ボタンを押す

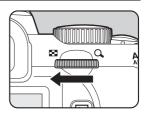
選択した画像が消去されます。

フォルダーを消去する

選択しているフォルダーごと画像を削除します。

1 再生モードで電子ダイヤルを左（⊞）に2クリック回す

フォルダー表示になります。

2 十字キー（▲▼◀▶）で消去するフォルダーを選択し、⚡UP/🗑ボタンを押す

フォルダー消去の確認画面が表示されます。

3 十字キー（▲）を押し、「消去」を選ぶ

4 OKボタンを押す

フォルダーとフォルダー内の画像が消去されます。

プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK**ボタンを押します。

「すべて消去」を選ぶと、プロテクトされていた画像も消去されます。

まとめて消去する

保存されているすべての画像を消去します。

消去した画像は復元できません。

1 **「▶再生1」メニューの「全画像消去」を選び、十字キー（▶）を押す**

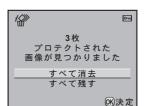
全画像消去の確認画面が表示されます。

2 **十字キー（▲）を押し、「全画像消去」を選ぶ**

3 **OKボタンを押す**

全画像が消去されます。

プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK**ボタンを押します。

「すべて消去」を選ぶと、プロテクトされていた画像も消去されます。

消去できないようにする（プロテクト）

画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

注意 プロテクトされた画像も、SDメモリーカードをフォーマットすると消去されます。

1画像ずつ設定する

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でО┳（プロテクト）を選び、OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「1画像」を選び、OKボタンを押す

4 十字キー（◀▶）でプロテクトする画像を選択する

5 十字キー（▲）を押し、「プロテクト」を選ぶ

プロテクトを解除する場合は「解除」を選びます。

6 OKボタンを押す

画像がプロテクトされ、画面右上にが表示されます。
他の画像をプロテクトする場合は、手順4～6を繰り返します。

7 MENUボタンを押す

再生モードに戻ります。

全画像を設定する

1 p.240の手順3で「全画像」を選び、OKボタンを押す

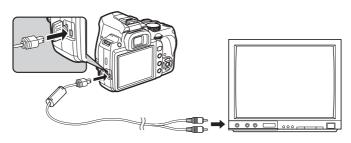
2 十字キー（▲）で「プロテクト」を選び、OKボタンを押す

SDメモリーカード内のすべての画像がプロテクトされます。
「解除」を選択すると、全画像のプロテクトが解除されます。

AV機器と接続する

ビデオ端子を備えたテレビなどと接続し、画像を再生することができます。別売のAVケーブルI-AVC7を使用します。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 カメラの端子カバーを開き、AVケーブルの矢印をカメラの▲印の方向に向け、PC/AV端子に接続する

3 AVケーブルのもう一方の端子を、AV機器の映像入力端子に接続する

4 AV機器とカメラの電源を入れる

カメラがビデオモードで起動し、AV機器にカメラの情報が表示されます。

メモ

- 長時間使用するときは、ACアダプターキットK-AC109J（別売）のご使用をお勧めします。（p.50）
- 複数の映像入力端子があるAV機器で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続する映像入力端子を選択してください。
- AV機器に接続している間は、カメラで音量調節はできません。AV機器側で音量を調節してください。

ビデオ出力方式を選択する

初期設定（p.60）で現在地を設定すると、その地域に合ったビデオ出力方式が設定されます。国や地域によっては、初期設定のビデオ出力方式では、うまく映らない場合があります。その場合は、出力方式を切り替えてください。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「ビデオ出力」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）でNTSC／PALを選択し、OKボタンを押す

3 MENUボタンを押す

ビデオ出力方式が設定されます。

メモ　ビデオ出力方式は地域によって異なります。「ワールドタイム」（p.270）を✈（目的地）に切り替えると、その都市の出力方式に切り替わります。日本国内では、NTSC方式です。

他の機器と画像をやりとりする

このカメラは赤外線通信（IrSimple／IrSS）機能を搭載しているので、携帯電話やプリンターに画像を送信したり、K-r 同士で画像を使ってゲームができます。

赤外線通信で画像を送受信する

他の K-r や赤外線通信機能を搭載した携帯電話等と画像を送受信します。

- 赤外線通信中は、赤外線ポートを指などでふさがないようにしてください。
- 赤外線ポートが汚れていると、通信できない場合があります。柔らかい布などで拭いてから操作してください。
- 直射日光が当たる場所や蛍光灯の真下、赤外線装置の近くでは、正常に通信できない場合があります。

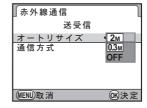
送受信ができるのは、JPEGファイルのみです。

1 画像を送信する場合は、再生モードで送信する画像を選択する

2 「▶ 再生1」メニューの「赤外線通信」を選び、十字キー（▶）を押す

「赤外線通信」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「オートリサイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▲▼）で自動でリサイズする記録サイズを選択し、OKボタンを押す

2M	画像の記録サイズが2Mより大きい場合に2M以下にリサイズします。（初期設定）
0.3M	画像の記録サイズが0.3Mより大きい場合に0.3M以下にリサイズします。
OFF	リサイズしません。

5 必要に応じて「通信方式」を変更する

標準（IrSimple）	相手側の機器と双方向に通信を行います。（初期設定）
IrSS	相手側からの応答や再送信要求などを受け付けない片方向通信です。相手側の機器に指定されている場合は、こちらを選択します。

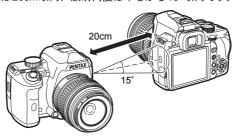
6 十字キー（▲▼）で「送受信」を選び、OKボタンを押す

送受信を選択する画面が表示されます。

7 カメラと相手側機器の赤外線ポートを近づける

相手側機器も送受信の操作をしてください。

通信距離は20cm以内、放射角度は中心から15°以内です。

8 十字キー（▲▼）で送信／受信を選び、OKボタンを押す

「送信中」または「受信中」と表示され、データの送受信が行われます。

送受信が完了するまで、カメラを動かさないでください。

送受信が成功すると、「送信完了」または「受信完了」と表示されます。

「オートリサイズ」「通信方式」の設定を変更しない場合は、再生モードパレットの（赤外線通信）で送受信ができます。

画像で対戦ゲームをする（フォトチャレンジャー）

K-r同士で赤外線通信を利用してゲームができます。

- フォトチャレンジャーが利用できるのは、このカメラで撮影したJPEG／RAWファイルのみです。
- フォトチャレンジャーは「▶ 再生1」メニューの「赤外線通信」の設定に関わらず、IrDA方式で赤外線通信を行います。

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（フォトチャレンジャー）を選び、OKボタンを押す

画像を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で使用する画像を選択する

4 十字キー（▲▼）で挑戦者受付／他者に挑戦を選択し、OKボタンを押す

相手側が「挑戦者受付」のときは、「他者に挑戦」を選びます。
「通信中」と表示され、画像の送受信が行われます。
正常に通信が行われると、「対戦準備」画面の右側に相手の画像が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で使用するパラメータの順番を指定する

撮影条件をもとに戦闘力が算出されます。

6 十字キー（▲▼）で「準備完了」を選択し、OKボタンを押す

「通信中」と表示された後、対戦が開始されます。
対戦が終了すると、対戦結果が表示されます。

7 OKボタンを押す

1画像表示に戻ります。

- 対戦者から送信された画像は保存されません。
- 手順3の画面で「対戦成績」を選択すると、勝ち・負け・引き分けの数が確認できます。この画面で⦿ボタンを押すと、対戦成績はリセットされます。
- 赤外線通信が正しく行われなかったり、途中で切断された場合は「通信できませんでした」と表示されます。

対戦成績	
勝ち	10
負け	200
引き分け	1
◎リセット	OK了解

8 画像を加工する

撮影した画像の加工方法とRAW展開をご紹介します。

画像のサイズを変更する

画像の記録サイズなどを変更して新規保存します。

記録サイズと画質を変更する（リサイズ）

画像の記録サイズと画質を変更して新規保存します。記録サイズを小さくして、画質をきれいにすることもできます。

注意
- リサイズできるのは、このカメラで撮影したJPEGファイルのみです。
- 元の画像よりも大きいサイズは選択できません。
- このカメラでリサイズされた0.3Mの画像はリサイズできません。

1 再生モードでリサイズする画像を選択する

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で（リサイズ）を選び、OK ボタンを押す

記録サイズと画質を選択する画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）でサイズを選択する

元の画像より1つ小さいサイズから選択できます。選択できるサイズは、元の画像のサイズ・アスペクト比によって異なります。

5 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で画質を選択する

★★★／★★／★から選択します。

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

リサイズされた画像が新規保存されます。

画像の一部を切り取る（トリミング）

画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。アスペクト比を変更することもできます。

- トリミングできるのは、このカメラで撮影したJPEG／RAWファイルのみです。
- このカメラでリサイズされた 0.2M ／ 0.3M の画像はトリミングできません。

1 再生モードでトリミングする画像を選択する

2 十字キー（▼）を押す

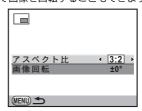
再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で（トリミング）を選び、OKボタンを押す

トリミング範囲を指定する画面が表示されます。

4 トリミングする大きさと範囲を決める

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	トリミングする大きさを指定します。
十字キー（▲▼◀▶）	トリミングする範囲を指定します。
INFOボタン	アスペクト比を変更します。3：2／4：3／16：9／1：1が選択できます。また1°単位（±45°まで）で画像を回転することもできます。
⦿ボタン	トリミング範囲を90°ずつ回転します。回転できるサイズのときのみ表示されます。

5 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

トリミングされた画像が新規保存されます。

デジタルフィルターで加工する

撮影した画像を、デジタルフィルターを使って加工できます。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像に加工します。	シェーディング強度：+1～+3
		ぼかし：+1～+3
		トーンブレイク：赤／緑／青／黄
レトロ	古い写真のような画像に加工します。	調色（B-A）：7段階
		縁取り：なし／細／中／太
ハイコントラスト	コントラストを強くします。	+1～+5
デッサン	鉛筆で下書きしたような画像に加工します。	コントラスト：低／中／高
		スクラッチ：OFF／ON
水彩画	絵の具で描いたような画像に加工します。	強度：+1～+3
		彩度：OFF／低／中／高
パステル	クレヨンで描いたような画像に加工します。	弱／標準／強
ポスタリゼーション	画像の階調を落として手描きのような雰囲気を表現します。	＋1～＋5
ミニチュア	画像のボケ具合を操作してミニチュア風の写真に加工します。	芯の位置：－3～＋3
		幅：狭／中／広
		角度：横／縦／右上がり／右下がり
		ぼかし：+1～+3
ベースメイク	各パラメーターを調整し、好みの画像に加工します。	明るさ：－8～＋8
		彩度：－3～＋3
		色相：－3～＋3
		コントラスト：－3～＋3
		シャープネス：－3～＋3
モノトーン	白黒写真のような単色の画像に加工します。	フィルター効果：OFF／赤／緑／青／赤外調
		調色（B-A）：7段階

フィルター名	効果	パラメーター
カラー	選択したカラーフィルターをかけた画像に加工します。18種類（6色×3段階）の調整ができます。	カラー：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：淡／中／濃
色抽出	特定の2色だけを抽出し、他の部分を白黒に加工します。	抽出色 1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：-2～+2
		抽出色 2：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー／OFF
		抽出色2の感度：-2～+2
ソフト	全体をぼかしたようなやわらかい画像に加工します。	ソフトフォーカス：+1～+3
		シャドーぼかし：OFF／ON
トゥインクル	夜景や水面の光の輝きなど、ハイライト部に光条を表現し、キラキラした雰囲気を強調します。	形状：クロス／星／雪の結晶／ハート／音符
		個数：少／中／多
		大きさ：小／中／大
		角度：0／30／45／60°
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような画像に加工します。	弱／中／強
スリム	画像の縦横比を変更します。	－8～＋8
HDR	擬似的にハイダイナミックレンジ画像にします。	弱／中／強
カスタム	好みのフィルターを作成して保存することができます。	ハイコントラスト：OFF／+1～+5
		ソフトフォーカス：OFF／+1～+3
		トーンブレイク：OFF／赤／緑／青／黄
		シェーディングタイプ：6種類
		シェーディング強度：-3～+3
		ディストーションタイプ：3種類
		ディストーション強度：OFF／弱／中／強
		ネガポジ反転：OFF／ON

デジタルフィルターで加工できるのは、このカメラで撮影したJPEG／RAWファイルのみです。

フィルターをかける

1 再生モードでフィルターをかける画像を選択する

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で（デジタルフィルター）を選び、OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）でフィルターを選択し、OKボタンを押す

フィルターを選択すると、効果が画面で確認できます。

電子ダイヤルを回して画像を切り替えることもできます。

5 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）で値を調整する

カラーフィルター

スリムフィルター

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）でフィルターを重ねる／新規保存を選ぶ

続けて他のフィルターを重ねて指定する場合は「フィルターを重ねる」を選択します。

8 OKボタンを押す

「フィルターを重ねる」を選んだ場合は、手順4に戻ります。

「新規保存」を選んだ場合は、フィルター処理された画像が新規保存されます。

フィルターは撮影時デジタルフィルター（p.155）も含めて、通算20回まで重ねることができます。

フィルターを再現する

フィルターをかけた画像の設定を呼び出し、他の画像に同じフィルターを適用します。

1 再生モードでフィルターをかけた画像を選択する

2 再生モードパレットで◐（デジタルフィルター）を選ぶ

3 十字キー（▲▼）で「フィルターを再現する」を選び、OKボタンを押す

選択した画像に設定されたフィルターの履歴が表示されます。

4 詳細を確認する場合は INFO ボタンを押す

フィルターのパラメーターが確認できます。

5 OKボタンを押す

画像を選択する画面が表示されます。

6 十字キー（◀▶）でフィルターをかける画像を選択し、OKボタンを押す

フィルター処理されていない画像のみ選択できます。
保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

フィルターが適用された画像が保存されます。

元画像を探す

フィルターをかける前の元の画像を探して表示します。

1 p.257 の手順 3 の画面で「元画像を探す」を選び、OK ボタンを押す

フィルターをかける前のオリジナル画像が呼び出されます。

オリジナル画像がSDメモリーカード内に残っていない場合は、「フィルター処理前の画像が見つかりません」と表示されます。

RAW展開する

撮影したRAWファイルをJPEGに変換します。

RAW展開できるのは、このカメラで撮影したRAWファイルのみです。他のカメラで撮影したRAWファイルやJPEGファイルはRAW展開できません。

1画像ずつRAW展開する

1　再生モードでRAW画像を選ぶ

2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で RAW（RAW展開）を選び、OKボタンを押す

展開方法を選択する画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「1 画像展開」を選び、OKボタンを押す

画像に記録されているパラメーターが表示されます。
電子ダイヤルを回して画像を切り替えることもできます。
パラメーターを指定して展開する場合は、「パラメーターを指定する」（p.262）を参照してください。

5 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

画像がRAW展開されて新規保存されます。

7 十字キー（▲▼）で継続／終了を選ぶ

他のファイルも展開する場合は、「継続」を選びます。

8 OKボタンを押す

手順7で「継続」を選んだ場合は、手順4のパラメーターを指定する画面に戻ります。

まとめてRAW展開する

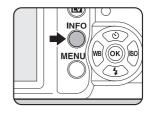
複数の画像を同じ設定でまとめてRAW展開します。

1 p.259の手順4の画面で「一括展開」を選び、OKボタンを押す

マルチ画面表示になります。
マルチ画面表示中の操作については、p.224を参照してください。

2 十字キー（▲▼◀▶）でRAW展開する画像を選択し、OKボタンを押す

3 INFOボタンを押す

展開の確認画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で撮影時の設定で展開／設定を変更して展開を選ぶ

パラメーターを変更する場合は､「設定を変更して展開」を選びます。「パラメーターを指定する」（p.262）を参照してください。

パラメーターを選択する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼◀▶）で記録サイズ／画質を設定する

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

選択した画像がRAW展開されて新規保存されます。

パラメーターを指定する

RAW展開するときのパラメーターを指定します。
変更できるパラメーターは以下の通りです。

パラメーター	値	参照
記録サイズ	12M（4288×2848）／10M（3936×2624）／6M（3072×2048）／2M（1728×1152）	p.192
画質	★★★（スーパーファイン）／★★（ファイン）／★（エコノミー）	p.193
カスタムイメージ	鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／ほのか／銀残し／リバーサルフィルム／モノトーン	p.213
ホワイトバランス [*1]	**AWB**（オート）／☼（太陽光）／（日陰）／☁（曇天）／**D**（昼光色蛍光灯）／**N**（昼白色蛍光灯）／**W**（白色蛍光灯）／**L**（電球色蛍光灯）／（白熱灯）／WB（ストロボ）／**CTE**／（マニュアル）	p.200
増減感	–2.0～+2.0	—
高感度NR	オート／オフ／弱／中／強	p.100
シャドー補正	オフ／弱／中／強	p.208
ディストーション補正 [*2]	オフ／オン	p.211
倍率色収差補正 [*2]	オフ／オン	p.211
色空間	sRGB／AdobeRGB	p.205

*1 多重露出で撮影されたRAWファイルの場合は設定できません。
*2 対応レンズを使用したときのみ選択できます。（p.211）

1 **p.259 の手順 4 の画面で十字キー（▲▼）を押し、変更したいパラメーターを選択する**

2 十字キー（◀▶）で値を変更する

ホワイトバランス／カスタムイメージは、十字キー（▶）を押すと設定画面が表示されます。

3 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

画像がRAW展開されて新規保存されます。

- ホワイトバランス／カスタムイメージでは、背景画像の保存、デジタルプレビューはできません。
- ホワイトバランスで（マニュアル）を選択した場合は、Avボタンを押すと測定画面が表示されます。

9 その他の設定を変更する

その他の設定変更のしかたをご紹介します。

詳細設定メニューの操作

カメラの全般的な設定は「🔧詳細設定」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」(p.37)を参照してください。

詳細設定メニューの設定項目

「🔧詳細設定1～4」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影または再生モードで**MENU**ボタンを押し、十字キー（◀▶）または電子ダイヤルで「🔧詳細設定1～4」メニューを表示します。

メニュー	項目	機能	参照
🔧1	Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます。	p.273
	日時設定	年月日の表示形式と日時を設定します。	p.270
	ワールドタイム	海外で使用する際、現在地とは別に、指定した都市の日時を画像モニターに表示できるようにします。	p.270
	文字サイズ	メニュー選択時の文字の大きさを設定します。	p.274
	電子音	電子音の音量とオン／オフを切り替えます。	p.269
	ガイド表示	画像モニターにガイドを表示するかどうかを設定します。	p.274
	ステータススクリーン	ステータススクリーンの配色を設定します。	p.276
🔧2	LCDの明るさ	画像モニターの明るさを設定します。	p.277
	LCD色調整	画像モニターの色味を調整します。	p.278
	ビデオ出力	ビデオ端子を備えたAV機器と接続するときの出力方式を設定します。	p.243
	USB接続	パソコンと接続するときの転送モードを設定します。	p.293
	フォルダー名	画像が保存されるフォルダー名の付け方を設定します。	p.279

メニュー	項目	機能	参照
🔧2	フォルダー新規作成	SDメモリーカードに新しいフォルダを作成します。	p.279
	著作権情報	Exifに書き込む撮影者と著作権者の情報を設定します。	p.283
🔧3	オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.281
	単3形電池の種類	セットした単3形電池の種類を設定します。	p.282
	リセット	設定内容を初期化します。	p.310
🔧4	ピクセルマッピング	CMOSセンサーの画素の欠損部分を補完します。	p.287
	ダストアラート	CMOSセンサーに付着したほこりを検知します。	p.316
	ダストリムーバル	CMOSセンサーを振動させてクリーニングします。	p.315
	センサークリーニング	CMOSセンサーをブロアーでクリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。	p.318
	フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.268

● 「🔧詳細設定1」メニュー

● 「🔧詳細設定2」メニュー

● 「🔧詳細設定3」メニュー

● 「🔧詳細設定4」メニュー

SDメモリーカードをフォーマットする

未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットすると、SDメモリーカードに保存されていたすべてのデータが消去されます。

- SDメモリーカードのフォーマット中は、絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像も消去されます。ご注意ください。

1 「🔧詳細設定4」メニューの「フォーマット」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）を押し、「フォーマット」を選ぶ

3 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終わると、メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ

フォーマットすると、SDメモリーカードに「K-r」というボリュームラベルが付きます。K-r をパソコンに接続した場合、SDメモリーカードは「K-r」という名称のリムーバブルディスクとして認識されます。（p.294）

音／日時／言語を設定する

電子音を設定する

カメラ操作時の電子音の音量とオン／オフを設定できます。初期設定は、音量は「3」ですべて☑（オン）です。
設定できる項目は以下の6種類です。

- 合焦音
- AE-L（AEロック時の操作音）
- セルフタイマー
- リモコン
- ワンタッチRAW＋（⦿ボタンに「ワンタッチRAW＋」を割り当てたときの操作音）
- OKボタン1秒押し（測距点移動の有効／無効を切り替えるときの操作音）

1　「🔧詳細設定1」メニューの「電子音」を選び、十字キー（▶）を押す

「電子音1」画面が表示されます。

2　十字キー（▼）を押してから十字キー（◀▶）で音量を設定する

6段階で設定できます。「0」にすると、すべての項目の電子音を鳴らさない設定になります。

3　十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

電子ダイヤルで「電子音2」画面に切り替えます。

電子音　1 2
音量
合焦音 ☑
AE-L ☑
セルフタイマー ☑
リモコン ☑
ワンタッチRAW+ ☑
MENU ↩

4　十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

5 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

日時の表示を変更する

初期設定で設定した日付と時刻を変更します。また、日付と時刻の表示形式を設定します。日付の表示形式は、年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択できます。時刻の表示形式は、12h（12時間表示）／24h（24時間表示）から選択できます。

「🔧詳細設定1」メニュー（p.266）の「日時設定」で設定します。

☞日時を設定する （p.64）

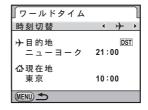
ワールドタイムを設定する

「初期設定をする」（p.60）で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。
「ワールドタイム」で目的地を設定しておくと、海外で使用する際、画像モニターに、目的地の都市の日時を表示できます。

1 「🔧詳細設定1」メニューの「ワールドタイム」を選び、十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で✈（目的地）／⌂（現在地）を切り替える

ガイド表示とコントロールパネルの日時は、この設定で切り替わります。

3 十字キー（▼）を押す

選択枠が✈（目的地設定）に移動します。

4 十字キー（▶）を押す

「✈目的地」画面が表示されます。

5 十字キー（◀▶）で目的地の都市名を選ぶ

電子ダイヤルを回すと、表示する地域が切り替わります。
選択した都市の位置・時差・現在時刻が表示されます。

6 十字キー（▼）で「夏時間」を選ぶ

7 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

8 OKボタンを押す

目的地の設定が保存され、「ワールドタイム」画面に戻ります。

9 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 目的地として指定できる都市については、「都市名一覧」（p.272）を参照してください。
- 手順2で⌂（現在地）を選択すると、現在地の都市や夏時間を設定できます。
- ワールドタイムが ✈（目的地）になっていると、ガイド表示とコントロールパネルに✈が表示されます。（p.24）
- ワールドタイムを ✈（目的地）に切り替えると、ビデオ出力方式（p.243）はその都市の初期設定に切り替わります。

都市名一覧

地域	都市名
北米	ホノルル
	アンカレジ
	バンクーバー
	サンフランシスコ
	ロサンゼルス
	カルガリー
	デンバー
	シカゴ
	マイアミ
	トロント
	ニューヨーク
	ハリファックス
中南米	メキシコシティ
	リマ
	サンティアゴ
	カラカス
	ブエノスアイレス
	サンパウロ
	リオデジャネイロ
ヨーロッパ	リスボン
	マドリード
	ロンドン
	パリ
	アムステルダム
	ミラノ
	ローマ
	コペンハーゲン
	ベルリン
	プラハ
	ストックホルム
	ブダペスト
	ワルシャワ
	アテネ
	ヘルシンキ
	モスクワ

地域	都市名
アフリカ・西アジア	ダカール
	アルジェ
	ヨハネスブルグ
	イスタンブール
	カイロ
	エルサレム
	ナイロビ
	ジッダ
	テヘラン
	ドバイ
	カラチ
	カブール
	マーレ
	デリー
	コロンボ
	カトマンズ
	ダッカ
東アジア	ヤンゴン
	バンコク
	クアラルンプール
	ビエンチャン
	シンガポール
	プノンペン
	ホーチミン
	ジャカルタ
	香港
	北京
	上海
	マニラ
	台北
	ソウル
	東京
	グアム

地域	都市名
オセアニア	パース
	アデレード
	シドニー
	ヌーメア
	ウェリントン
	オークランド
	パゴパゴ

表示言語を設定する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／デンマーク語／スウェーデン語／フィンランド語／ポーランド語／チェコ語／ハンガリー語／トルコ語／ギリシャ語／ロシア語／韓国語／中文繁体／中文簡体／日本語に対応しています。

「🔧詳細設定1」メニュー（p.266）の「Language/言語」で設定します。

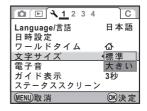
☞言語を設定する （p.60）

Language/言語
English Dansk Ελληνικά
Français Svenska Русский
Deutsch Suomi 한국어
Español Polski 中文繁體
Português Čeština 中文简体
Italiano Magyar 日本語
Nederlands Türkçe
MENU取消 OK決定

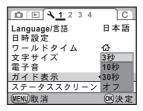
画像モニター／メニュー表示を設定する

文字サイズを設定する

選択しているメニューの文字の大きさを、標準（通常表示）／大きい（拡大表示）に設定します。

「🔧詳細設定1」メニュー（p.266）の「文字サイズ」で設定します。

ガイドの表示時間を設定する

電源を入れたときや、撮影モードを変更したときに、画像モニターにガイドを表示する時間を設定します。（p.24）
3秒（初期設定）／10秒／30秒／オフから選択します。

「🔧詳細設定1」メニュー（p.266）の「ガイド表示」で設定します。

メニューの表示ページを設定する

MENU ボタンを押してメニューを表示したときに最初に表示するページについて設定します。

1 **「C カスタム3」メニューの「19. メニュー選択の記憶」を選び、十字キー（▶）を押す**

「19. メニュー選択の記憶」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で記憶しない／記憶するを選び、OK ボタンを押す**

19. メニュー選択の記憶
1 記憶しない
2 記憶する
最後に選択した
メニューのページから
表示を開始します
MENU 取消　OK 決定

1	記憶しない	常に「📷 撮影1」（再生モードのときは「▶ 再生1」）から表示する（初期設定）
2	記憶する	最後に選択したメニューのページを最初に表示する

3 **MENU ボタンを押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

ステータススクリーンの表示を設定する

ステータススクリーンとコントロールパネルの配色を設定します。

1 **「🔧詳細設定1」メニューの「ステータススクリーン」を選び、十字キー（▶）を押す**

「ステータススクリーン」画面が表示されます。

2 **十字キー（◀▶）で1～6の中から配色を選択する**

3 **MENUボタンを2回押す**

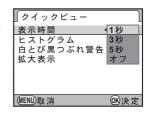
ステータススクリーンとコントロールパネルの配色が設定されます。

クイックビューの表示を設定する

撮影直後に画像を表示するクイックビューの表示を設定します。

1 **「📷撮影3」メニューの「クイックビュー」を選び、十字キー（▶）を押す**

「クイックビュー」画面が表示されます。

2 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でクイックビューの表示時間を選択する**

3 OKボタンを押す

4 十字キー（▲▼）でヒストグラム／白とび黒つぶれ警告／拡大表示を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

「拡大表示」を☑（初期設定）に設定しておくと、電子ダイヤルで拡大表示ができます。（p.223）

6 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

画像モニターの明るさを設定する

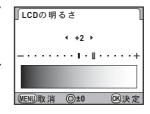
画像モニターの明るさを設定できます。屋外などで画像モニターの表示が見えにくいときなどに設定してください。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「LCDの明るさ」を選び、十字キー（▶）を押す

「LCDの明るさ」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で明るさを調整する

15段階の調整ができます。

⦿ボタンを押すと、±0にリセットされます。

3 OKボタンを押す

4 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

画像モニターの色味を設定する

画像モニターの色味を調整します。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「LCD色調整」を選び、十字キー（▶）を押す

「LCD色調整」画面が表示されます。

2 色味を調整する

G-M／B-Aの座標軸から、各7段階（225通り）の調整が可能です。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	G-M（グリーン－マゼンタ）間の色味を調整します。
十字キー（◀▶）	B-A（ブルー－アンバー）間の色味を調整します。
⦿ボタン	調整値をリセットします。
電子ダイヤル	保存されている画像を背景に表示し、画像を見ながら調整ができます。パソコンのモニターと色合わせをしたいときなどに便利です。

3 OKボタンを押す

4 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

フォルダー／ファイルNo.を設定する

フォルダー名の付け方を選択する

画像が保存されるフォルダー名の付け方を設定します。

日付	「xxx_MMDD」の形式で、画像を撮影した月／日が2桁表示でフォルダー名に付けられます。「xxx」は100から999までの連番です。「MMDD」（月日）の表示は、「日時設定」（p.270）の表示スタイルに準じます。（初期設定） 例）101_0125：1月25日に撮影した画像が保存されるフォルダー
PENTX	「xxxPENTX」の形式でフォルダー名が付けられます。 例）101PENTX

「詳細設定2」メニュー（p.266）の「フォルダー名」で設定します。

フォルダーを作成する

SDメモリーカードに新しくフォルダーを作成します。使用中のフォルダーの次の番号のフォルダーが作成されます。

1 「詳細設定2」メニューの「フォルダー新規作成」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォルダー新規作成」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「新規作成」を選び、OK ボタンを押す

新しい番号のフォルダーが作成されます。

フォルダー新規作成
以下のフォルダーを
新規作成します
101 PENTX
新規作成
キャンセル
OK決定

この操作で作成されるフォルダーは1つのみです。空のフォルダーを続けて複数作成することはできません。

ファイルNo.の付け方を選択する

「撮影4」メニューの「モードメモリ」（p.288）で「ファイルNo.」を設定することで、画像が保存されるフォルダーが新しくなったときの、画像のファイルNo.の付け方を選ぶことができます。

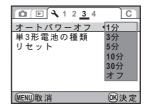
☑	前のフォルダーに最後に保存された画像のファイルNo.が記憶され、フォルダーが新しくなっても続きのファイルNo.になります。
□	画像を保存するフォルダーが新しくなるたびに、最初に保存される画像のファイルNo.が0001に戻ります。

撮影可能枚数が500枚を超える場合、撮影画像は500枚ごとにフォルダーが分かれて保存されます。ただし、露出ブラケット撮影のときは、500枚を超えても撮影が終了するまで同じフォルダーに保存されます。

電源を設定する

オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。電源が切れるまでの時間は、1分（初期設定）／3分／5分／10分／30分／オフから選択できます。

「🔧詳細設定3」メニュー（p.267）の「オートパワーオフ」で設定します。

- 次のときは、オートパワーオフは働きません。
  - ライブビュー中
  - スライドショウ再生中
  - USB接続中
- オートパワーオフから復帰するときは、以下のいずれかの操作をしてください。
  - 電源を入れなおす
  - シャッターボタンを半押しする
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／**INFO**ボタンのいずれかを押す

電池の種類を設定する

単3形電池を使用する場合の電池の種類を設定します。初期設定は「自動判別」です。

1 **「詳細設定3」メニューの「単3形電池の種類」を選び、十字キー（▶）を押す**

「単3形電池の種類」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で電池の種類を選択し、OKボタンを押す**

「自動判別」に設定すると、セットされた電池の種類を自動で判別します。

3 **MENUボタンを押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

注意

セットした電池と設定が異なると、電池残量が正しく判断されません。正しく設定するようにしてください。通常は「自動判別」のままで問題ありませんが、低温時や長期間保存してあった電池を使用する場合などは、電池の種類を正しく指定することにより、適切な残量表示ができます。

撮影者情報を設定する

撮影した画像には、カメラの機種や撮影条件などの情報がExifというデータ形式で自動的に埋め込まれています。このExifに撮影者情報を書き込むことができます。

メモ Exif情報は、付属のソフトウェア「PENTAX Digital Camera Utility 4」(p.298)などで確認できます。

1 **「🔧詳細設定2」メニューの「著作権情報」を選び、十字キー(▶)を押す**

「著作権情報」画面が表示されます。

2 **十字キー(◀▶)で☑/□を切り替える**

☑	著作権情報をExifに書き込む
□	著作権情報をExifに書き込まない(初期設定)

3 **十字キー(▲▼)で「撮影者名」を選び、十字キー(▶)を押す**

文字を入力する画面が表示されます。

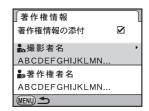
4 文字を入力する

半角32文字までの英数字・記号が入力できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	文字選択カーソルを移動します。
電子ダイヤル	文字入力カーソルを移動します。
⦿ボタン	大文字／小文字を切り替えます。
OK ボタン	文字選択カーソルが選択している文字を文字入力カーソルの位置に入力します。
⚡UP/🗑ボタン	文字入力カーソル位置の文字を消去します。

5 文字が全部入力できたら、文字選択カーソルを「確定」まで移動し、OKボタンを押す

「著作権情報」画面に戻ります。

6 十字キー（▲▼）で「著作権者名」を選び、「撮影者名」と同様に入力する

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

DPOFを設定する

画像を記録したSDメモリーカードをプリント取扱店に持っていくと、従来の写真のようにプリントを注文することができます。
あらかじめDPOF（Digital Print Order Format）を設定することで、プリント枚数の指定や、画像に日付を入れることができます。

- RAW画像と動画はDPOFを設定できません。
- DPOFが設定できるのは、最大で999画像です。

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（DPOF）を選び、OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で1画像／全画像を選び、OKボタンを押す

4 手順3で「1画像」を選んだ場合は、十字キー（◀▶）でDPOFを設定する画像を選択する

5 十字キー（▲▼）でプリント枚数を指定する

99枚まで設定できます。
枚数を指定した画像には、画面右上にが表示されます。
DPOF設定を解除するときは、枚数を「00」に設定します。

6 電子ダイヤルを回し、日付の☑／□を切り替える

☑	日付をプリントする
□	日付をプリントしない

他の画像も設定する場合は、手順4～6を繰り返します（最大999画像）。

7 OKボタンを押す

DPOF設定が保存され、再生モードに戻ります。

- プリンターやプリント取扱店の機器によっては、DPOFの設定で日付を☑にしても日付がプリントされないことがあります。
- 全画像設定では、すべての画像に同じプリント枚数が設定され、1画像ずつの設定は解除されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいかを確認してください。

センサー画素の欠けを補完する（ピクセルマッピング）

ピクセルマッピングは、CMOSセンサーの画素に欠けがあった場合に補完処理をする機能です。

1 「🔧詳細設定4」メニューの「ピクセルマッピング」を選び、十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「ピクセルマッピング」を選び、OKボタンを押す

補完処理が行われ、メニュー選択前の画面に戻ります。

ピクセルマッピング

撮像素子を確認し
再調整を行います

ピクセルマッピング
キャンセル

OK 決定

注意

バッテリー／電池の容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキットK-AC109J（別売）を使用するか、容量が十分残っているバッテリー／電池を使用してください。

カメラに保存する設定を選択する（モードメモリ）

カメラの電源を切っても設定を記憶しておく機能を選択します。以下の機能について設定できます。

機能	初期設定
ストロボモード	☑
ドライブモード	☑
ホワイトバランス	☑
カスタムイメージ	☑
ISO感度	☑
露出補正	☑
ストロボ光量補正	☑

機能	初期設定
クロスプロセス	□
デジタルフィルター	□
HDR撮影	□
撮影情報表示	□
再生情報表示	☑
ファイルNo.	☑

1 「📷 撮影 4」メニューの「モードメモリ」を選び、十字キー（▶）を押す

「モードメモリ1」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

電子ダイヤルで「モードメモリ2」画面に切り替えます。

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	電源を切っても設定は記録されます。
□	電源を切ると設定は消去され、初期設定に戻ります。

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 「ファイルNo.」を☑（オン）にすると、フォルダーが新しくなってもファイル名の連番が継続されます。詳しくは、「ファイルNo.の付け方を選択する」（p.280）を参照してください。
- 「🔧 詳細設定」メニューをリセット（p.310）すると、モードメモリの設定はすべて初期設定に戻ります。
- 「撮影情報表示」を□（オフ）にすると、カメラの電源を入れたときに常にステータススクリーンが表示されます。（p.26）

10 パソコンと接続する

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明します。

画像をパソコンで利用するには

撮影した静止画・動画は、K-rとパソコンをUSBで接続して転送し、付属のソフトウェアで管理できます。
パソコンと接続したり、付属ソフトウェア「PENTAX Digital Camera Utility 4」を使用するには、以下のシステム環境が必要です。

● Windows

OS	Windows XP（SP3以降）／Windows Vista／Windows 7（各x64版では32bitアプリケーションとして動作可能）
CPU	Pentium D 3.0GHz相当以上（Intel Core 2 Duoプロセッサ2.0GHz相当以上を推奨）
メモリ	2.0GB以上（3.0GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	1GB以上（8GB以上推奨）
モニタ	1280×800 以上 （1920×1200 以上を推奨）、24bitフルカラー（約1677万色）表示可能なもの
その他	USB 2.0ポート標準搭載

● Macintosh

OS	Mac OS X 10.4.11／10.5／10.6
CPU	PowerPC G5 Dual-core 2.0GHz以上（Intel Core 2 Duo プロセッサ 2.0GHz 以上を推奨。Universal Binary対応）
メモリ	2.0GB以上（4.0GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	1GB以上（8GB以上推奨）
モニタ	1280×800 以上（1920×1200 以上を推奨）、24bitフルカラー（約1677万色）表示可能なもの
その他	USB 2.0ポート標準搭載

画像をパソコンに保存する

転送モードを設定する

付属のUSBケーブル（I-USB7）を使用して、パソコンと接続するときの転送モードを設定します。初期設定は「MSC」です。

1 「🔧 詳細設定 2」メニューの「USB 接続」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）でMSC／PTPを選択する

p.294を参照してください。

3 OKボタンを押す

設定が変更されます。

4 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

MSCとPTP

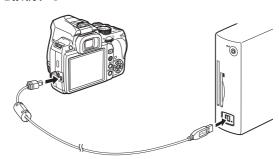
MSC（Mass Storage Class／マスストレージクラス）
パソコンにUSB接続された機器を、記憶装置として扱うための汎用のドライバプログラムです。USB機器をそのドライバで制御するための規格のことを指すこともあります。
USB Mass Storage Class対応の機器は、接続するだけで、専用のドライバをインストールせずにパソコンからファイルのコピーや読み書きができます。

PTP（Picture Transfer Protocol／ピクチャートランスファープロトコル）
USBを通じてデジタル画像の転送やデジタルカメラの制御を行うためのプロトコルで、ISO 15740として国際標準化されています。
PTP対応の機器同士では、デバイスドライバをインストールせずに、画像データの転送ができます。

K-rでは、特に指定がない限り「MSC」を選択してパソコンと接続してください。

カメラとパソコンを接続して画像を保存する

1　パソコンの電源を入れる

2　カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでパソコンとカメラを接続する

3 カメラの電源を入れる

カメラは「K-r」というボリュームラベルで、リムーバブルディスクまたはSDメモリーカードとして認識されます。

カメラの電源を入れたとき、「K-r」ダイアログが表示された場合は、ダイアログ内の「フォルダを開いてファイルを表示する エクスプローラ使用」を選択してOKボタンをクリックします。

4 カメラの画像をパソコンに保存する

カメラ内の画像ファイルまたは画像ファイルを含むフォルダーをパソコンのハードディスクまたはデスクトップにドラッグ&ドロップします。

5 カメラをパソコンから取り外す

付属ソフトウェアを使用する

付属のCD-ROM（S-SW110）には、「PENTAX Digital Camera Utility 4」が収録されています。PENTAX Digital Camera Utility 4は、パソコンに保存した画像の管理や、K-rで撮影したRAWファイルの展開（現像）や色調整などができます。

対応ファイル形式：.bmp（BMP）／.jpg（JPEG）／.pef（PENTAX独自フォーマットのRAWファイル）／.png（PNG）／.tif（TIFF）／.dng（DNGフォーマットのRAWファイル）

ソフトウェアのインストール

付属のCD-ROMからソフトウェアをインストールします。
ご使用のOSで複数アカウントを設定している場合は、administrator（管理者）権限でログオンしてからインストールを始めてください。

1 パソコンの電源を入れる

他に起動しているソフトがあるときは、終了させます。

2 CD-ROM（S-SW110）をパソコンのCD-ROMドライブにセットする

「PENTAX Software Installer」の画面が表示されます。

「PENTAX Software Installer」の画面が表示されない場合

- **Windows**
  1 スタートメニューから「マイコンピュータ」をクリックする
  2「CD-ROMドライブ（S-SW110）」のアイコンをダブルクリックする
  3「Setup.exe」のアイコンをダブルクリックする
- **Macintosh**
  1 デスクトップのCD-ROM（S-SW110）のアイコンをダブルクリックする
  2「PENTAX Installer」のアイコンをダブルクリックする

3 「PENTAX Digital Camera Utility 4」をクリックする

Windowsの場合は、手順4に進んでください。

Macintoshの場合は、以降の操作は画面の指示に従ってください。

4 「セットアップ言語の選択」画面で「日本語」を選択し、[OK] ボタンをクリックする

5 日本語の「InstallShield Wizard」画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックする

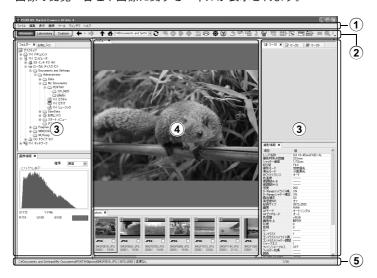
以降の操作は画面の指示に従ってください。

PENTAX Digital Camera Utility 4の画面

PENTAX Digital Camera Utility 4を起動すると、次の画面（Browser）が表示されます。

ここではWindowsの画面を例に説明します。

● Browser表示セット（初期設定）

画像の閲覧・管理や画像に関するパネルが表示されます。

① メニューバー

機能の実行や各種設定を行います。
Macintosh版ではメニューはデスクトップ上部に表示されます。

② ツールバー

頻繁に使用する機能が、ツールバーの各ボタンとして用意されています。

③コントロールパネル

選択した画像の撮影情報や設定のためのパネルが表示されます。ツールバーのBrowser ／Laboratory ／Custom のボタンによって、コントロールパネルの表示セットを切り替えることができます。

④ファイル表示ペイン

選択したフォルダー内のファイル一覧や画像が表示されます。

⑤ステータスバー

選択中の項目の情報などが表示されます。

● Laboratory表示セット（初期設定）

画像調整に関するコントロールパネルが表示されます。

● **Custom表示セット（初期設定）**

Browser／Laboratoryとは別のパネル表示セットが登録できます。初期状態では、Browser／Laboratoryで表示されないものも含めて、すべてのパネルが表示されます。

ソフトウェアの詳しい説明を見る

ソフトウェアの詳しい使い方については、ヘルプを参照してください。

1 ツールバーの?ボタンを押す

または「ヘルプ」メニュー→「PENTAX Digital Camera Utilityヘルプ」を選択します。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力ください。

p.297の手順3の画面で、「Product Registration」をクリックします。

図のような地図画面が表示されたら、「Japan」をクリックしてください。パソコンがインターネットに接続できる環境にあれば、弊社ホームページのユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、登録をしてください。

ユーザー登録画面が表示されない場合は、下記アドレスから直接アクセスしてください。

https://service.pentax.jp/pentax/user

11 付録

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
カメラの電源を切っても、モードメモリ（p.288）で設定した機能は保存されます。

リセット設定
する　：リセット（p.310）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される

ダイレクトキー

項目	初期設定	リセット設定	参照
ドライブモード	□（1コマ撮影）	する	p.118 p.145 p.147 p.149
ストロボモード	撮影モードによって異なる	する	p.75
ホワイトバランス	**AWB**（オート）	する	p.200
ISO感度	AUTO（ISO 200～3200）	する	p.98

「撮影」メニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
カスタムイメージ	鮮やか	する*1	p.213
記録形式	JPEG	する	p.195
JPEG記録サイズ	12M （4288×2848）	する	p.192
JPEG画質	★★★（スーパーファイン）	する	p.193
AFモード	**AF.A**	する	p.125
測光方式	（分割）	する	p.114
測距点切替	AUTO 5（オート5点）	する	p.129
クロスプロセス	オフ	する	p.216
デジタルフィルター	フィルターオフ	する	p.155
HDR撮影	オフ	する	p.209

項目		初期設定	リセット設定	参照
多重露出	撮影回数	2回	する	p.153
	自動露出調整	□（オフ）	する	
インターバル撮影	撮影間隔	1秒間	する	p.151
	撮影枚数	2枚	する	
	開始トリガー	即時	する	
	撮影開始時刻	12：00AM／00：00	する	
高感度NR		オート	する	p.100
長秒時NR		オート	する	p.102
動画	記録サイズ	HD（1280×720、16：9）	する	p.165
	画質	★★★（スーパーファイン）	する	
	音声	（オン）	する	
	クロスプロセス	オフ	する	
	デジタルフィルター	フィルターオフ	する	
	絞り設定	固定	する	
	Shake Reduction	（オフ）	する	
ライブビュー	AF方式	（顔検出AF）	する	p.160
	グリッド表示	オフ	する	
	情報表示	☑（オン）	する	
	ヒストグラム	□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告	□（オフ）	する	
クイックビュー	表示時間	1秒	する	p.276
	ヒストグラム	□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告	□（オフ）	する	
	拡大表示	☑（オン）	する	
D-Range設定	ハイライト補正	オフ	する	p.207
	シャドー補正	オフ	する	p.208
レンズ補正	ディストーション補正	オフ	する	p.211
	倍率色収差補正	オフ	する	
色空間		sRGB	する	p.205
RAWファイル形式		PEF	する	p.196

<table>
<tr><th colspan="4">項目</th><th>初期設定</th><th>リセット設定</th><th>参照</th></tr>
<tr><td rowspan="12">グリーンボタン</td><td rowspan="10">グリーンボタン</td><td colspan="2">グリーンボタン</td><td>グリーンボタン</td><td>する</td><td rowspan="10">p.197</td></tr>
<tr><td colspan="2">カスタムイメージ *2</td><td>―</td><td>する</td></tr>
<tr><td colspan="2">光学プレビュー *2</td><td>―</td><td>する</td></tr>
<tr><td rowspan="3">デジタルプレビュー *2</td><td>ヒストグラム</td><td>□（オフ）</td><td>する</td></tr>
<tr><td>白とび黒つぶれ警告</td><td>□（オフ）</td><td>する</td></tr>
<tr><td>拡大表示</td><td>☑（オン）</td><td>する</td></tr>
<tr><td colspan="2">デジタルフィルター *2</td><td>―</td><td>する</td></tr>
<tr><td colspan="2">クロスプロセス *2</td><td>―</td><td>する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ワンタッチRAW＋ *2</td><td>撮影毎に解除</td><td>☑（オン）</td><td>する</td></tr>
<tr><td>JPEG／RAW／RAW＋からの記録形式</td><td>すべてRAW＋</td><td>する</td></tr>
<tr><td colspan="3">M時の動作</td><td>P LINE</td><td>する</td><td>p.112</td></tr>
<tr><td colspan="3">P時の電子ダイヤル</td><td>P SHIFT</td><td>する</td><td>p.105</td></tr>
<tr><td colspan="4">AF/AE-Lボタン</td><td>AF作動1</td><td>する</td><td>p.120
p.123</td></tr>
<tr><td rowspan="2">モードメモリ</td><td colspan="3">クロスプロセス／デジタルフィルター／HDR撮影／撮影情報表示</td><td>□（オフ）</td><td>する</td><td rowspan="2">p.288</td></tr>
<tr><td colspan="3">上記以外</td><td>☑（オン）</td><td>する</td></tr>
<tr><td colspan="4">Shake Reduction</td><td>（オン）</td><td>する</td><td>p.142</td></tr>
<tr><td colspan="4">焦点距離入力</td><td>35mm</td><td>する</td><td>p.143</td></tr>
</table>

*1 カスタムイメージで設定したパラメーターもリセットされます。
*2 リセットすると、機能割り当てが「グリーンボタン」に戻ります。

再生モードパレット

項目	初期設定	リセット設定	参照
画像回転	—	—	p.235
デジタルフィルター	トイカメラ	する[*1]	p.253
リサイズ	設定可能な最大値	—	p.250
トリミング	設定可能な最大値	—	p.251
スライドショウ	—	する	p.233
RAW展開	記録形式：JPEG 記録サイズ：12M 画質：★★★	する	p.259
インデックス	—	—	p.229
画像比較	—	—	p.228
プロテクト	—	しない	p.240
DPOF	—	しない	p.285
動画編集	—	—	p.171
赤外線通信	—	—	p.244
フォトチャレンジャー	—	—	p.246

*1 デジタルフィルターで設定したパラメーターもリセットされます。

「▶再生」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	p.232
	画面効果	オフ	する	
	繰返し再生	□（オフ）	する	
クイック拡大		オフ	する	p.222
白とび黒つぶれ警告		□（オフ）	する	
画像の自動回転		☑（オン）	する	
赤外線通信	オートリサイズ	2M	する	p.244
	通信方式	標準（IrSimple）	する	
全画像消去		—	—	p.239

「詳細設定」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
Language/言語		初期設定による	しない	p.273
日時設定		初期設定による	しない	p.270
ワールドタイム	ワールドタイム設定	⌂（現在地）	する	p.270
	現在地（都市）	初期設定による	しない	
	現在地（夏時間）	初期設定による	しない	
	目的地（都市）	現在地と同じ	しない	
	目的地（夏時間）	現在地と同じ	しない	
文字サイズ		初期設定による	しない	p.274
電子音	音量	3	する	p.269
	設定	すべて☑（オン）		
ガイド表示		3秒	する	p.274
ステータススクリーン		1	する	p.276
LCDの明るさ		±0	する	p.277
LCD色調整		±0	する	p.278
ビデオ出力		初期設定による	しない	p.243
USB接続		MSC	する	p.293
フォルダー名		日付	する	p.279
フォルダー新規作成		—	—	p.279
著作権情報	著作権情報の添付	□（オフ）	する	p.283
	撮影者名	—	しない	
	著作権者名	—	しない	
オートパワーオフ		1分	する	p.281
単3形電池の種類		自動判別	する	p.282
リセット		—	—	p.310
ピクセルマッピング		—	—	p.287
ダストアラート		—	—	p.316
ダストリムーバル	ダストリムーバル	—	—	p.315
	起動時の作動	□（オフ）	する	
センサークリーニング		—	—	p.318
フォーマット		—	—	p.268

「Cカスタム」メニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
1. 露出設定ステップ	1/3 EVステップ	する	p.118
2. ISO感度ステップ	1 EVステップ	する	p.99
3. 拡張感度	オフ	する	p.99
4. 測光作動時間	10秒	する	p.116
5. AFロック時のAE-L	オフ	する	p.133
6. 測距点と露出の関連付	オフ	する	p.115
7. ブラケット撮影順	0 – +	する	p.118
8. スーパーインポーズ	オン	する	p.130
9. AF.Sの動作	フォーカス優先	する	p.125
10. AF.Cの動作	フォーカス優先	する	p.126
11. AF補助投光	オン	する	p.127
12. ストロボ発光時のWB	**AWB**	する	p.201
13. 白熱灯下のAWB	弱	する	—
14. リモコン時のAF	オフ	する	p.148
15. B時のリモコン撮影	Mode1	する	p.114
16. 充電中のレリーズ	オフ	する	p.81
17. ワイヤレス時の発光	オン	する	p.184
18. 回転情報の記録	オン	する	p.235
19. メニュー選択の記憶	記憶しない	する	p.275
20. キャッチインフォーカス	オフ	する	p.136
21. AF微調整	オフ	する *1	p.128
22. 絞りリングの使用	禁止	する	p.314
カスタムのリセット	—	—	p.311

*1 調整値は「21. AF微調整」画面の「リセット」で初期化されます。

メニューのリセット

撮影／再生／詳細設定メニューのリセット

「撮影」メニュー／「再生」メニュー／「詳細設定」メニュー／ダイレクトキー／再生モードパレットの設定内容を初期設定に戻します。

メモ
Language/言語／日時設定／ワールドタイムの都市設定／文字サイズ／ビデオ出力／著作権情報と「C カスタム」メニューの内容はリセットされません。

1 「詳細設定3」メニューの「リセット」を選び、十字キー（▶）を押す

「リセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「リセット」を選び、OK ボタンを押す

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

カスタムメニューのリセット

「**C** カスタム」メニューの設定内容をすべて初期設定に戻します。

1 **「Cカスタム4」メニューの「カスタムのリセット」を選び、十字キー（▶）を押す**

「カスタムのリセット」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲）で「リセット」を選び、OK ボタンを押す**

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

カスタムのリセット

カスタムファンクションの
設定を初期状態に戻します

リセット
キャンセル

OK 決定

各種レンズを組み合わせたときの機能

工場出荷時の設定で使用できるレンズは、DA・DA L・FA Jレンズまたは絞りリングに**A**（オート）位置のあるD FA・FA・F・Aレンズのみです。これ以外のレンズあるいは、D FA・FA・F・Aレンズで絞りを**A**位置から外した場合は、「「22. 絞りリングの使用」設定時の注意」（p.314）を参照してください。

○：絞りが**A**位置であれば、その他は制限なく使用可能です。
△：機能制限はありますが、撮影可能です。
×：使用できません。

レンズグループ［マウント名称］／機能	DA DA L D FA	FA J FA *6	F *6	A	M P
	［KAF］ ［KAF2］ ［KAF3］	［KAF］ ［KAF2］	［KAF］	［KA］	［K］
オートフォーカス （レンズ単体使用） （AFアダプター 1.7×使用） *1	○ –	○ –	○ –	– △ *8	– △ *8
マニュアルフォーカス （フォーカスインジケーター表示の利用） *2 （マット面の利用）	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
クイックシフトフォーカス	△ *5	×	×	×	×
5点測距／11点測距	○	○	○	△ *8	×
分割測光	○	○	○	○	×
P（プログラム）モード	○	○	○	○	△ *9
Sv（感度優先）モード	○	○	○	○	△ *9
Tv（シャッター優先）モード	○	○	○	○	△ *9
Av（絞り優先）モード	○	○	○	○	△ *9
M（マニュアル）モード	○	○	○	○	△
P-TTLオートストロボ *3	○	○	○	○	×
パワーズーム	–	×	–	–	–
手ぶれ補正機能使用時のレンズ焦点距離の自動取得	○	○	○	×	×
レンズ補正機能 *4	○	× *7	×	×	×

*1 レンズの開放F値がF2.8、およびそれより明るいレンズで**A**位置でのみ使用可能。
*2 レンズの開放F値がF5.6、およびそれより明るいレンズのみ使用可能。
*3 内蔵ストロボおよびAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FC使用時。
*4 「撮影3」メニューの「レンズ補正」で収差補正が可能。DA 10-17mm FISH EYE レンズの場合、ディストーション補正は無効。
*5 対応レンズのみ可能。
*6 FA・F SOFT 85mm F2.8、およびFA SOFT 28mm F2.8では「**C**カスタム4」メニューの「22. 絞りリングの使用」で「許可」を設定した上で、手動絞りの範囲でのみ設定した絞り値で撮影されます。
*7 対応レンズ（FA 31mm F1.8 Limited、FA 43mm F1.9 Limited、FA 77mm F1.8 Limited）のみ可能。
*8 測距点は■（スポット）固定。
*9 絞りが開放の**Av**（絞り優先）自動露出になります（絞りリングを操作しても実絞りに反映されません）。

レンズ名称とマウント名称について

DAレンズのうち超音波モーターを搭載したレンズと、FAズームレンズのうちパワーズームが可能なレンズのマウントはK_{AF2}マウント（AFカプラーのないレンズはK_{AF3}マウント）です。
FAの単焦点レンズ（ズームでないレンズ）と、超音波モーターを搭載していないDA・DA Lレンズ、D FA・FA J・FレンズのマウントはK_{AF}マウントです。詳しくはレンズの使用説明書を参照してください。なお、このカメラにはパワーズーム機能はありません。

使用できないレンズ・アクセサリーについて

絞り**A**（オート）位置のあるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、**A**位置のないレンズやオート接写リング、オートベローズなどのアクセサリーを取り付けた場合、「**C**カスタム4」メニューの「22. 絞りリングの使用」で「許可」を設定しない限り、カメラは作動しません。その場合は機能制限がありますので、「「22. 絞りリングの使用」設定時の注意」（p.314）を参照してください。
DA・DA L・FA Jレンズまたは絞り**A**位置のあるレンズを絞り**A**位置で使用すると、カメラの撮影モードがすべて利用できます。

使用レンズと内蔵ストロボについて

絞り**A**（オート）位置のあるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、Aレンズ以前のレンズおよびソフトレンズを使用した場合、内蔵ストロボは光量制御ができずに、常にフル発光となります。
オートストロボとしては使用できませんので、ご注意ください。

「22. 絞りリングの使用」設定時の注意

「**C** カスタム4」メニューの「22. 絞りリングの使用」で「許可」を選択すると、D FA・FA・F・Aレンズの絞りを**A**（オート）位置以外にしたり、**A** 位置のないレンズを取り付けても、シャッターがきれるようになります。ただし、次の制約があるので、ご使用の際はご注意ください。

22. 絞りリングの使用
1 禁止
2 許可
レンズの絞りリングの位置が
A以外のときも
撮影が可能です
MENU 取消　OK 決定

絞り A 位置以外で使用するときの制約

使用レンズ	露出モード	制約内容
D FA・FA・F・A・M（レンズ単体、オート接写リングKなどの自動絞り機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**（絞り優先）モード	絞りリングを操作しても、絞りは開放のままで絞られません。レンズの開放絞りに連動してシャッター速度は変化しますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。
D FA・FA・F・A・M・S（接写リングKなどの絞り込み機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**（絞り優先）モード	設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。
レフレックスレンズなどの手動絞りのレンズ（レンズ単体）	**Av**（絞り優先）モード	
FA・F SOFT 85mm、FA SOFT 28mm（レンズ単体）	**Av**（絞り優先）モード	手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。 被写界深度確認操作（光学プレビュー）を行うと測光スイッチが入り、露出の確認ができます。
すべてのレンズ	**M**（マニュアル）モード	設定した絞り値とシャッター速度で撮影されます。ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。 被写界深度確認操作（光学プレビュー）を行うと測光スイッチが入り、露出の確認ができます。

メモ　絞りを**A**位置以外にセットした場合、**M**（マニュアル）／動画（動画）モード以外はモードダイヤルの位置にかかわらず、**Av**（絞り優先）モードで作動します。

CMOSセンサーのクリーニング

CMOSセンサーに汚れやほこりが付着していると、背景が白いものなど撮影の条件によっては画像に影が写り込むことがあります。そのような場合には、CMOSセンサーのクリーニングが必要です。

CMOSセンサーを振動させてほこりを落とす（ダストリムーバル）

CMOSセンサーを振動させて付着したゴミを落とします。

1　「🔧詳細設定4」メニューの「ダストリムーバル」を選び、十字キー（▶）を押す

「ダストリムーバル」画面が表示されます。

2　OKボタンを押す

CMOSセンサーが駆動し、ダストリムーバル機能が作動します。

電源を入れるたびにダストリムーバルを作動させたい場合は、「起動時の作動」を選び、十字キー（◀▶）で☑にします。

ダストリムーバブルが終了すると、「🔧詳細設定4」メニューに戻ります。

ダストリムーバル
ダストリムーバル
起動時の作動　☑
MENU ⮌　OK スタート

CMOSセンサーに付着したほこりを検知する（ダストアラート）

ダストアラートはCMOSセンサーに付着したほこりを検知し、ほこりの位置を視覚的に表示する機能です。
検知した画像を保存して、センサークリーニング（p.318）を行うときに表示させることができます。
ダストアラートを行うために、次の条件を整えてください。

- DA・DA L・FA Jレンズ、または絞りリングに**A**（オート）位置のあるD FA・FA・Fレンズを取り付ける
- 絞りリングがあるレンズは**A**位置に合わせる
- モードダイヤルを🎥（動画）以外に合わせる
- フォーカスモードレバーを**AF**に合わせる

注意
- ダストアラート機能は、極端な長時間露光になることがあります。処理が完了する前にレンズの方向を変えると、正しくゴミの状況を把握できなくなります。
- 被写体条件や温度などによっては、ゴミが正しく検出できない場合があります。
- ダストアラート画像は、保存してから30分以上経過すると、センサークリーニングを実行したときに表示されません。新たにダストアラート画像を保存してからセンサークリーニングを行ってください。
- 保存したダストアラート画像は、再生モードで表示できません。
- SDメモリーカードを入れていないと、ダストアラート画像は保存できません。

1 **「🔧詳細設定4」メニューの「ダストアラート」を選び、十字キー（▶）を押す**

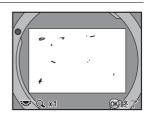
「ダストアラート」画面が表示されます。

2 白い壁などなるべく均一で明るいものをファインダーいっぱいに入れて、シャッターボタンを全押しする

ダストアラート
センサーのゴミを
チェックします
シャッターボタンを
押してください
MENU
SHUTTER 確認

画像処理の後、ダストアラート画像が表示されます。

「正しく処理できませんでした」と表示されたときは、**OK** ボタンを押してもう一度撮影してください。

3 センサーのゴミを確認する

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル／**INFO**ボタン	ダストアラート画像を全画面表示します。

4 OK ボタンを押す

ダストアラート画像が保存され、「🔧詳細設定4」メニューに戻ります。

- ダストアラート画像は、カメラの設定にかかわらず、一時的に固有の撮影条件で撮影されます。
- ダストアラート画像が表示されているときに電子ダイヤルを回すか **INFO** ボタンを押すと、全画面表示に切り替えができます。

ブロアーでほこりを落とす

ブロアーでクリーニングするためにミラーアップし、シャッターを開けた状態にします。
CMOSセンサーは精密部品ですので、できるだけ当社の修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。有料にて清掃を請け賜っております。
クリーニングには、別売のイメージセンサークリーニングキットO-ICK1（p.324）もご使用いただけます。

注意

- スプレー式のブロアーは使用しないでください。
- シャッター速度を **Bulb** にしてセンサークリーニングを行わないでください。
- カメラにレンズを装着しないときは必ずレンズマウント部にキャップを取り付け、CMOSセンサーに汚れやほこりが付着しないようにしてください。
- バッテリーや電池の容量が少ない場合、「電池容量がたりないためクリーニングを行えません」と画像モニターに表示されます。
- クリーニングをするときは、ACアダプターキットK-AC109J（別売）のご使用をお勧めします。ACアダプターキットK-AC109Jを使用しない場合は、容量が十分に残っているバッテリー／電池を使用してください。クリーニングの途中でバッテリー／電池の容量が少なくなると警告音が鳴るので、速やかにクリーニング作業を中止してください。
- クリーニングをするときは、ブロアーの先端をレンズマウント面より中に入れないでください。万一電源が切れた場合、シャッター機構部やCMOSセンサー部、ミラー部を破損する恐れがあります。

- センサークリーニング中はセルフタイマーランプが点滅します。
- このカメラは手ぶれ補正機能に対応した CMOS センサーを使用しているので、センサークリーニング中にCMOSセンサーが振動する音がしますが、故障ではありません。

1 カメラの電源を切り、レンズを取り外す

2 カメラの電源を入れる

3 「🔧詳細設定4」メニューの「センサークリーニング」を選び、十字キー（▶）を押す

「センサークリーニング」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「ミラーアップ」を選び、OKボタンを押す

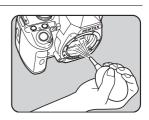
センサークリーニング
クリーニングのため
ミラーアップします
終了するには電源を
オフしてください
ミラーアップ
キャンセル
OK決定

ミラーがアップした状態に固定されます。

30分以内にダストアラートでほこりの検知を行っている場合は、画像モニターにダストアラート画像が表示されます。ほこりの位置を確認しながら、クリーニングができます。

5 CMOSセンサーをクリーニングする

CMOSセンサーに付着している汚れやほこりは、ブラシが付いていないブロアーで落としてください。ブラシ付きのブロアーを使用すると、CMOSセンサーがブラシで傷つくことがあります。また、絶対にCMOSセンサーを布で拭かないでください。

6 カメラの電源を切る

7 ミラーが元に戻ったことを確認後、レンズを取り付ける

別売アクセサリー

このカメラには、各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にお問い合わせください。
（※）の製品は同梱品と同じものです。

電源関連

バッテリー充電器キット K-BC109J（※）
（バッテリー充電器D-BC109・ACコードD-CO2Jのセット）

充電式リチウムイオンバッテリー D-LI109（※）

ACアダプターキット K-AC109J
（ACアダプターD-AC50・DCカプラーD-DC109・ACコードD-CO2Jのセット）
家庭用電源からカメラへ電源を供給します。

K-AC109J

単3形電池ホルダー D-BH109
市販の単3形電池4本を使用するときにセットするホルダーです。

D-BH109

ACアダプター／バッテリー充電器は、それぞれキットでの販売となります。

ストロボ関連

オートストロボ AF540FGZ
オートストロボ AF360FGZ

AF540FGZはガイドナンバー最大値が約54（ISO 100・m）、AF360FGZはガイドナンバー最大値が約36（ISO 100・m）のP-TTL対応のオートストロボです。スレーブ機能や光量比制御撮影、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、スローシンクロ撮影、後幕シンクロ撮影などが可能です。

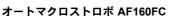
AF540FGZ

AF360FGZ

オートストロボ AF200FG

ガイドナンバー最大値が約20（ISO 100・m）のP-TTL対応のオートストロボです。AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせた光量比制御撮影、スローシンクロ撮影などが可能です。

AF200FG

オートマクロストロボ AF160FC

近接撮影用のストロボシステムで、小さな被写体の無影撮影などができます。従来のTTLオートストロボ機能にも対応し、同梱のアダプターリングと組み合わせて、幅広くペンタックス製品に利用できます。

AF160FC

ホットシューアダプター FG

延長コード F5P

ホットシューアダプター FG

オフカメラシューアダプター F
外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コードです。

オフカメラシューアダプター F

オフカメラシュークリップ CL-10
AF540FGZ／AF360FGZをワイヤレスで使用するときに、ストロボを机やスタンドなどに固定するための大型クリップです。

オフカメラシュークリップ CL-10

ファインダー関連

拡大アイカップ O-ME53
ファインダー倍率を約1.18倍拡大させるアクセサリーです。
本体のファインダー倍率が約0.85倍のK-rに装着すると、合成倍率が約1.0倍となり、マニュアルでのピント合わせが容易になります。

拡大アイカップ O-ME53

マグニファイヤー FB
ファインダー中央部を2倍に拡大して見るためのアクセサリーです。
蝶番式になっていますので、接眼部を跳ね上げて全視野を見られるようにもできます。

マグニファイヤー FB

レフコンバーター A
ファインダーを見る角度を90°間隔に変えることができるアクセサリーです。倍率は1倍／2倍に切り替えることができます。

レフコンバーター A

視度調整レンズアダプター M
視度を調整するためのアクセサリーです。ファインダーの接眼部に取り付けて使用します。
約–5～+3m^{-1}（毎メートル）までの8種類をご用意していますので、ご自分の視力に合った視度調整レンズアダプターをお使いください。

視度調整レンズアダプター M

アイカップ FQ（※）

MEファインダーキャップ

リモートコントロール

カメラ前面4m以内からのリモコン撮影ができます。

リモートコントロール F

防水リモートコントロール O-RC1

カメラケース／ストラップ

カメラケース O-CC84

カメラストラップ O-ST53（※）

ハンドストラップ O-ST991

ハンドストラップ O-ST992

フリーレングスストラップ O-ST842

イメージセンサークリーニングキット O-ICK1

カメラのCMOSセンサーや、レンズなどの光学製品の清掃に使用します。

その他

ボディマウントキャップ K

ホットシューカバー FK（※）

USBケーブル I-USB7（※）

AVケーブル I-AVC7

エラーメッセージ

エラーメッセージ	内容
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードの容量いっぱいに画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.52、p.84） 次の操作をすると、保存できる可能性があります。 ・記録形式をJPEGに変更する（p.195） ・JPEG 記録サイズ／ JPEG 画質を変更する（p.192、p.193）
画像がありません	SDメモリーカードに再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません	このカメラでは再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
カードが入っていません	カメラにSDメモリーカードがセットされていません。（p.52）
このカードは利用できません	カメラがサポートしていないメモリーカードがセットされています。
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合もありますが、カメラでは使用できません。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、他の機器でフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。カメラでフォーマットしてからお使いください。（p.268）
カードがロックされています	ライトプロテクトスイッチがロックされたSDメモリーカードがセットされています。SDメモリーカードのロックを外してください。（p.53）
電子的にロックされています	SDメモリーカードのセキュリティ機能によって保護されています。
この画像を拡大表示できません	拡大不可能な画像を拡大表示しようとしています。
この画像はプロテクトされています	消去しようとしている画像がプロテクトされています。画像のプロテクトを外してください。（p.240）

エラーメッセージ	内容
電池容量がなくなりました	バッテリー／電池残量がありません。十分に充電されたバッテリーまたは新しい電池と交換してください。（p.43）
電池容量がたりないため クリーニングを 行えません	センサークリーニング時にバッテリー／電池容量が足りない場合に表示されます。十分に充電されたバッテリーまたは新しい電池と交換するか、ACアダプターキットK-AC109J（別売）を使用してください。（p.50）
電池容量がたりないため ピクセルマッピングを 行えません	ピクセルマッピング時にバッテリー／電池容量が足りない場合に表示されます。十分に充電されたバッテリーまたは新しい電池と交換するか、ACアダプターキットK-AC109J（別売）を使用してください。（p.50）
フォルダーが作成できません	最大のフォルダーNo.（999）／ファイルNo.（9999）が使用されているため、画像が保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。（p.268）
画像を保存 できませんでした	SDメモリーカードの異常で、撮影した画像が保存できませんでした。
設定を正しく 保存できませんでした	SDメモリーカードが容量いっぱいまで使用されていて、DPOF設定が保存できません。不要な画像を消去して、再度DPOF設定をしてください。（p.84）
正しく処理できませんでした	マニュアルホワイトバランス測定／ダストアラート検知に失敗しました。もう一度やり直してください。（p.202、p.316）
これ以上 選択できません	インデックス（p.229）／選択削除（p.236）処理は、上限枚数（100枚）以上は選択できません。
処理できる 画像がありません	デジタルフィルター（p.253）を適用できる画像、またはRAW展開（p.259）できる画像がありません。
この画像を処理できません	他のカメラで撮影した画像に対してリサイズ（p.250）／トリミング（p.251）／デジタルフィルター（p.253）／RAW展開（p.259）を実行した場合、または最小サイズの画像に対してリサイズ／トリミングを実行した場合に表示されます。
画像の作成に 失敗しました	インデックスで画像の作成に失敗しました。（p.229）

エラーメッセージ	内容
高温のため ライブビューを 使用できません	カメラ内部の温度が上昇したため、ライブビューが使用できません。**OK**ボタンを押し、温度が下がってからライブビューを実行してください。
ライブビューを 開始できません	「**C**カスタム4」メニューの「22. 絞りリングの使用」が「禁止」に設定されていてレンズの絞りリングが**A**位置以外、または**A**位置を持たないレンズを装着し、ライブビューを実行しようとした場合に表示されます。
このモードでは 設定することができません	撮影モードがピクチャーモード／**SCN**（シーン）モード／（動画）モードのときに、設定できない機能を設定しようとしています。

困ったときは

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリー／電池を入れ直してみてください。また、ミラーが上がったままになった場合には、バッテリー／電池を入れ直してから電源を入れるとミラーが下がります。これらを行いカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。
修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリー／電池が入っていない	バッテリー／電池が入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリー／電池の入れ方が間違っている	バッテリー／電池の挿入方向を確認してください。 バッテリー室の＋／－表示に従ってバッテリー／電池を入れ直してください。（p.45、p.46）
	バッテリー／電池の残量がない	容量のあるバッテリー／電池に交換するか、ACアダプターキットK-AC109J（別売）を使用してください。（p.50）
シャッターがきれない	レンズの絞りが**A**位置以外になっている	絞りを**A**位置にするか（p.104）、「**C**カスタム4」メニューの「22. 絞りリングの使用」で「許可」を選択してください。（p.314）
	内蔵ストロボが充電中	充電が完了するまで待ってください。
	SDメモリーカードに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.52、p.84）
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの（青空や白壁など）、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。あるいはマニュアルフォーカスを使用してください。（p.134）

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	AFエリアに被写体が入っていない	ファインダー中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。(p.132)
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影してください。
	フォーカスモードレバーが**MF**になっている	フォーカスモードレバーを**AF**にしてください。(p.122)
フォーカスロックができない	AFモードが**AF.C**になっている	AFモードを**AF.C**に設定(**AF.A**時の自動設定も含む)しているときは、合焦後もピントが固定(フォーカスロック)されず、シャッターボタン半押し中は被写体のピントを追い続けます。ピントを合わせたいものが決まっている場合は、AFモードを**AF.S**(シングルモード)にし、フォーカスロックを用いて撮影してください。(p.125)
	撮影モードが、**SCN**モードの／／／になっている	撮影モードを(動体)、**SCN**(シーン)モードの(ステージライト)／(ナイトスナップ)／(キッズ)／(ペット)以外にしてください。(p.91)
AEロックが働かない	シャッター速度が**Bulb**になっている	シャッター速度を**Bulb**以外にしてください。(p.113)
内蔵ストロボが発光しない	ストロボモードが／になっているときは、被写体が明るいとストロボは発光しません	ストロボモードを(手動発光)または(手動発光＋赤目軽減)にしてください。(p.75)
	モードダイヤルがになっている	モードダイヤルを(ストロボオフ)以外に合わせてください。(p.91)
	SCNモードで／／／／／になっている	**SCN**(シーン)モードを(夜景)／(夕景)／(ステージライト)／(夜景HDR)／(キャンドルライト)／(美術館)以外にしてください。(p.93)
パワーズームが動かない	このカメラはパワーズームに対応していません	マニュアルズームをご使用ください。(p.74)

現象	原因	対処方法
パソコンとのUSB 接続がうまくいかない	転送モードが「PTP」になっている	「🔧詳細設定2」メニューの「USB接続」を「MSC」に切り替えてください。(p.293)
手ぶれ補正が効かない	手ぶれ補正機能がオフになっている	「Shake Reduction」をオンに設定してください。(p.142)
	手ぶれ補正機能が設定されていない	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合は、「焦点距離入力」画面でレンズ焦点距離を設定してください。(p.143)
	流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件で、手ぶれ補正機能の補正範囲を超えている	手ぶれ補正機能の補正範囲を超える場合は、「Shake Reduction」をオフにして、三脚などを使用してください。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影するか、「Shake Reduction」をオフにして、三脚などを使用してください。

主な仕様

型式

型式	P-TTLストロボ内蔵 TTL AE・AF一眼レフデジタルカメラ
レンズマウント	ペンタックスバヨネット KAF2マウント（AFカプラー・情報接点・電源接点付）
使用レンズ	KAF3、KAF2（パワーズーム非対応）、KAF、KAマウントレンズ

撮像部

撮像素子	種類：原色フィルター／CMOS、サイズ：23.6×15.8mm
有効画素数	約1240万画素
総画素数	約1290万画素
ダストリムーバル	撮像素子駆動およびSPコーティング、ダストアラート機能付き
感度（標準出力感度）	AUTO 200～12800（1EVステップ、1/2EVステップまたは1/3EVステップ）、カスタム設定により拡張ISO 100～25600使用可能、**Bulb**時はISO 1600まで

手振れ補正

方式	撮像素子シフト方式
有効補正範囲	最大4EV（レンズの種類や撮影条件により異なります）

記録形式

画像ファイル形式	RAW（独自／DNG）、JPEG（Exif 2.21）準拠、DCF2.0準拠
記録サイズ（画素数）	JPEG：12M（4288×2848ピクセル）、10M（3936×2624ピクセル）、6M（3072×2048ピクセル）、2M（1728×1152ピクセル） RAW：12M（4288×2848ピクセル）
画質	RAW（12bit）：PEF、DNG　JPEG：★★★（スーパーファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）、RAWとJPEGの同時記録可能
色空間	sRGB、AdobeRGB
記録媒体	SD、SDHCメモリーカード
記録フォルダー	日付（100_1018、100_1019・・・）／ PENTX（100PENTX、101PENTX・・・）

ファインダー

方式	ペンタミラーファインダー
視野率	約96％
倍率	約0.85×（50mm F1.4・∞）

アイレリーフ長	約19.1mm（見口枠より）、約21.6mm（レンズ中心より）
視度調節機能	約－2.5～＋1.5m^{-1}
フォーカシングスクリーン	ナチュラルブライトマットII、固定式

ライブビュー

方式	撮像素子によるTTL方式
フォーカス	コントラスト検出+顔検出、コントラスト検出、位相差検出
表示	視野率約100%、拡大表示（**AF**時: 2×、4×、6×／**MF**時:2×、4×、6×、8×、10×）、グリッド表示（16分割表示、黄金分割表示、スケール表示）、白とび黒つぶれ警告表示、ヒストグラム表示

画像モニター

形式	TFTカラー LCD、広視野角タイプ
イメージサイズ	3.0型
ドット数	約92.1万ドット
調整	明るさ調整、色調整

プレビュー

方式	光学プレビュー、デジタルプレビュー（メニューにて⦿ボタンに割当可能）

ホワイトバランス

オート	撮像素子によるTTL方式
プリセット	太陽光、日陰、曇天、蛍光灯（**D**：昼光色、**N**：昼白色、**W**：白色、**L**：電球色）、白熱灯、ストロボ、**CTE**、マニュアル
マニュアル	モニター確認による設定
微調整	A-B軸、G-M軸で±7ステップで調整可

オートフォーカス

方式	TTL位相差検出式
測距センサー	SAFOX IX、11点測距（中央9点はクロスタイプ）
輝度範囲	EV-1～18（ISO 100）
AFモード	オートAF（**AF.A**）、シングルAF（**AF.S**）、コンティニュアスAF（**AF.C**）、**AF.S**はフォーカス優先・レリーズ優先切替可、**AF.C**はフォーカス優先・コマ速優先切替可
AFエリア	5点オート、11点オート、セレクト、中央
AF補助光	専用LEDによるAF補助光

露出制御

測光方式	TTL開放16分割測光、中央重点測光、スポット測光
露出範囲	EV1～21.5（ISO 200・50mm F1.4）
露出モード	オートピクチャーモード、ピクチャーモード（人物、風景、マクロ、動体、夜景人物、ストロボオフ） シーンモード（夜景／サーフ＆スノー／料理／夕景／ステージライト／ナイトスナップ／夜景HDR／キッズ／ペット／キャンドルライト／美術館） ※ステージライト／ナイトスナップ／夜景HDRではJPEGで固定 プログラム、感度優先、シャッター優先、絞り優先、マニュアル、バルブ
露出補正	±3EV（1/2EVステップ、1/3EVステップ選択可能）
AEロック	メニューにて**AF**/**AE-L**ボタンに割当可能（タイマー式：カスタム設定で設定した測光作動時間の2倍）、シャッターボタン半押しで継続

シャッター

方式	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	オート：1/6000秒～30秒、マニュアル：1/6000秒～30秒（1/3EVステップまたは1/2EVステップ）、バルブ

ドライブ

ドライブモード	1コマ、連続（Hi、Lo）、セルフタイマー（12秒後、2秒後）、リモコン（即、3秒後、連続）、オートブラケット（3コマ）
連続撮影	約6コマ/秒、JPEG（12M・★★★・連続Hi）：25コマまで、RAW：12コマまで 約2コマ/秒、JPEG（12M・★★★・連続Lo）：カード空き容量まで、RAW：36コマまで

ストロボ

内蔵ストロボ	オートポップアップ機能付P-TTL内蔵ストロボ、ガイドナンバー約16（ISO 200・m）、約12（ISO 100・m）、28mmレンズの画角（35ミリ判換算）をカバー
発光方式	P-TTL、赤目軽減、スローシンクロ、後幕シンクロ （対応外付ストロボにおいて）ハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ可能
シンクロ同調速度	同調速度1/180秒
ストロボ光量補正	－2.0～＋1.0EV

撮影機能

カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ほのか、銀残し、リバーサルフィルム、モノトーン
ノイズリダクション	長秒時NR、高感度NR
ダイナミックレンジ設定	ハイライト補正、シャドー補正
レンズ収差補正	ディストーション補正、倍率色収差補正
クロスプロセス	シャッフル、プリセット1～3、お気に入り1～3
デジタルフィルター	トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、色抽出、ソフト、トゥインクル、フィッシュアイ、カスタム
HDR撮影	オート、標準、誇張1、誇張2、誇張3、自動位置ズレ補正可
多重露出	撮影回数2～9回、自動露出調整
インターバル	撮影間隔指定（1秒～24時間）、最大撮影枚数999枚、開始トリガー（即時、時刻指定）

動画

ファイル形式	Motion JPEG（AVI）
記録サイズ	HD（1280×720、16：9、25fps）、VGA（640×480、4:3、25fps）
画質	★★★（スーパーファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
音声	内蔵モノラルマイク
記録時間	最長約25分、内部温度上昇時は自動終了
カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ほのか、モノトーン、リバーサルフィルム、銀残し
クロスプロセス	シャッフル、プリセット1～3、お気に入り1～3
デジタルフィルター	トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、色抽出、カラー

再生機能

再生方法	1画像、2画像比較、マルチ画面表示（4、9、16、36、81画面）、拡大（最大16倍まで、スクロール可、クイック拡大可）、回転表示、ヒストグラム（Yヒストグラム、RGBヒストグラム）、白とび黒つぶれ警告表示、詳細情報表示、著作権情報表示（撮影者名、著作権者名）、フォルダー表示、カレンダー表示、スライドショウ
消去機能	1画像消去、全画像消去、選択消去、フォルダー消去、クイックビュー消去
デジタルフィルター	トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、デッサン、水彩画、パステル、ポスタリゼーション、ミニチュア、ベースメイク、モノトーン、カラー、色抽出、ソフト、トゥインクル、フィッシュアイ、スリム、HDR、カスタム
RAW展開	記録形式（JPEG）、カスタムイメージ、ホワイトバランス、増減感、高感度NR、シャドー補正、ディストーション補正、倍率色収差補正、色空間

編集機能	リサイズ、トリミング（アスペクト比変更可、傾き修正可）、インデックス、動画編集（分割および不要部分削除）、動画フレーム画像JPEG保存

カスタマイズ機能

カスタムファンクション	22項目
モードメモリ	13項目
カスタムボタン	⦿ ボタン（グリーンボタン、カスタムイメージ、光学プレビュー、デジタルプレビュー、デジタルフィルター、クロスプロセス、ワンタッチRAW＋） **AF/AE-L** ボタン（AF、AE-L）
文字サイズ	標準、大きい
ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）
言語	日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、オランダ語、デンマーク語、スウェーデン語、フィンランド語、ポーランド語、チェコ語、ハンガリー語、トルコ語、ギリシャ語、ロシア語、韓国語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）
AF微調整	±10ステップ、一律調整
著作権情報	「撮影者名」「著作権者名」を画像ファイルに記録、同梱ソフトウェアで改ざんの有無を確認可能

電源

使用電池	充電式リチウムイオンバッテリー D-LI109 単3形電池ホルダー D-BH109（別売）使用時、単3形電池4本（リチウム電池、ニッケル水素充電池、アルカリ電池）
ACアダプター	ACアダプターキット K-AC109J（別売）
電池寿命	（D-LI109使用時） 撮影可能枚数…ストロボ50％発光：約470枚、 ストロボ発光なし：約560枚 再生時間…約300分 （単3形リチウム電池使用時） 撮影可能枚数…ストロボ50％発光：約1000枚、 ストロボ発光なし：約1600枚 再生時間…約620分 ※ 新品のリチウム電池使用、23℃、撮影枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

外部インターフェース

端子	USB 2.0（ハイスピード対応）／AV出力端子
USB接続	MSC／PTP
ビデオ出力方式	NTSC／PAL
無線通信	赤外線通信（IrSimple）

外形寸法・質量

外形寸法	約125mm（幅）× 97mm（高）× 68mm（厚）（突起部を除く）
質量	約544g（本体のみ）、約598g（専用電池、SDカード付き）

付属品

同梱物	USBケーブル I-USB7、ストラップ O-ST53、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI109、専用充電器 D-BC109、ソフトウェア（CD-ROM）S-SW110 <これ以降はカメラに装着状態で出荷>アイカップ FQ、ホットシューカバー FK、ボディマウントカバー
ソフトウェア	PENTAX Digital Camera Utility 4

用語解説

AdobeRGB

Adobe Systems社が商業印刷原稿作成用に推奨している色空間。sRGBよりも広い色再現域をもち、印刷での色再現域をほぼカバーできるため、パソコン上での画像編集段階において、印刷でしか再現できない色域情報を失うことがありません。なお、対応しないソフトウェアで開くと色が薄く見えてしまいます。

CMOSセンサー

レンズを通して入ってきた光を電気信号に変換する撮像素子。

DCF（Design rule for Camera File system）

電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、デジタルカメラ用のファイルシステムに関する規格。

DNG RAWファイル

DNG（Digital Negative）は、Adobe Systems 社が提唱する汎用のRAWファイルフォーマット。標準仕様のないRAW形式をDNG形式に変換することで、画像の可搬性が向上します。

DPOF（Digital Print Order Format）

画像を記録したカードに、プリントするコマや枚数などの情報を書き込むためのルール。DPOF対応のプリント取扱店に持っていくと、簡単にプリントすることができます。

EV（Exposure Value）

露出値。絞り値とシャッター速度の組み合わせで決まります。

Exif（Exchangeable image file format for digital still camera）

電子情報技術産業協会（JEITA）によって標準化された、デジタルカメラ用のファイルフォーマットに関する規格。

ISO感度

光の明るさを感じる度合い。ISO感度が高いほど、暗い所でも速いシャッター速度で撮影できるため、カメラぶれしにくくなります。しかし、ISO感度が上がるほど、画像のノイズが多くなります。

JPEG
画像の圧縮方式。このカメラでは画質を★★★（スーパーファイン）／★★（ファイン）／★（エコノミー）から選べます。JPEG形式で記録した画像は、パソコンで閲覧したり、電子メールに添付するのに適しています。

NTSC／PAL
ビデオ出力方式。主に日本、北米、韓国ではNTSCが用いられ、主にヨーロッパ諸国や中国ではPALが用いられています。

RAWデータ
CMOSセンサーからの生出力を記録した画像データ。RAWデータはカメラ内部で画像処理される前の生データなので、RAW以外では撮影前にしておかなければならない設定（ホワイトバランス・コントラスト・彩度・シャープネスなど）を、撮影された後に1コマ1コマ個別に設定できます。またRAWデータはJPEGの8bitデータに対し、16倍の情報量を持った12bitデータなので、大変豊かな階調表現が可能です。パソコンに転送し、付属のソフトウェアを使用することで、JPEGなど設定の異なる画像データを作成することができます。

sRGB（standard RGB）
IEC（International Electrotechnical Commission、国際電気標準会議）が定める色空間の国際規格。一般的なパソコン用モニターの標準値から定義された色空間で、Exifの標準色空間としても使用されています。

色温度
被写体を照らしている光源の色を数値で表したもの。絶対温度で表され、単位はケルビン（K）を使用します。色温度が高くなるにつれて光の色は青味を帯び、色温度が低くなるにつれ光の色は赤味を帯びていきます。

色空間
色スペクトルのうちで使用する範囲を定義したもの。デジタルカメラでは、Exifの定義により「sRGB」が標準として使われています。このカメラでは、sRGBより多くの色を表現できる「AdobeRGB」も色空間として使用できます。

画質
画像の圧縮率。圧縮率が低くなるにつれて画像はきめ細かく、圧縮率が高くなるにつれて画像は粗くなります。

カメラぶれ（手ぶれ）
シャッターが開いている間にカメラが動いてしまったために、被写体全体が流れたように写ってしまう現象。シャッター速度が遅いときに発生しがちです。
ISO感度を高めたり、ストロボを使ってシャッター速度を速くしたり、三脚などを使ってカメラを固定することで防止できます。また、カメラぶれはシャッターボタンを押す動作で発生することもあるので、手ぶれ補正機能やセルフタイマー、リモコンを使うのも有効です。

記録サイズ
画像の大きさを点（ピクセル）の数で表したもの。画像を構成する点（ピクセル）の数が多くなるほど、画像の大きさは大きくなります。

黒つぶれ
画像の暗い部分の階調が失われ、真っ黒になってしまうこと。

ケラレ
撮影した写真の周辺部がフードやフィルターなどでさえぎられて黒くなったり、レンズでストロボ光の一部がさえぎられて影になる現象。

減光（ND）フィルター
色調には影響を与えずに、明るさだけを調整するフィルターで、いろいろな濃度のものがあります。

絞り
光がレンズを通るときの光束（光の太さ）を広くしたり、狭めたりしてCMOSセンサーにあたる光の量を調整する機構のこと。

シャッター速度
シャッターを開き、光をCMOSセンサーにあてている時間。シャッター速度を速くしたり、遅くしたりすることで、CMOSセンサーにあたる光の量を調整します。

白とび
画像の明るい部分の階調が失われ、真っ白になってしまうこと。

測距点
ファインダー内でピントを合わせる位置。このカメラでは、オート／セレクト／スポットが選択できます。

測光方式
露出を決めるために、被写体の明るさを計測する方式。このカメラでは、分割測光／中央重点測光／スポット測光が選択できます。

ダイナミックレンジ（D-Range）
画像がどれだけ階調豊かに再現できるかを数値で表したもの。
デジタルカメラでは、銀塩フィルムの「ラチチュード」と同じ意味で使われます。
一般的に、ダイナミックレンジが広いと白とび黒つぶれが発生しにくく、ダイナミックレンジが狭いとシャープな画像を得られます。

ノイズリダクション
シャッター速度を遅くしたときや高感度で撮影したときに発生するノイズ（画像のざらつきやムラ）を減らす処理。

被写界深度
ピントが合って見える範囲。絞り値、レンズの焦点距離、被写体までの距離によって変わります。例えば、絞り値を大きくすると被写界深度は深くなり、小さくすると浅くなります。

ヒストグラム
画像の最も暗い部分から最も明るい部分までの階調の分布をグラフ化したもの。横軸が明るさ、縦軸が画素数を表しています。画像の露光状態を知りたいときに便利です。

ホワイトバランス
撮影時の光源に合わせて色温度を調整し、被写体を見た目どおりの色合いに補正する機能。

露出ブラケット
露出を自動で変えて撮影する機能。シャッターボタンを押したときに、補正なしの画像、マイナス補正した画像、プラス補正した画像を連続して撮影できます。

露出補正
シャッター速度と絞り値を変えて、画像の明るさを調整すること。

索引

記号

数字

A

B

C

D

E

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ほこり・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

製品の点検・修理について

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様ご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行って、お客様ご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。（全国一律料金）

※弊社修理受付後のお問い合わせは、ペンタックス 東京サービスセンターにて承ります。

電話受付

TEL 0120-97-0405 （フリーダイヤル）

受付時間　平日　8：00～21：00

土・日・祝日・年末年始　9：00～18：00

宅配便・郵便による修理受付、修理に関するお問い合わせ

PENTAX イメージング・システム事業部　東京サービスセンター

TEL 03-3960-5140（代）　FAX 03-3960-5147

〒174-0041　東京都板橋区舟渡1-12-11　ヘリオス II ビル3階

営業時間　9：00～17：30

休業日　土・日・祝日および弊社休業日

PENTAX イメージング・システム事業部　大阪サービスセンター

TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612

〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階

営業時間　9：00～17：00

休業日　土・日・祝日および弊社休業日

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス **http://www.pentax.jp/**

［PENTAX イメージング・システム製品に関するお問い合わせ］
お客様相談センター

ナビダイヤル 0570-001323
（市内通話料金でご利用いただけます。）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、右記の電話番号をご利用ください。 **TEL 03-3960-5705（代）**
FAX 03-3960-4976

営業時間 9：00～18：00（平日）
10：00～17：00（土・日・祝日）
休業日 年末年始およびビル点検日

［ショールーム・写真展・修理受付］
ペンタックスフォーラム **TEL 03-3348-2941（代）**
FAX 03-3345-8076

〒163-0690 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB（中地下1階）
営業時間 10：30～18：30
休業日 毎週火曜日、年末年始およびビル点検日

大阪サービスセンター **TEL 06-6271-7996（代）**
FAX 06-6271-3612

〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間 9：00～17：00
休業日 土・日・祝日および弊社休業日

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属の CD-ROM と当社ホームページから登録が可能です。p.301 を参照してください。

HOYA 株式会社
PENTAX イメージング・システム事業部
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-35-7

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
58186

H01-201008
Printed in Philippines